



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 前提条件
 - 2.3. 対象読者
 - 2.4. IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の機能
 - 2.5. スタンドアローン構成と分散構成
 - 2.6. 用語解説
- 3. インストール前に
 - 3.1. 注意事項
 - 3.2. 運用マシン構成例
- 4. セットアップの流れ
 - 4.1. スタンドアローン構成
 - 4.2. 分散構成
- 5. ミドルウェアのセットアップ
 - 5.1. スタンドアローン構成
 - 5.2. 分散構成
- 6. 連携エンジンのセットアップ
 - 6.1. 連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ
 - 6.2. 連携エンジン PDFコンバータXP のインストール
 - 6.3. 連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ
- 7. WARファイルの作成
 - 7.1. スタンドアローン構成
 - 7.2. 分散構成
- 8. ミドルウェア製品の起動・停止
 - 8.1. スタンドアローン構成
 - 8.2. 分散構成
- 9. デプロイ
- 10. テナント環境セットアップ
- 11. IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定
 - 11.1. 環境変数
 - 11.2. 環境変数の確認
- 12. ライセンスの登録
- 13. アップデート・パッチの適用・モジュール構成の変更
 - 13.1. アップデート
 - 13.2. パッチ
 - 13.3. モジュール構成の変更
- 14. アンインストール
 - 14.1. スタンドアローン構成
 - 14.2. 分散構成
- 15. 付録
 - 15.1. WSDLファイル
 - 15.2. 連携エンジンバージョン
 - 15.3. 連携エンジンのバージョンの確認方法

変更年月日	変更内容
2013-10-11	初版
2014-04-01	第2版 下記を追加・変更しました。 「 warファイルのデプロイ 」手順を修正
2014-12-01	第3版 下記を追加・変更しました。 ドキュメント全般 Windows Server 2012 R2 向けの記述を追加
2015-07-01	第4版 下記を追加・変更しました。 設定ファイルの編集、サーバ再起動の記述を追加
2016-08-01	第5版 下記を追加・変更しました。 PDFオートコンバータEXに関する注意事項を追加
2016-12-01	第6版 下記を追加・変更しました。 既存環境からのバージョンアップ手順を追加
2017-08-01	第7版 下記を追加・変更しました。 PDFオートコンバータEXインストール・ガイドを更新
2018-04-01	第8版 下記を追加・変更しました。 「 PDF変換サーバ (Windows) での作業 (既存環境のバージョンアップ) 」を修正 「サポート」の章を削除
2018-08-01	第9版 下記を追加しました。 「 インストール前に 」の章に「Windows Update」の記載を修正
2018-12-01	第10版 下記を追加・変更しました。 「 PDF変換サーバ (Windows) での作業 」の章で「OSを再起動してください。」と記述を追加 「 PDF変換サーバ (Windows) での作業 (既存環境のバージョンアップ) 」の章で「OSを再起動してください。」と記述を追加 「 PDF変換サーバ (Windows) での作業 」の章で「OSを再起動してください。」と記述を追加 「 intra-mart Accel Platform での作業 」の章に「PDF変換サーバへの接続のリトライ回数」の記載を追加 - 表記のゆれを訂正
2020-04-01	第11版 下記を追加・変更しました。 - Windows 7 / Windows Server 2008 の記述を削除 「 プロジェクトの作成とモジュールの選択 」に「アプリケーションを複数同時に選択する場合は、必ず同じバージョンを選択してください。」と記述を追加 - CD-ROMの記述を削除 - UACの監視下にあるディレクトリをインストール先として避ける記述を追加 「 PDFオートコンバータEX インストール・ガイド 」および「 PDFコンバータXP インストール・ガイド 」を更新 「 PDFオートコンバータEX のインストール 」 「 PDFオートコンバータEX の再インストール 」 隠しフォルダのパスの誤記を修正

変更年月日	変更内容
2020-08-01	第12版 下記を追加・変更しました。 「インストール前に」-「全体のインストール作業の流れ」の intra-mart Accel Platform サーバでのインストール作業から「jarファイルの配置」を削除 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」と「PDFコンバータXP インストール・ガイド」のリンクを公開ドキュメントのリンクへ変更 「付録」を追加 「WSDLファイル」を移動 「連携エンジンバージョン」を追加
2020-12-01	第13版 下記を追加・変更しました。 「全体のインストール作業の流れ」の記述を変更 「必要なライセンス」の記述を変更 「注意事項」の記述を変更 「サーバ構成について」の記述を変更 「運用マシン構成例」の記述を変更 「インストール・環境設定」 「PDF変換サーバでの作業」を「PDF変換サーバ（Windows）での作業」から変更し、記述を変更 「Javaランタイムのインストール」の記述を変更 「Apache Tomcat のインストール」の記述を変更 「PDFコンバータXP のインストール」の記述を変更 「PDFオートコンバータEX のインストール」の記述を変更 「環境変数の設定」の記述を変更 「warファイルのデプロイ」の記述を変更 「Apache Tomcat の起動」のコラムを削除 「intra-mart Accel Platform での作業」 「設定ファイルの編集」の記述を変更 「アンインストール」 「PDF変換サーバでの作業」を「PDF変換サーバ（Windows）での作業」から変更し、記述を変更 「Javaランタイムのアンインストール」の記述を変更 「Apache Tomcat のアンインストール」の記述を変更 「PDFコンバータXP のアンインストール」の記述を変更 「PDFオートコンバータEX のアンインストール」の記述を変更 「環境変数の削除」の記述を変更 「intra-mart Accel Platform での作業（既存環境のバージョンアップ）」 「設定ファイルの編集」の記述を変更 「PDF変換サーバでの作業（既存環境のバージョンアップ）」を「PDF変換サーバ（Windows）での作業（既存環境のバージョンアップ）」から変更し、記述を変更 「PDFコンバータXP の再インストール」の記述を変更 「PDFオートコンバータEX の再インストール」の記述を変更 「環境変数の設定」の記述を変更 「warファイルのデプロイ」の記述を変更 「Apache Tomcat の起動」のコラムを削除 「連携エンジンバージョン」を更新
2021-04-01	第14版 下記を追加・変更しました。 「連携エンジンバージョン」を更新

変更年月日	変更内容
2021-08-01	第15版 下記を追加・変更しました。 ■ 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」、および、「PDFコンバータXP インストール・ガイド」を更新 ■ 「PDFコンバータXP のインストール」へ注意を追加 ■ 「PDFコンバータXP の再インストール」へ注意を追加 ■ 「連携エンジンバージョン」を更新
2021-12-01	第16版 下記を追加・変更しました。 ■ 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」を更新 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2021 Winter に対応したバージョンを追加 ■ 「PDFオートコンバータEX のインストール」で32bitに関する記載を削除 ■ 「PDFコンバータXP の再インストール」で32bitに関する記載を削除 ■ 「PDFオートコンバータEX の再インストール」で32bitに関する記載を削除
2022-06-01	第17版 下記を追加・変更しました。 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2022 Spring に対応したバージョンを追加
2022-12-01	第18版 下記を追加・変更しました。 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2022 Winter に対応したバージョンを追加
2023-04-01	第19版 下記を追加・変更しました。 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2023 Spring に対応したバージョンを追加

変更年月日	変更内容
2023-10-01	第20版 下記を追加・変更しました。 ■ 「スタンドアローン構成と分散構成」を追加 ■ 「インストール前に」 ■ 「全体のインストール作業の流れ」を削除 ■ 「セットアップの流れ」を追加 ■ 「ミドルウェアのセットアップ」を追加 ■ 「インストール・環境設定」 ■ 「Apache Tomcat のセットアップ」を追加し、次の項目を「Apache Tomcat のセットアップ」に移動 ■ 「Javaランタイムのインストール」 ■ 「Apache Tomcat のインストール」 ■ 「環境設定」を追加し、次の項目を「環境設定」に移動 ■ 「PDFオートコンバータEX の環境設定」 ■ 「環境変数の設定」 ■ 「warファイルのデプロイ」 ■ 「設定ファイルの編集」 ■ 「Apache Tomcat の起動」 ■ 「環境変数の設定」から intra-mart Accel Documents Secure Download Option の記述を削除 ■ 「WARファイルの作成」を追加 ■ 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」の項目を「WARファイルの作成」に移動し、WARファイルの記述を削除 ■ 「ミドルウェア製品の起動・停止」を追加 ■ 「デプロイ」を追加 ■ 「テナント環境セットアップ」を追加 ■ 「ライセンスの登録」を追加 ■ 「アップデート・パッチの適用・モジュール構成の変更」を追加 ■ 「既存環境のバージョンアップ」の記述を「アップデート」に移動 ■ 「環境設定」を追加し、次の項目を「環境設定」に移動 ■ 「PDFオートコンバータEX の環境設定」 ■ 「環境変数の設定」 ■ 「warファイルのデプロイ」 ■ 「設定ファイルの編集」 ■ 「Apache Tomcat の起動」 ■ 「環境変数の設定」から intra-mart Accel Documents Secure Download Option の記述を削除 ■ 「WARファイルの作成」を追加 ■ 「プロジェクトの再作成とモジュールの選択」の項目を「WARファイルの作成」に移動し、WARファイルの記述を削除 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2023 Autumn に対応したバージョンを追加
2024-04-01	第21版 下記を追加・変更しました。 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2024 Spring に対応したバージョンを追加

変更年月日	変更内容
2024-10-01	第22版 下記を追加・変更しました。 ■ 「はじめに」 ■ 「前提条件」に Office系→PDF変換 を使用する場合の記述を追加 ■ 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の機能」を追加 ■ 「スタンドアローン構成と分散構成」のサポート対象の構成について記述を変更 ■ 「用語解説」に 連携エンジン HTMLtoPDF に関する記述を追加 ■ 「インストール前に」 ■ 「インストール前に必要な確認事項」を削除 ■ 「正常に動作しない環境」を削除 ■ 「注意事項」を見直し、記述を変更 ■ 「サーバ構成について」を削除 ■ 「運用マシン構成例」 ■ 「スタンドアローン構成」を追加 ■ 「分散構成（Office系→PDF変換）」を追加 ■ 「分散構成（HTML→PDF変換）」を追加 ■ 「運用マシン構成例」の記述を「分散構成（Office系→PDF変換）」に移動 ■ 「セットアップの流れ」 ■ 「スタンドアローン構成」を追加 ■ 「分散構成」を追加 ■ 「intra-mart Accel Platform」を「分散構成」に移動し、リンク先を変更 ■ 「PDF変換サーバ」を「分散構成」に移動し、リンク先を変更、および、連携エンジン HTMLtoPDF に関する記述を追加 ■ 「インストール・環境設定」の見出しを「セットアップ」に変更し、構成、および、記述を変更 ■ 「アップデート」の構成、および、記述を変更 ■ 「アンインストール」の構成、および、記述を変更 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2024 Autumn に対応したバージョンを追加
2024-10-31	第23版 下記を追加・変更しました。 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF（Linux）」 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF のインストール」に Xvfb に関連するコマンドの例を追加 ■ 「環境変数」にD-Busの環境変数の設定手順を追加
2025-04-01	第24版 下記を追加・変更しました。 ■ 「連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動」を追加 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2025 Spring に対応したバージョンを追加 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF（Linux）」 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF のインストール」に共有ライブラリに関する注意を追加 ■ 「環境変数」の権限設定に関する注意に設定手順を追加

変更年月日	変更内容
2025-10-01	第25版 下記を追加・変更しました。 ■ 「 セットアップの流れ 」 ■ 「 セットアップ 」 の構成の変更に伴い、リンクや記述を変更 ■ 「 セットアップ 」 ■ 「 スタンドアローン構成 」 ■ 「 設定ファイルの編集 」 を削除 ■ 「 設定ファイルの追加・編集 」 を追加 ■ 「 環境変数 」 を追加 ■ 「 分散構成 」 ■ 「 intra-mart Accel Platform 」 ■ 「 設定ファイルの編集 」 を削除 ■ 「 設定ファイルの追加・編集 」 を追加 ■ 「 環境変数 」 を追加 ■ 「 PDF変換サーバ 」 ■ 「 JDK のインストール 」 にバージョンに関する注意を追加 ■ 「 Apache Tomcat のインストール 」 にバージョンに関する注意を追加 ■ 「 連携エンジン PDFコンバータXP のインストール 」 に Windows の設定に関する注意を追加 ■ 「 連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動 」 に起動対象のサービスに関する記述を追加 ■ 「 アップデート・パッチの適用・モジュール構成の変更 」 ■ 「 スタンドアローン構成 」 ■ 「 設定ファイルの編集 」 を削除 ■ 「 環境変数 」 を追加 ■ 「 分散構成 」 ■ 「 設定ファイルの編集 」 を削除 ■ 「 環境変数 」 を追加 ■ 「 アンインストール 」 ■ 「 スタンドアローン構成 」 ■ 「 環境変数の削除 」 を追加 ■ 「 分散構成 」 ■ 「 環境変数の削除 」 を追加 ■ 「 連携エンジンバージョン 」 に 2025 Autumn に対応したバージョンを追加 ■ 「 共通 」 ■ 「 HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml > 」 の設定値に関する記述を変更 ■ 「 環境変数 」 を追加 ■ 「 アプリケーションの削除 」 に設定ファイルの削除手順を追加 ■ 「 環境変数の削除 」 を追加
2025-10-31	第26版 下記を追加・変更しました。 ■ 「 2024 Autumn(8.0.25) にパッチを適用する際の個別作業 」 を追加 ■ 「 2025 Spring(8.0.26) にパッチを適用する際の個別作業 」 を追加

変更年月日	変更内容
2026-04-01	第27版 下記を追加・変更しました。 ■ 「はじめに」 ■ 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の機能」に提供形式の記述を追加 ■ 「セットアップの流れ」 ■ 「スタンドアローン構成」の連携エンジンのリンク先を変更 ■ 「PDF変換サーバ」の連携エンジンのリンク先を変更 ■ 「セットアップ」 ■ 「スタンドアローン構成」 ■ 「Xvfb のインストール可否確認」を追加 ■ 「Xvfb 起動」に Wayland 環境に関する注意を追加 ■ 「デスクトップ環境の構築」を追加 ■ 「HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >」に設定ファイルの項目を追加 ■ 「IM-LogicDesigner連携 < pdfa-logic-config.xml >」を追加 ■ 「環境変数の確認」を追加 ■ 「分散構成」 ■ 「intra-mart Accel Platform」 ■ 「HTML→PDF変換 < pdfa-htmltopdf-config.xml >」に設定ファイルの項目を追加 ■ 「IM-LogicDesigner連携 < pdfa-logic-config.xml >」を追加 ■ 「環境変数の確認」を追加 ■ 「PDF変換サーバ」 ■ 「Xvfb のインストール可否確認」を追加 ■ 「Xvfb 起動」に Wayland 環境に関する注意を追加 ■ 「デスクトップ環境の構築」を追加 ■ 「アップデート・パッチの適用・モジュール構成の変更」 ■ 「スタンドアローン構成」 ■ 「環境変数の確認」を追加 ■ 「分散構成」 ■ 「環境変数の確認」を追加 ■ 「アンインストール」 ■ 「スタンドアローン構成」 ■ 「デスクトップ環境のアンインストール」を追加 ■ 「分散構成」 ■ 「デスクトップ環境のアンインストール」を追加 ■ 「連携エンジンバージョン」に 2026 Spring に対応したバージョンを追加、および、バージョンに関する注意を追加 ■ 「共通」 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF (Windows) 」 ■ 「環境変数」に環境変数の確認に関するコラムを追加 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF (Linux) 」 ■ 「Xvfb のインストール可否確認」を追加 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF のインストール」の手順を修正、インストーラに関する記述を追加、および、Wayland 環境に関する注意を追加 ■ 「環境変数」に Wayland 環境に関する注意を追加、および、環境変数の確認に関するコラムを追加 ■ 「Xvfb 起動」に Wayland 環境に関する注意を追加 ■ 「HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >」にオプションを追加 ■ 「デスクトップ環境の構築」を追加 ■ 「連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール」に Wayland 環境に関する注意を追加

変更年月日	変更内容 「環境変数の削除」に Wayland 環境に関する注意を追加
	「デスクトップ環境のアンインストール」を追加 「HTML→PDF変換 < htmktopdf-config.xml >」に設定ファイルの項目を追加 「WARファイルの作成」 「アプリケーションの追加」にジョブ、および、IM-LogicDesigner連携 の記述を追加 「IM-LogicDesigner連携 < pdfa-logic-config.xml >」を追加 「環境変数」 「Windows の場合」に環境変数の確認に関するコラムを追加 「Linux の場合」に環境変数の確認に関するコラムを追加 「環境変数の確認」を追加
2026-10-01	第28版 下記を追加・変更しました。 - 全体の構成や記述を見直し 「必要なライセンス」を削除 「2024 Autumn(8.0.25) にパッチを適用する際の個別作業」 「連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定」の設定する章の記述を変更 「2025 Spring(8.0.26) にパッチを適用する際の個別作業」 「連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定」の設定する章の記述を変更 「連携エンジンバージョン」に 2026 Autumn に対応したバージョンを追加

本書の目的

本書では IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のセットアップ手順について説明します。



コラム

旧バージョンがインストール済みの場合は、旧バージョンをアンインストール後に、本バージョンをインストールしてください。

前提条件

リリースノートに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。

詳細については「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート](#)」-「[システム要件](#)」を参照してください。

また、Office系→PDF変換を使用する場合は、次のドキュメントに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。

- 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」
- 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」

対象読者

以下の利用者を対象としています。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のセットアップを行われる方

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の機能

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform には、次の機能があります。

機能	機能概要
Office系→PDF変換	特定の形式のファイルをPDFファイルに変換します。この機能は次の形式で提供されます。 ■ API ■ IM-LogicDesigner のタスク（IM-LogicDesigner連携）
HTML→PDF変換	intra-mart Accel Platform の画面（HTMLファイル）をPDFファイルに変換します。この機能は次の形式で提供されます。 ■ API ■ ジョブ/ジョブネット ■ IM-LogicDesigner のタスク（IM-LogicDesigner連携）

機能ごとにPDF変換の仕組みが異なるため、システム要件や対応する構成が異なります。

詳細については、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート](#)」-「[機能一覧](#)」を参照してください。

スタンドアローン構成と分散構成

本書におけるスタンドアローン構成と分散構成は次の構成を指します。

スタンドアローン構成

intra-mart Accel Platform と同じサーバに連携エンジンを導入する構成です。（IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の Office系→PDF変換 は、分散構成のみサポートしています。）

分散構成

intra-mart Accel Platform とは別のサーバ（PDF変換サーバ）に連携エンジンを導入する構成です。

用語解説

- Resin をインストールしたディレクトリを %RESIN_HOME% と略します。
- Apache HTTP Server をインストールしたディレクトリを %APACHE_HOME% と略します。
- Storage として使用するディレクトリを %PUBLIC_STORAGE_PATH% と略します。
- Webサーバ利用時の静的コンテンツを配置するディレクトリを %WEB_PATH% と略します。
- Apache Tomcat をインストールしたディレクトリを %CATALINA_HOME% と略します。
- 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしたディレクトリを %HTMLTOPDF_HOME% と略します。

注意事項

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の注意事項については、次を参照してください。

- 「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート](#)」 - 「[制限事項](#)」

Office系→PDF変換 を使用する場合は、次を参照してください。

- 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」 - 「4章. インストール前に」
- 「[タブレットや携帯端末においてPDFファイルを表示する際の注意点](#)」

運用マシン構成例

スタンドアローン構成

構成パターン	構成	説明
[1]	intra-mart Accel Platform （ Windows ） 1台	intra-mart Accel Platform サーバ（ Windows ） 1台で運用するケースです。
[2]	intra-mart Accel Platform （ Linux ） 1台	intra-mart Accel Platform サーバ（ Linux ） 1台で運用するケースです。

分散構成 （ Office系→PDF変換 ）

構成パターン	構成	説明
[1]	intra-mart Accel Platform （ Windows ） 1台 PDF変換サーバ （ Windows ） 1台	intra-mart Accel Platform サーバ（ Windows ） 1台と、PDF変換サーバ （ Windows ） 1台で運用するケースです。
[2]	intra-mart Accel Platform （ Linux ） 1台 PDF変換サーバ （ Windows ） 1台	intra-mart Accel Platform サーバ（ Linux ） 1台と、 PDF変換サーバ （ Windows ） 1台で運用するケースです。
[3]	intra-mart Accel Platform （ Linux ） 1台 PDF変換サーバ （ Windows ） 2台	intra-mart Accel Platform サーバ（ Linux ） 1台と、 PDF変換サーバ （ Windows ） 2台で運用するケースです。

分散構成 （ HTML→PDF変換 ）

構成パターン	構成	説明
[1]	intra-mart Accel Platform （ Windows ） 1台 PDF変換サーバ （ Windows ） 1台	intra-mart Accel Platform サーバ（ Windows ） 1台と、PDF変換サーバ （ Windows ） 1台で運用するケースです。
[2]	intra-mart Accel Platform （ Linux ） 1台 PDF変換サーバ （ Linux ） 1台	intra-mart Accel Platform サーバ（ Linux ） 1台と、 PDF変換サーバ （ Linux ） 1台で運用するケースです。

スタンドアローン構成

スタンドアローン構成でのセットアップ手順は次のフローチャートの通りです。

各ステップごとのセットアップ手順は一覧のリンク先を参照してください。

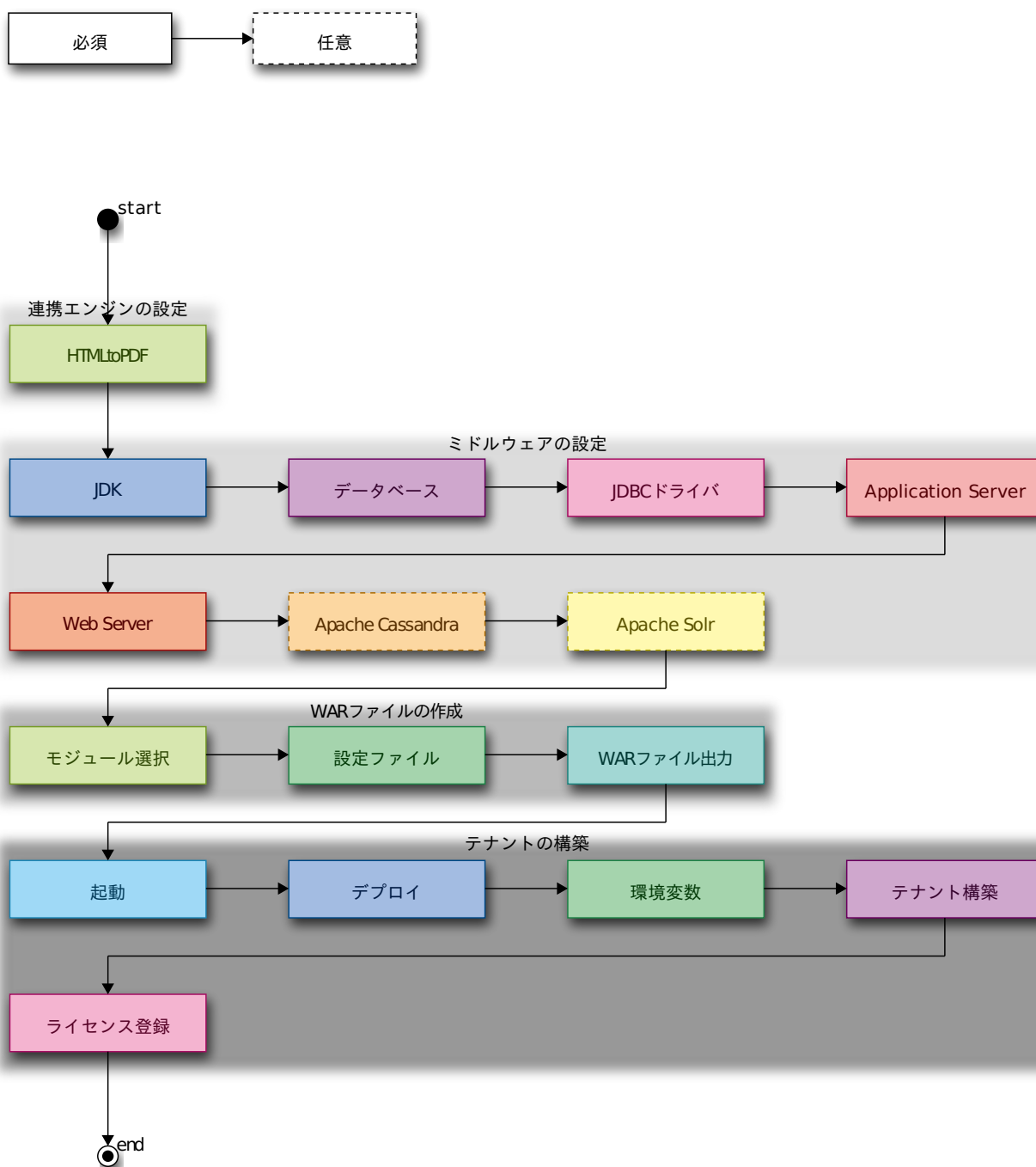


注意

スタンドアローン構成は、HTML→PDF変換の機能のみ対応しています。

凡例

- 必須・・・セットアップが必要な項目です。
- 任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。



Name	Description
start	
HTMLtoPDF	連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ - Windows / Linux
JDK	JDK
データベース	データベース
JDBCドライバ	JDBCドライバ
Application Server	Web Application Server
Web Server	Web Server
Apache Cassandra	Apache Cassandra
Apache Solr	Apache Solr
モジュール選択	プロジェクトの作成とモジュールの選択 - アプリケーションの追加
設定ファイル	基盤の設定ファイル - 設定ファイルの追加・編集
WARファイル出力	WARファイルの出力 - WAR ファイル・静的ファイルの出力
起動	Web Application Server の起動・停止
デプロイ	WARファイルのデプロイ
環境変数	IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定
テナント構築	テナント環境セットアップ
ライセンス登録	ライセンスの登録
end	

分散構成

分散構成 でのセットアップ手順は次のフローチャートの通りです。

各ステップごとのセットアップ手順は一覧のリンク先を参照してください。



注意

分散構成 は、Office系→PDF変換、および、HTML→PDF変換 の両機能ともに対応しています。



注意

Office系→PDF変換 は、連携エンジン PDFコンバータXP、および、連携エンジン PDFオートコンバータEX が必要です。

上記機能を使用する場合、PDFコンバータXP、および、PDFオートコンバータEX に関連する手順は実施してください。



注意

HTML→PDF変換 は、連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

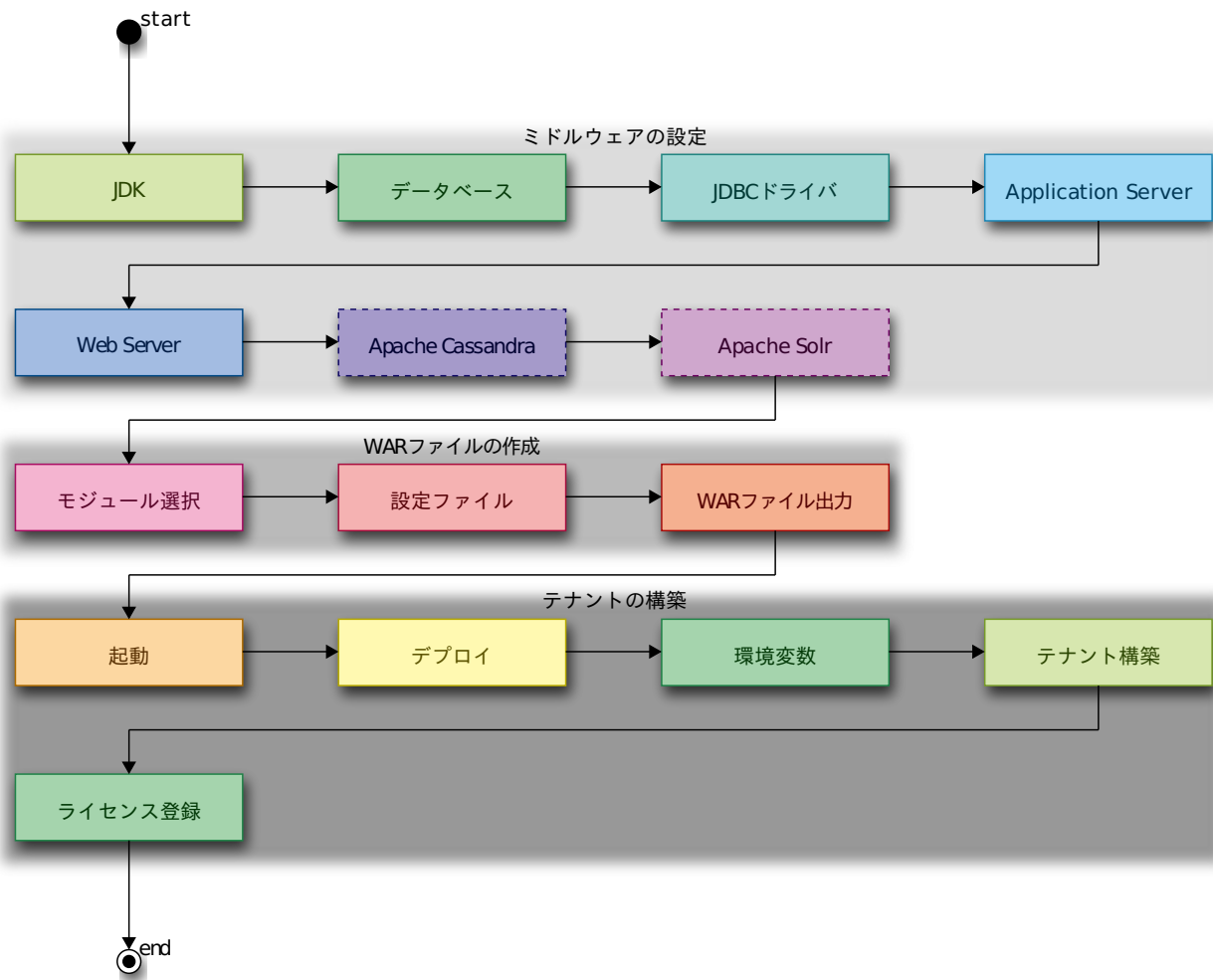
上記機能を使用する場合、HTMLtoPDF に関連する手順は実施してください。

intra-mart Accel Platform

凡例

- 必須・・・セットアップが必要な項目です。
- 任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。





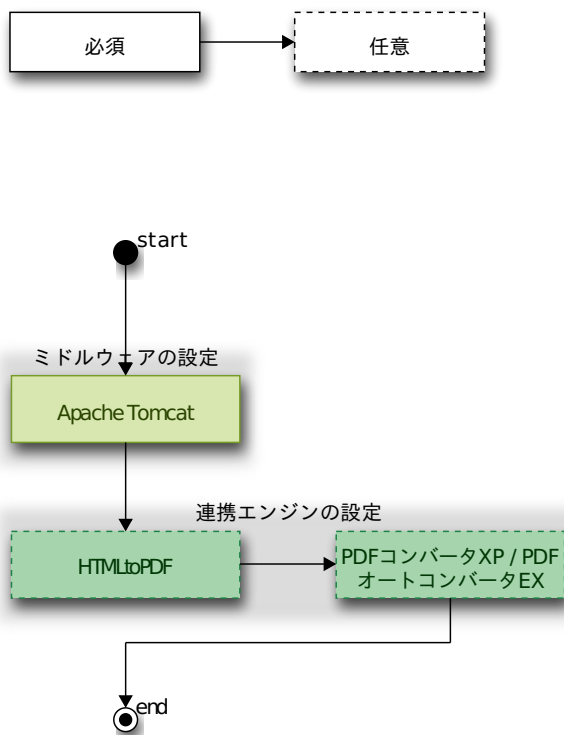
Name	Description
start	
JDK	JDK
データベース	データベース
JDBCドライバ	JDBCドライバ
Application Server	Web Application Server
Web Server	Web Server
Apache Cassandra	Apache Cassandra
Apache Solr	Apache Solr
モジュール選択	プロジェクトの作成とモジュールの選択 - アプリケーションの追加
設定ファイル	基盤の設定ファイル - 設定ファイルの追加・編集
WARファイル出力	WARファイルの出力 - WARファイル・静的ファイルの出力
起動	Web Application Server の起動・停止 - Apache Tomcat の起動・停止
デプロイ	WARファイルのデプロイ
環境変数	IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定
テナント構築	テナント環境セットアップ
ライセンス登録	ライセンスの登録

Name	Description
end	

PDF変換サーバ

凡例

- 必須・・・セットアップが必要な項目です。
- 任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。



Name	Description
start	
Apache Tomcat	Apache Tomcat のセットアップ
HTMLtoPDF	連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ - Windows / Linux
PDFコンバータXP / PDFオートコンバータEX	連携エンジン PDFコンバータXP のインストール / 連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ
end	

スタンドアローン構成

ミドルウェアのセットアップを行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[intra-mart Accel Platform を利用するためのミドルウェアのインストールと設定](#)」を参照してください。

分散構成

項目

- [intra-mart Accel Platform](#)
- [PDF変換サーバ](#)
 - [Apache Tomcat のセットアップ](#)
 - [JDK のインストール](#)
 - [Apache Tomcat のインストール](#)

intra-mart Accel Platform

ミドルウェアのセットアップを行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[intra-mart Accel Platform を利用するためのミドルウェアのインストールと設定](#)」を参照してください。

PDF変換サーバ



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してセットアップを行ってください。



注意

PDF変換サーバ での環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。



注意

Office系→PDF変換 の設定上、intra-mart Accel Platform と Apache Tomcat 間はSSL（暗号化）通信に対応していません。

Apache Tomcat のセットアップ

Apache Tomcat の構築手順を示します。

Apache Tomcat は PDF変換サーバ に構築します。

JDK のインストール

1. PDF変換サーバ に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインします。
2. JDK をインストールします。



注意

インストールする JDK のバージョンについては、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート](#)」-「[PDF変換サーバ](#)」を確認してください。



注意

PDF変換サーバ で使用する JDK のバージョンは、intra-mart Accel Platform で使用する JDK のバージョンと揃えてください。



コラム

次のサイトから JDK のダウンロード、および、インストール手順の確認ができます。

<https://www.oracle.com/java/technologies/downloads/>（2026年 10月 現在）

Apache Tomcat のインストール

1. PDF変換サーバ に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインします。
2. Apache Tomcat をインストールします。



注意

インストールする Apache Tomcat のバージョンについては、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート](#)」-「[PDF変換サーバ](#)」を確認してください。

Apache Tomcat は、上記システム要件の、最新のマイナーバージョンを使用してください。



注意

他のプロセスとポート番号が重複しないように設定してください。



コラム

次のサイトから Apache Tomcat のダウンロード、および、インストール手順の確認ができます。

<http://tomcat.apache.org/>（2026年 10月 現在）

連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ

Windows の場合

スタンドアローン構成

Windows の スタンドアローン構成 での、 連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ手順を示します。

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)
- [環境変数](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールする対象サーバに、管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 連携エンジン HTMLtoPDF の圧縮ファイル（htmltopdf.X.X.X.zip - Xの部分はバージョン番号）を解凍し、適切な場所に配置してください。



注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、連携エンジン HTMLtoPDF のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

C:\tool\htmltopdf



注意

インストールパスには、バージョン番号を含めないことを推奨します。

インストールパスには環境変数を設定するため、バージョン番号をパスに含めた場合、環境変数の再設定が必要となる場合があります。

環境変数

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の設定手順を示します。

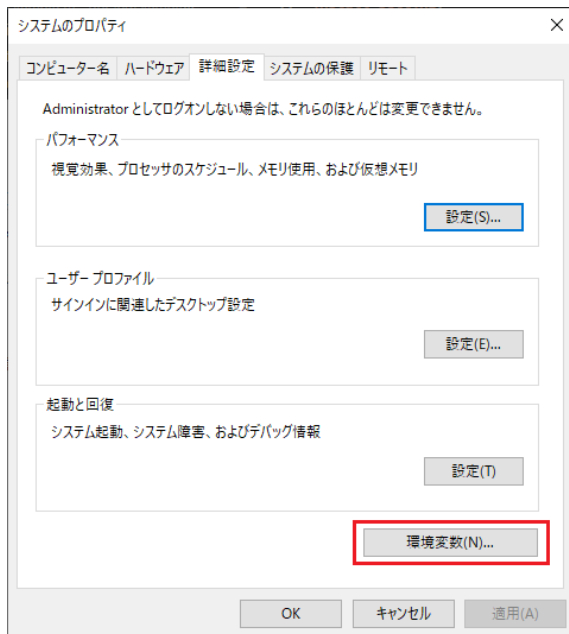
1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」-「システムの詳細設定」をクリックします。



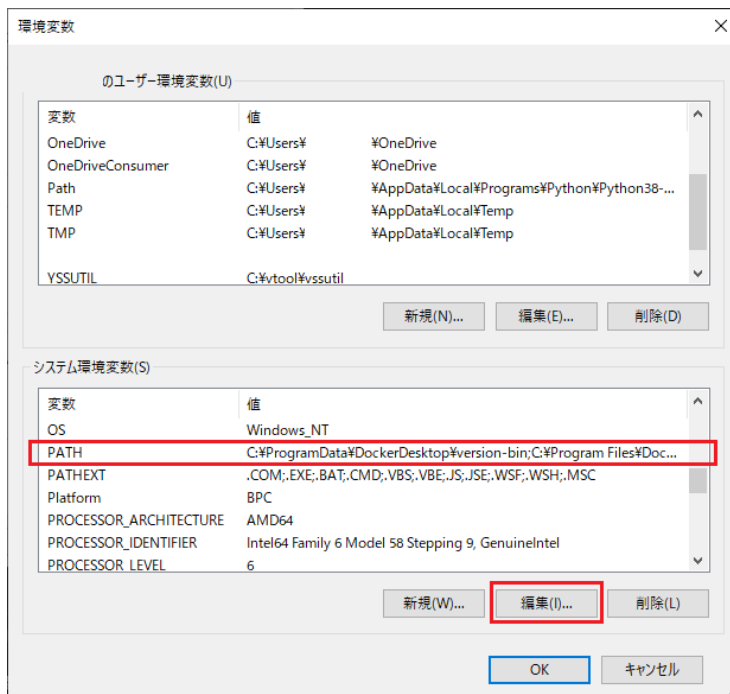
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

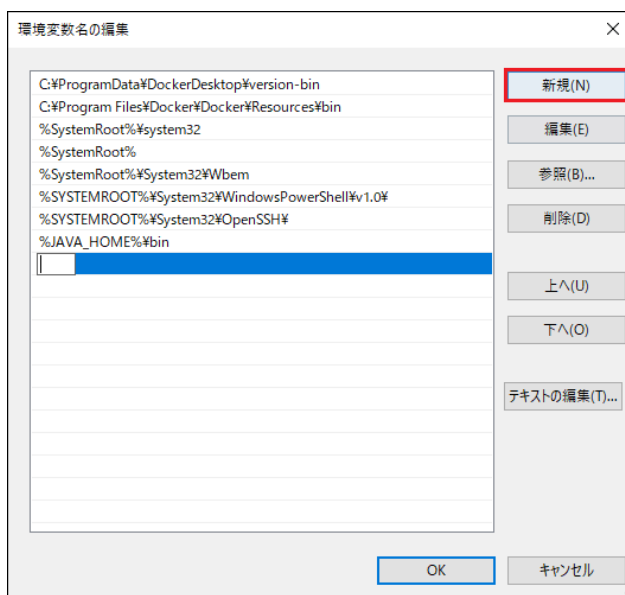
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



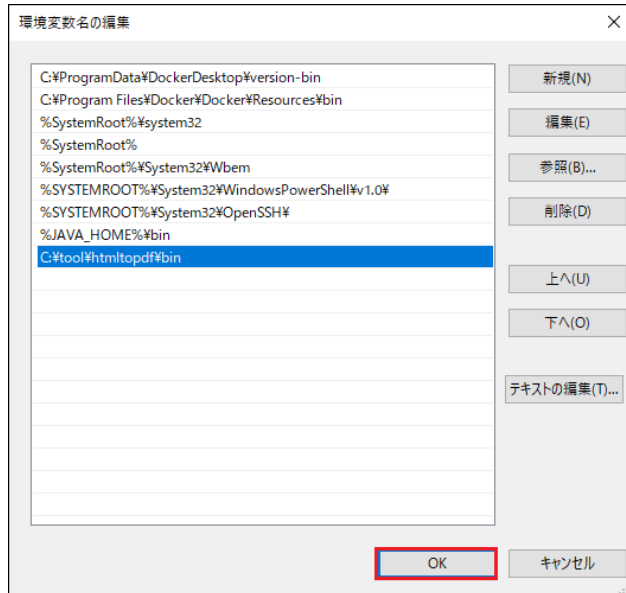
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



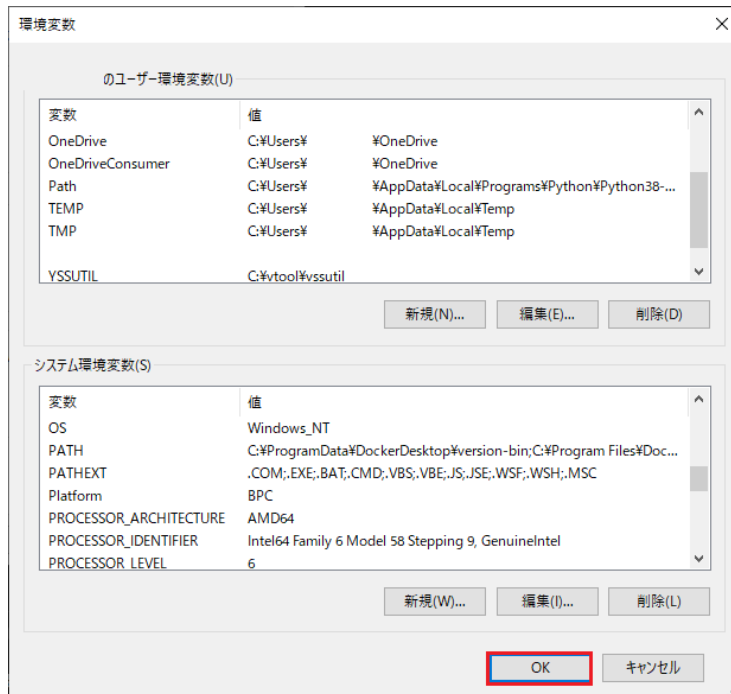
4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、「新規」をクリックします。



5. < %HTMLTOPDF_HOME% /bin >のパスを入力し、「OK」をクリックします。



6. 「OK」をクリックします。



7. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
$ htmltopdf -v
```

8. 画面にバージョン番号が表示されれば環境変数の設定は完了です。

```
$ htmltopdf 64Bit Vx.x.x.x
```

コラム

設定した環境変数が有効な環境変数となっているか、テナント環境セットアップ後に確認を行います。

確認手順は、次を参照してください。

- スタンドアローン構成 : 「[スタンドアローン構成](#)」
- 分散構成 : 「[分散構成](#)」

分散構成

Windows の 分散構成 での、 連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ手順を示します。



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してセットアップを行ってください。



注意

PDF変換サーバ での環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)
- [環境変数](#)
- [WARファイル設置](#)
- [設定ファイルの編集](#)
 - [HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールする対象サーバに、管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 連携エンジン HTMLtoPDF の圧縮ファイル (htmltopdf.X.X.X.zip - Xの部分はバージョン番号) を解凍し、適切な場所に配置してください。



注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、連携エンジン HTMLtoPDF のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

C:\tool\htmltopdf



注意

インストールパスには、バージョン番号を含めないことを推奨します。

インストールパスには環境変数を設定するため、バージョン番号をパスに含めた場合、環境変数の再設定が必要となる場合があります。

環境変数

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の設定手順を示します。

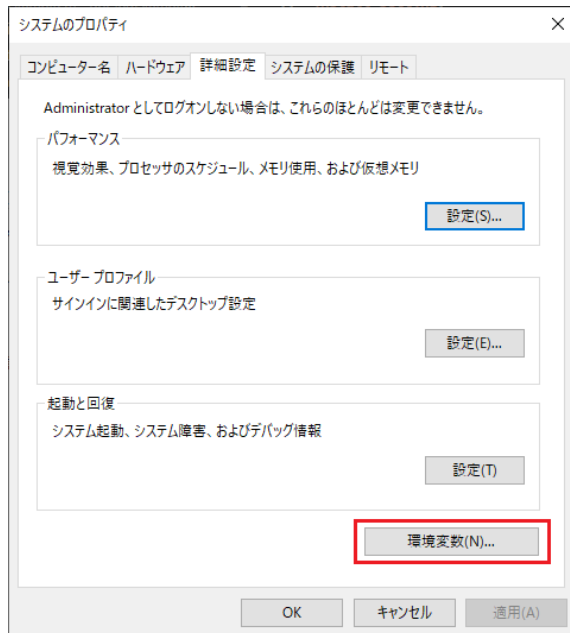
1. 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「システム」 - 「システムの詳細設定」をクリックします。



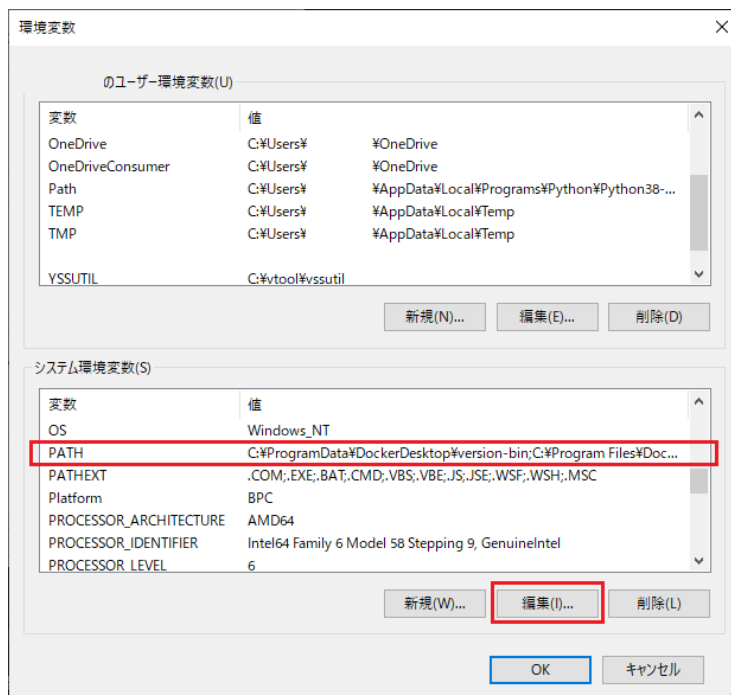
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

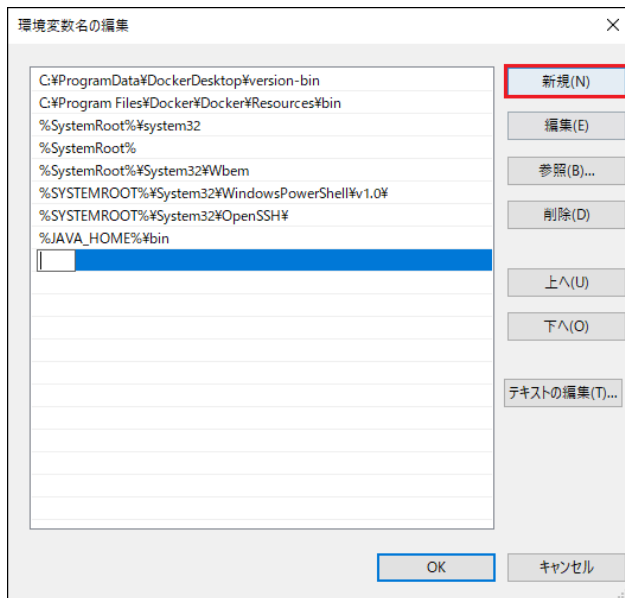
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



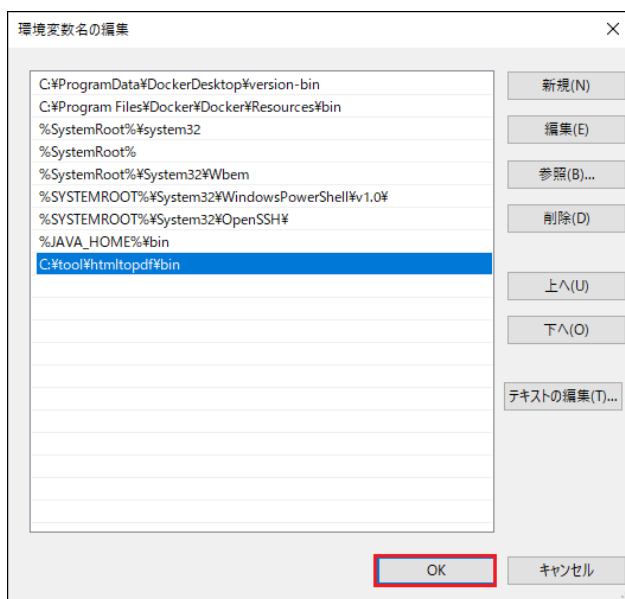
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



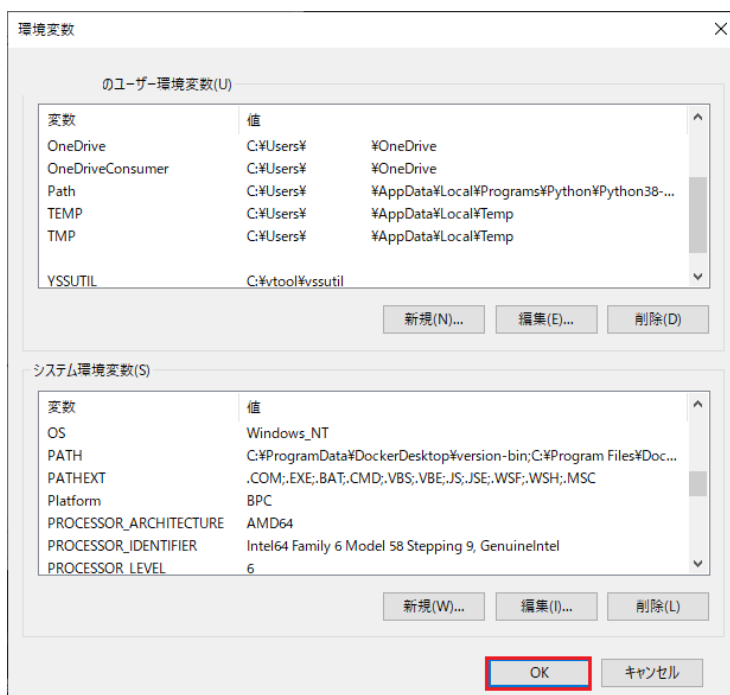
4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、「新規」をクリックします。



5. < %HTMLTOPDF_HOME% /bin >のパスを入力し、「OK」をクリックします。



6. 「OK」をクリックします。



7. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
$ htmltopdf -v
```

8. 画面にバージョン番号が表示されれば環境変数の設定は完了です。

```
$ htmltopdf 64Bit Vx.x.x.x
```

コラム

設定した環境変数が有効な環境変数となっているか、テナント環境セットアップ後に確認を行います。

確認手順は、次を参照してください。

- スタンドアローン構成 : 「[スタンドアローン構成](#)」
- 分散構成 : 「[分散構成](#)」

WARファイル設置

WARファイルの設置手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル< htmltopdf.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >に設置します。
3. Apache Tomcat を再起動させます。

設定ファイルの編集

HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を編集する手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を環境に合わせて編集し、保存してください。

ファイル	場所
htmltopdf-config.xml	%CATALINA_HOME%/webapps/htmltopdf/WEB-INF/classes

設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/任意	初期値
<entry key="concurrent.process.number">	PDFへの変換処理を同時に起動できる数	任意	1
<entry key="paper.size.width">	出力するPDFファイルの幅の既定値 (mm) プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	210mm
<entry key="paper.size.height">	出力するPDFファイルの高さの既定値 (mm) プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	297mm
<entry key="wait.millisecond">	画面読み込み後、変換を行うまでの待機時間 (ミリ秒) プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	5000ミリ秒 (5秒)
<entry key="timeout.sec">	PDF変換が完了するまでの待機時間 (秒) プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	3600秒

項目名	説明	必須/任意	初期値
<entry key="load.mode">	PDF変換が開始されるタイミング 0 : did-finish-load（ページ読み込み完了） 1 : ready-to-show（レンダリング完了） Windows、および、Linux（Xvfb）環境では1、 Linux（Wayland）環境では0を指定してください	任意	0

Linux の場合

スタンドアローン構成

Linux のスタンドアローン構成 での、連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ手順を示します。

項目

- [Xvfb のインストール可否確認](#)
- [連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)
- [環境変数](#)
- [Xvfb 起動](#)
- [設定ファイルの編集](#)
 - [HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >](#)
- [デスクトップ環境の構築](#)

[Xvfb のインストール可否確認](#)

リポジトリにて Xvfb を検索し、構築する環境に Xvfb がインストール可能か確認します。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum search Xvfb
```

Xvfb のパッケージが表示された場合は、Xvfb がインストール可能な環境（以下、Xvfb 環境）となります。

表示されない場合は、Xvfb がインストール不可の環境（以下、Wayland 環境）となります。

[連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF の圧縮ファイル< htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz >、または、< htmltopdf.arm.X.X.X.tar.gz >をインストール先にコピーします。
インストーラを< htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz >、インストール先を< /usr/local/ >として説明します。

```
$ cp [ディレクトリ]/htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz /usr/local/
```



コラム

連携エンジンのバージョンについては、構築する環境に合わせて選択してください。



コラム

インストーラについては、構築する環境のCPUアーキテクチャに合わせて選択してください。

- x64の場合：< htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz >
- ARM64の場合：< htmltopdf.arm.X.X.X.tar.gz >

2. Web Application Server を起動するユーザで、圧縮ファイルを解凍します。

```
$ cd /usr/local/
$ tar zxvf htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz
```

3. 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な UPower をインストールします。
UPower の動作に必要な依存関係等の設定は、適宜設定してください。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install gobject-introspection libgudev
$ curl -O https://rpmfind.net/linux/centos-stream/9-stream/AppStream/x86_64/os/Packages/upower-0.99.11-11.el9.x86_64.rpm
$ rpm -ivh upower-0.99.11-11.el9.x86_64.rpm
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

4. 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な Xvfb をインストールします。

Xvfb の動作に必要な依存関係等の設定は、適宜設定してください。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install -y xorg-x11-server-Xvfb
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

5. 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な依存関係のパッケージをインストールします。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install -y nss atk gtk3 pango libXcomposite libXdamage libXrandr mesa-libgbm alsa-lib
```

6. 変換対象ページに含まれている言語に対応したフォントをインストールします。

システム全体に適用されるようにインストールしてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
/usr/share/fonts
```

！ 注意

OSが最小構成などで構築されている環境では、連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な共有ライブラリが不足している場合があります。

次のコマンドを実行し、必要な共有ライブラリに不足がないことを確認してください。

< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
ldd /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf
```

次はコマンド実行時の出力例です。

```
linux-vdso.so.1 (0x00007ffee9c8f000)
libffmpeg.so => /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/libffmpeg.so (0x00007fe91e200000)
libdl.so.2 => /lib64/libdl.so.2 (0x00007fe9286e8000)
libpthread.so.0 => /lib64/libpthread.so.0 (0x00007fe9286e3000)
libgobject-2.0.so.0 => /lib64/libgobject-2.0.so.0 (0x00007fe928682000)
libglib-2.0.so.0 => /lib64/libglib-2.0.so.0 (0x00007fe91e6bd000)
libgio-2.0.so.0 => /lib64/libgio-2.0.so.0 (0x00007fe91e01d000)
libnss3.so => not found
libnssutil3.so => not found
libsmime3.so => not found
libnspr4.so => not found
libatk-1.0.so.0 => /lib64/libatk-1.0.so.0 (0x00007fe928656000)
libatk-bridge-2.0.so.0 => /lib64/libatk-bridge-2.0.so.0 (0x00007fe91e684000)
:
```

上記の場合、「not found」と出力された< libnss3.so >など4つの共有ライブラリが不足しています。

上記のような共有ライブラリが不足している環境で HTML→PDF変換 機能を利用するとエラーが発生し、次のようなエラーメッセージを含む内容がログに出力されます。

```
/usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf: error while loading shared libraries: libnss3.so: cannot open
shared object file: No such file or directory
```

不足している共有ライブラリをインストールしてください。

! 注意

Resin を実行するユーザ以外でインストーラの圧縮ファイルを解凍してしまった場合、または、権限ユーザを変更する場合の手順の例を示します。

■ 実行権限の設定

実行（execute）権限を設定する手順の例を示します。

1. < %HTMLTOPDF_HOME% /bin >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf>として説明します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/bin/
```

2. 全てのファイルに実行権限を付与します。

```
$ chmod +x *
```

3. < %HTMLTOPDF_HOME% /bin/chromhtmltopdf >に移動します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf
```

4. 全てのファイルに実行権限を付与します。

```
$ chmod +x *
```

■ 参照権限の設定

参照（Read）権限を設定する手順の例を示します。

- < %HTMLTOPDF_HOME% /lib >内のファイルに参照権限を設定します。

1. < %HTMLTOPDF_HOME% /lib >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/lib/
```

2. 全てのファイルに参照権限を付与します。

```
$ chmod +r *
```

- < %HTMLTOPDF_HOME% /etc >内のファイルに参照権限を設定します。

1. < %HTMLTOPDF_HOME% /etc >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/etc/
```

2. 全てのファイルに参照権限を付与します。

```
$ chmod +r *
```

サブディレクトリがある場合は、サブディレクトリ、および、サブディレクトリ内のファイルにも同様の権限を設定してください。

環境変数

Linux で次の環境変数を設定してください。

環境変数名	設定値
HTMLTOPDF	%HTMLTOPDF_HOME% (末尾の"/"スラッシュは不要)
PATH	\$HTMLTOPDF/bin
LD_LIBRARY_PATH	\$HTMLTOPDF/lib

環境変数名	設定値
DBUS_SESSION_BUS_ADDRESS (※)	unix:path=/run/dbus/system_bus_socket
DISPLAY (※)	:1

※ Wayland 環境の場合、手順は不要です。

コラム

設定した環境変数が有効な環境変数となっているか、テナント環境セットアップ後に確認を行います。

確認手順は、次を参照してください。

- スタンドアローン構成 : 「[スタンドアローン構成](#)」
- 分散構成 : 「[分散構成](#)」

注意

サーバの起動方法によって、環境変数の設定方法や設定先が異なる可能性があります。

シェルやサービス（デーモン）など、起動方法ごとの設定手順を確認の上、環境変数を設定してください。

注意

systemd などサービス起動する場合、起動ユーザ（ログインユーザ）は指定できますが、.bashrc などに設定された環境変数を全く継承しません。resinの起動スクリプト（サービス）に直接、環境変数を設定してください。

注意

systemd の Environment / EnvironmentFile では環境変数は展開されない為、設定する際は、環境変数ごとに明確にPATHを記載してください。

```

【NG】
HTMLTOPDF=/usr/local/htmltopdf
PATH=$HTMLTOPDF/bin:$PATH
LD_LIBRARY_PATH=$HTMLTOPDF/lib

【OK】
HTMLTOPDF=/usr/local/htmltopdf
PATH=/usr/local/htmltopdf/bin:/usr/bin
LD_LIBRARY_PATH=/usr/local/htmltopdf/lib
    
```

Xvfb 起動

Xvfb の起動手順を示します。

注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

1. 環境変数に設定したディスプレイの番号を指定し、Xvfb を起動します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ Xvfb :1 -screen 0 1280x1024x24 &
```

設定ファイルの編集

HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >

HTMLtoPDF の設定ファイル< chromhtmltopdf_opt.txt >を編集する手順を示します。

1. テキストエディタで、設定ファイル< %HTMLTOPDF_HOME% /bin/chromhtmltopdf/ chromhtmltopdf_opt.txt >を開きます。
次の例は、viエディタを使用する場合です。< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
$ vi /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf_opt.txt
```

2. 最終行にオプション< --no-sandbox >、< --ozone-platform=wayland >を追記し、保存します。

```
--disable-gpu
--no-sandbox
--ozone-platform=wayland
```

**注意**

Xvfb 環境の場合、オプション < `--ozone-platform=wayland` > の追記は不要です。

デスクトップ環境の構築

デスクトップ環境の構築手順を示します。

**注意**

Xvfb 環境の場合、手順は不要です。

1. GUI関連ソフトをインストールします。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum group install -y "Server with GUI"
```

2. デスクトップ環境に切り替えます。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ systemctl set-default graphical.target
```

3. サーバを再起動します。
4. デスクトップ環境へログインし、Wayland を起動します。

分散構成

Linux の 分散構成 での、連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ手順を示します。

**注意**

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してセットアップを行ってください。

**注意**

PDF変換サーバ での環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

項目

- [Xvfb のインストール可否確認](#)
- [連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)
- [環境変数](#)
- [Xvfb 起動](#)
- [WARファイル設置](#)
- [設定ファイルの編集](#)
 - [HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >](#)
 - [HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >](#)
- [デスクトップ環境の構築](#)

Xvfb のインストール可否確認

リポジトリにて Xvfb を検索し、構築する環境に Xvfb がインストール可能か確認します。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum search Xvfb
```

Xvfb のパッケージが表示された場合は、Xvfb がインストール可能な環境（以下、Xvfb 環境）となります。

表示されない場合は、Xvfb がインストール不可の環境（以下、Wayland 環境）となります。

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF の圧縮ファイル< htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz >、または、< htmltopdf.arm.X.X.X.tar.gz >をインストール先にコピーします。
 インストーラを< htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz >、インストール先を< /usr/local/ >として説明します。

```
$ cp [ディレクトリ]/htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz /usr/local/
```



コラム

連携エンジンのバージョンについては、構築する環境に合わせて選択してください。



コラム

インストーラについては、構築する環境のCPUアーキテクチャに合わせて選択してください。

- x64の場合：< htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz >
- ARM64の場合：< htmltopdf.arm.X.X.X.tar.gz >

2. Web Application Server を起動するユーザで、圧縮ファイルを解凍します。

```
$ cd /usr/local/
$ tar zxvf htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz
```

3. 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な UPower をインストールします。
 UPower の動作に必要な依存関係等の設定は、適宜設定してください。
 コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install gobject-introspection libgudev
$ curl -O https://rpmfind.net/linux/centos-stream/9-stream/AppStream/x86_64/os/Packages/upower-0.99.11-11.el9.x86_64.rpm
$ rpm -ivh upower-0.99.11-11.el9.x86_64.rpm
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

4. 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な Xvfb をインストールします。
 Xvfb の動作に必要な依存関係等の設定は、適宜設定してください。
 コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install -y xorg-x11-server-Xvfb
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

5. 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な依存関係のパッケージをインストールします。
 コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install -y nss atk gtk3 pango libXcomposite libXdamage libXrandr mesa-libgbm alsa-lib
```

6. 変換対象ページに含まれている言語に対応したフォントをインストールします。
 システム全体に適用されるようにインストールしてください。
 インストール先の例は、次の通りです。

```
/usr/share/fonts
```

！ 注意

OSが最小構成などで構築されている環境では、連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な共有ライブラリが不足している場合があります。

次のコマンドを実行し、必要な共有ライブラリに不足がないことを確認してください。

< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
ldd /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf
```

次はコマンド実行時の出力例です。

```
linux-vdso.so.1 (0x00007ffee9c8f000)
libffmpeg.so => /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/libffmpeg.so (0x00007fe91e200000)
libdl.so.2 => /lib64/libdl.so.2 (0x00007fe9286e8000)
libpthread.so.0 => /lib64/libpthread.so.0 (0x00007fe9286e3000)
libgobject-2.0.so.0 => /lib64/libgobject-2.0.so.0 (0x00007fe928682000)
libglib-2.0.so.0 => /lib64/libglib-2.0.so.0 (0x00007fe91e6bd000)
libgio-2.0.so.0 => /lib64/libgio-2.0.so.0 (0x00007fe91e01d000)
libnss3.so => not found
libnssutil3.so => not found
libsmime3.so => not found
libnspr4.so => not found
libatk-1.0.so.0 => /lib64/libatk-1.0.so.0 (0x00007fe928656000)
libatk-bridge-2.0.so.0 => /lib64/libatk-bridge-2.0.so.0 (0x00007fe91e684000)
:
```

上記の場合、「not found」と出力された< libnss3.so >など4つの共有ライブラリが不足しています。

上記のような共有ライブラリが不足している環境で HTML→PDF変換 機能を利用するとエラーが発生し、次のようなエラーメッセージを含む内容がログに出力されます。

```
/usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf: error while loading shared libraries: libnss3.so: cannot open
shared object file: No such file or directory
```

不足している共有ライブラリをインストールしてください。

! 注意

Resin を実行するユーザ以外でインストーラの圧縮ファイルを解凍してしまった場合、または、権限ユーザを変更する場合の手順の例を示します。

■ 実行権限の設定

実行（execute）権限を設定する手順の例を示します。

1. < %HTMLTOPDF_HOME% /bin >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf>として説明します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/bin/
```

2. 全てのファイルに実行権限を付与します。

```
$ chmod +x *
```

3. < %HTMLTOPDF_HOME% /bin/chromhtmltopdf >に移動します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf
```

4. 全てのファイルに実行権限を付与します。

```
$ chmod +x *
```

■ 参照権限の設定

参照（Read）権限を設定する手順の例を示します。

- < %HTMLTOPDF_HOME% /lib >内のファイルに参照権限を設定します。
 1. < %HTMLTOPDF_HOME% /lib >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/lib/
```

2. 全てのファイルに参照権限を付与します。

```
$ chmod +r *
```

- < %HTMLTOPDF_HOME% /etc >内のファイルに参照権限を設定します。
 1. < %HTMLTOPDF_HOME% /etc >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/etc/
```

2. 全てのファイルに参照権限を付与します。

```
$ chmod +r *
```

サブディレクトリがある場合は、サブディレクトリ、および、サブディレクトリ内のファイルにも同様の権限を設定してください。

環境変数

Linux で次の環境変数を設定してください。

環境変数名	設定値
HTMLTOPDF	%HTMLTOPDF_HOME% (末尾の"/"スラッシュは不要)
PATH	\$HTMLTOPDF/bin
LD_LIBRARY_PATH	\$HTMLTOPDF/lib

環境変数名	設定値
DBUS_SESSION_BUS_ADDRESS (※)	unix:path=/run/dbus/system_bus_socket
DISPLAY (※)	:1

※ Wayland 環境の場合、手順は不要です。

コラム

設定した環境変数が有効な環境変数となっているか、テナント環境セットアップ後に確認を行います。

確認手順は、次を参照してください。

- スタンドアローン構成 : 「[スタンドアローン構成](#)」
- 分散構成 : 「[分散構成](#)」

注意

サーバの起動方法によって、環境変数の設定方法や設定先が異なる可能性があります。

シェルやサービス（デーモン）など、起動方法ごとの設定手順を確認の上、環境変数を設定してください。

注意

systemd などサービス起動する場合、起動ユーザ（ログインユーザ）は指定できますが、.bashrc などに設定された環境変数を全く継承しません。resinの起動スクリプト（サービス）に直接、環境変数を設定してください。

注意

systemd の Environment / EnvironmentFile では環境変数は展開されない為、設定する際は、環境変数ごとに明確にPATHを記載してください。

```

【NG】
HTMLTOPDF=/usr/local/htmltopdf
PATH=$HTMLTOPDF/bin:$PATH
LD_LIBRARY_PATH=$HTMLTOPDF/lib

【OK】
HTMLTOPDF=/usr/local/htmltopdf
PATH=/usr/local/htmltopdf/bin:/usr/bin
LD_LIBRARY_PATH=/usr/local/htmltopdf/lib

```

Xvfb 起動

Xvfb の起動手順を示します。

注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

1. 環境変数に設定したディスプレイの番号を指定し、Xvfb を起動します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ Xvfb :1 -screen 0 1280x1024x24 &
```

WARファイル設置

WARファイルの設置手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル< htmltopdf.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >に設置します。

```
$ cp [ディレクトリ]/server/htmltopdf.war %CATALINA_HOME%/webapps/
```

3. Apache Tomcat を再起動させます。

設定ファイルの編集

HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >

HTMLtoPDF の設定ファイル< chromhtmltopdf_opt.txt >を編集する手順を示します。

1. テキストエディタで、設定ファイル< %HTMLTOPDF_HOME% /bin/chromhtmltopdf/ chromhtmltopdf_opt.txt >を開きます。
次の例は、viエディタを使用する場合です。< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
$ vi /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf_opt.txt
```

2. 最終行にオプション< --no-sandbox >、< --ozone-platform=wayland >を追記し、保存します。

```
--disable-gpu
--no-sandbox
--ozone-platform=wayland
```



注意

Xvfb 環境の場合、オプション< --ozone-platform=wayland >の追記は不要です。

HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を編集する手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を環境に合わせて編集し、保存してください。

ファイル	場所
htmltopdf-config.xml	%CATALINA_HOME%/webapps/htmltopdf/WEB-INF/classes

設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/任意	初期値
<entry key="concurrent.process.number">	PDFへの変換処理を同時に起動できる数	任意	1
<entry key="paper.size.width">	出力するPDFファイルの幅の既定値（mm） プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	210mm
<entry key="paper.size.height">	出力するPDFファイルの高さの既定値（mm） プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	297mm
<entry key="wait.millisecond">	画面読み込み後、変換を行うまでの待機時間（ミリ秒） プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	5000ミリ秒（5秒）
<entry key="timeout.sec">	PDF変換が完了するまでの待機時間（秒） プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	3600秒
<entry key="load.mode">	PDF変換が開始されるタイミング 0 : did-finish-load（ページ読み込み完了） 1 : ready-to-show（レンダリング完了） Windows、および、Linux（Xvfb）環境では1、 Linux（Wayland）環境では0を指定してください	任意	0

デスクトップ環境の構築

デスクトップ環境の構築手順を示します。



注意

Xvfb 環境の場合、手順は不要です。

1. GUI関連ソフトをインストールします。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum group install -y "Server with GUI"
```

2. デスクトップ環境に切り替えます。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ systemctl set-default graphical.target
```

3. サーバを再起動します。
4. デスクトップ環境へログインし、Wayland を起動します。



注意

HTML→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

連携エンジン PDFコンバータXP のインストール

連携エンジン PDFコンバータXP のインストール手順を示します。



注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してセットアップを行ってください。



注意

PDF変換サーバ での環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。



注意

Windows Server 2025 の場合、「Windows で保護された印刷モード」を無効にする必要があります。

「Windows で保護された印刷モード」を有効にすると、連携エンジン PDFコンバータXP をインストールすることができません。

また、既にインストール済みの 連携エンジン PDFコンバータXP は削除されます。

一度モードを有効にすると、無効にしても 連携エンジン PDFコンバータXP は削除されたままです。

再度利用するには「Windows で保護された印刷モード」を無効にした後、連携エンジン PDFコンバータXP を再インストールしてください。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」の次の章に沿って、インストール、および、ライセンスを登録してください。
 - 「1章. インストール」
 - 「2章. ライセンス設定」



注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFコンバータXP のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\PDFconverter\
```



注意

ライセンスを再登録する場合、「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」-「2章. ライセンス設定」を参照してください。

3. PDF変換サーバ を再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ

連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ手順を示します。



注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してセットアップを行ってください。



注意

PDF変換サーバ での環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

項目

- [連携エンジン PDFオートコンバータEX のインストール](#)
- [連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定](#)
- [環境変数](#)
- [連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動](#)
- [JARファイル設置](#)
- [WARファイルのデプロイ](#)
- [設定ファイルの編集](#)
 - [PDFオートコンバータEX < axis2.xml >](#)

連携エンジン PDFオートコンバータEX のインストール

連携エンジン PDFオートコンバータEX のインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」-「5.1. PDF オートコンバータ EX のインストール」に沿って、インストール、および、ライセンスを登録してください。



注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFオートコンバータEX のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\AutoConverterEX\
```



注意

異なるバージョンの、PDFオートコンバータEX がインストールされている環境では、インストール前に次のフォルダを削除してください。

```
C:/YSS_Settings/Auto Converter EX
```

上記フォルダは隠しフォルダとなっているため、フォルダ名を直接入力し削除ください。



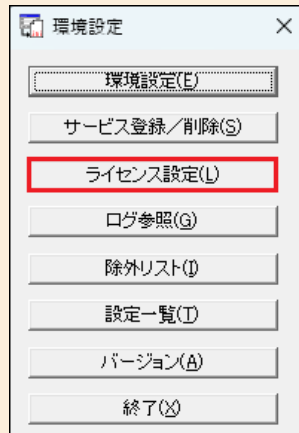
注意

ライセンスの再登録の手順については、次の通りです。

1. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
> yexset
```

2. 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定画面が表示されるため、「ライセンス設定」をクリックします。



3. 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」 - 「5.1. PDF オートコンバータ EX のインストール」の手順(8)、(9)に沿って、ライセンスを登録します。



コラム

上記コマンドで環境設定画面が表示されない場合、「スタート」からアプリの一覧を表示し、「YSS Auto Converter EX」 - 「環境設定」をクリックしてください。

3. PDF変換サーバを再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定

「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」の次の章の設定をしてください。

- 「6.1. [611] エラー抑止（必須設定）」
- 「6.2.エラー時のダイアログ抑止（必須設定）」
- 「6.3.1.【設定項目 1】（必須設定）」～「6.3.8.【設定項目 8】（必須設定）」
- 「6.7.PDF ファイルのフォント埋め込み(必須設定)」
- 「7.1.Word用紙設定(必須設定)」
- 「8.1.Excel用紙設定(必須設定)」
- 「8.2.Excel の印刷効果の設定(必須設定)」
- 「9.1.PowerPoint印刷効果の設定(必須設定)」
- 「11.1.3.拡張子別設定の調整(必須設定)」
- 「11.1.4.アウトラインファイルの変数の設定(必須設定)」

環境変数

Windows での 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数の設定手順を示します。

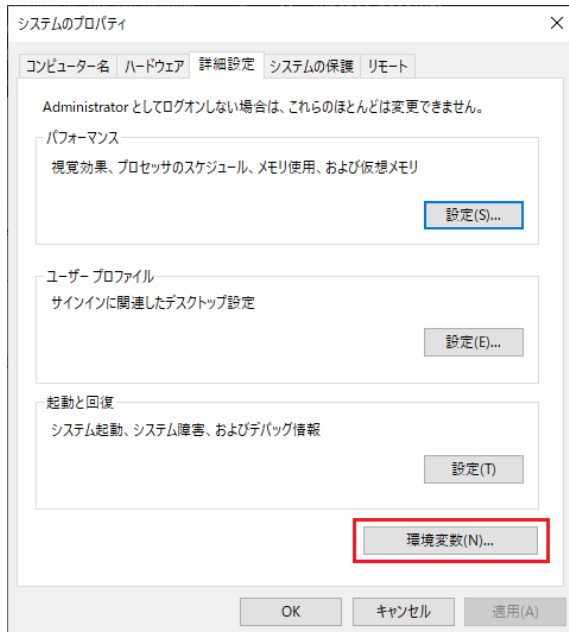
1. 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「システム」 - 「システムの詳細設定」をクリックします。



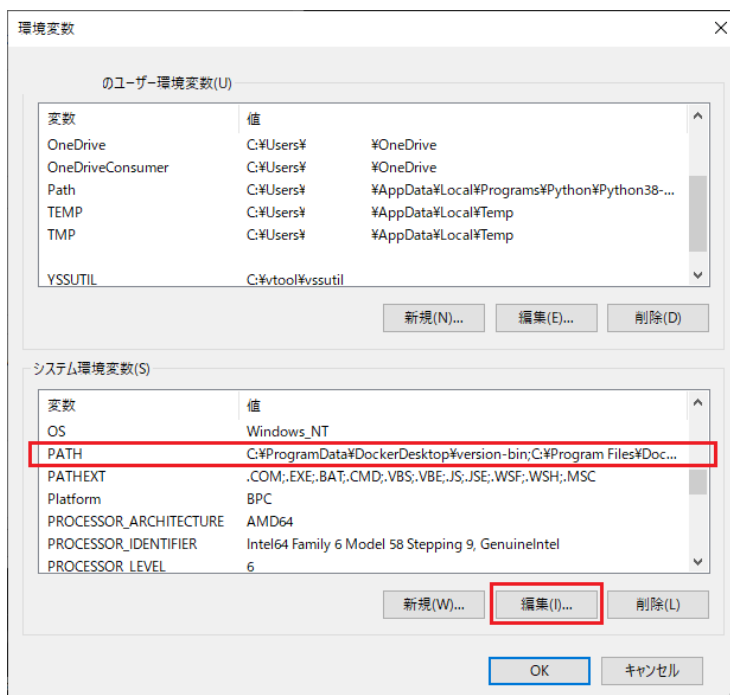
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

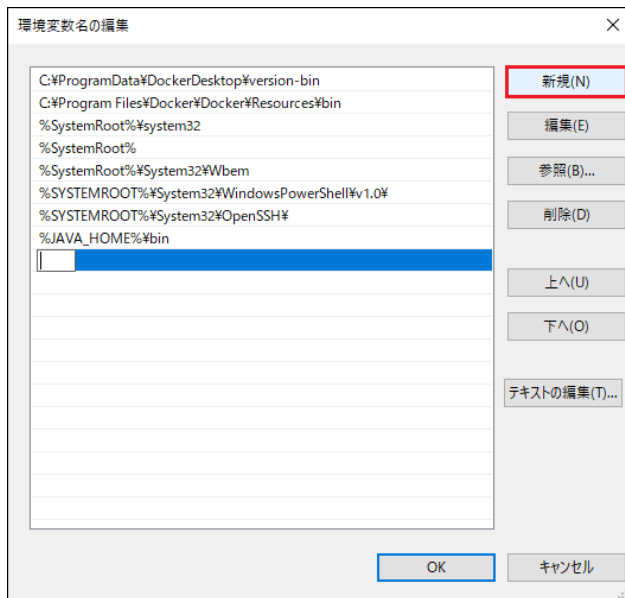
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



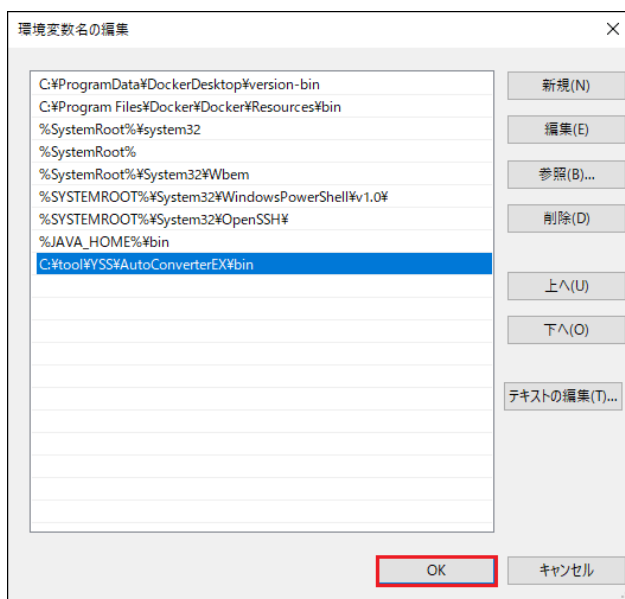
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、「新規」をクリックします。



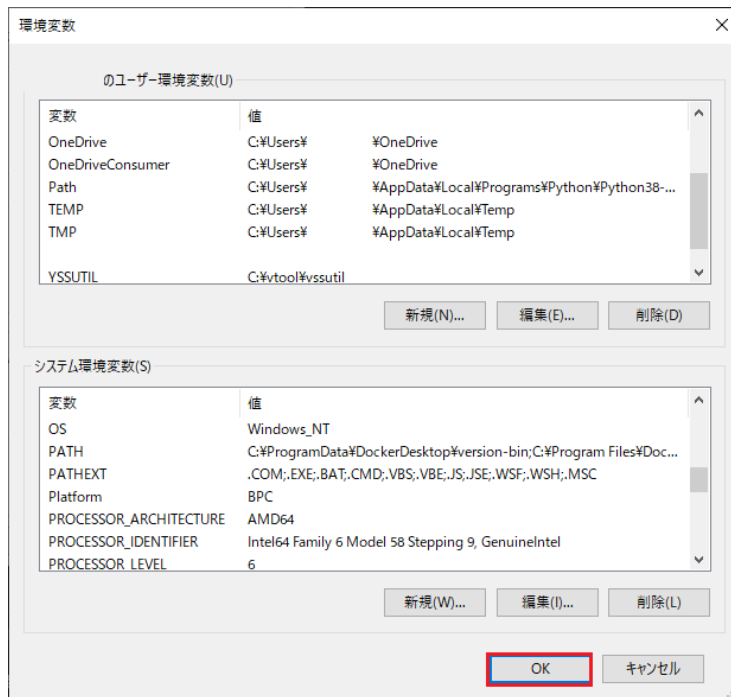
5. < % PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ% /bin >のパスを入力し、「OK」をクリックします。



注意

IM-PDFCoordinator for Accel Platform の、連携エンジン PDFメイクアップ の環境変数が既に設定されている場合は、それよりも下に 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数を設定してください。

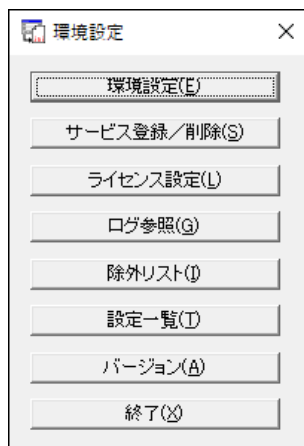
6. 「OK」をクリックします。



7. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
> yexset
```

8. 次の画面が表示されれば、環境変数の設定は完了です。



連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動

次の全ての条件に該当する場合は、連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動が必要です。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring 以降のバージョンで変換する
- 変換対象のファイルに外字が含まれている

また、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のバージョンによって、起動対象のサービスが次のように異なります。

- 2025 Spring

起動対象のサービスは「YSS Auto Converter EX」です。

サービス起動の手順については、「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」-「14.2. サービス変換」を参照してください。

- 2025 Autumn 以降

起動対象のサービスは「YSS Auto Converter EX(EUDC)」です。

サービス起動の手順については、「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」-「6.7.PDFフォントファイルのフォント埋め込み」の(4)~(11)を参照してください。



注意

サービスが自動で起動されるように、サービスのスタートアップの種類を「自動」に設定してください。

JARファイル設置

JARファイルの設置手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のJARファイル< lib/ autoex.jar >を、< %CATALINA_HOME%/lib >に設置します。
3. Apache Tomcat を再起動させます。

WARファイルのデプロイ

WARファイルのデプロイの手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のWARファイル< autoexsoap.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >に設置します。
3. 設置したWARファイル< autoexsoap.war >を、< axis2.war >にリネームします。
4. Apache Tomcat を再起動させます。

設定ファイルの編集

PDFオートコンバータEX < axis2.xml >

PDFオートコンバータEX の設定ファイル< axis2.xml >を編集する手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. PDFオートコンバータEX の設定ファイル< axis2.xml >を環境に合わせて編集し、保存してください。

ファイル	場所
axis2.xml	%CATALINA_HOME%/webapps/axis2/WEB-INF/conf

attachmentDIR は、クライアントからアップロードされるファイルの一時保存先です。必ず指定する必要があります。

```
<axisconfig name="AxisJava2.0">
~~~~~省略~~~~~
<!--Uncomment if you want to enable file caching for attachments -->
<parameter name="cacheAttachments">true</parameter>
<!-- 添付ファイル（クライアントからアップロードされるファイル）の一時保存先です。必ず指定してください -->
<parameter name="attachmentDIR">C:\tmp</parameter>
<parameter name="sizeThreshold">4000</parameter>
~~~~~省略~~~~~
</axisconfig>
```

3. Apache Tomcat を再起動してください。



注意

HTML→PDF変換 は、連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

上記機能を使用する場合、HTMLtoPDF に関連する手順は実施してください。



注意

Office系→PDF変換 は、連携エンジン PDFコンバータXP、および、連携エンジン PDFオートコンバータEX が必要です。

上記機能を使用する場合、PDFコンバータXP、および、PDFオートコンバータEX に関連する手順は実施してください。



注意

HTML→PDF変換 は、 スタンドアローン構成 、および、 分散構成 に対応しています。

Office系→PDF変換 は、 分散構成 のみ対応しています。

スタンドアローン構成

項目

- アプリケーションの追加
- 設定ファイルの追加・編集
 - HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >
 - IM-LogicDesigner連携 < pdfa-logic-config.xml >
- WARファイル・静的ファイルの出力

アプリケーションの追加

IM-Juggling で作成したプロジェクトに、アプリケーションを追加する手順を示します。



コラム

プロジェクトの作成手順については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[プロジェクトの作成とモジュールの選択](#)」を参照してください。



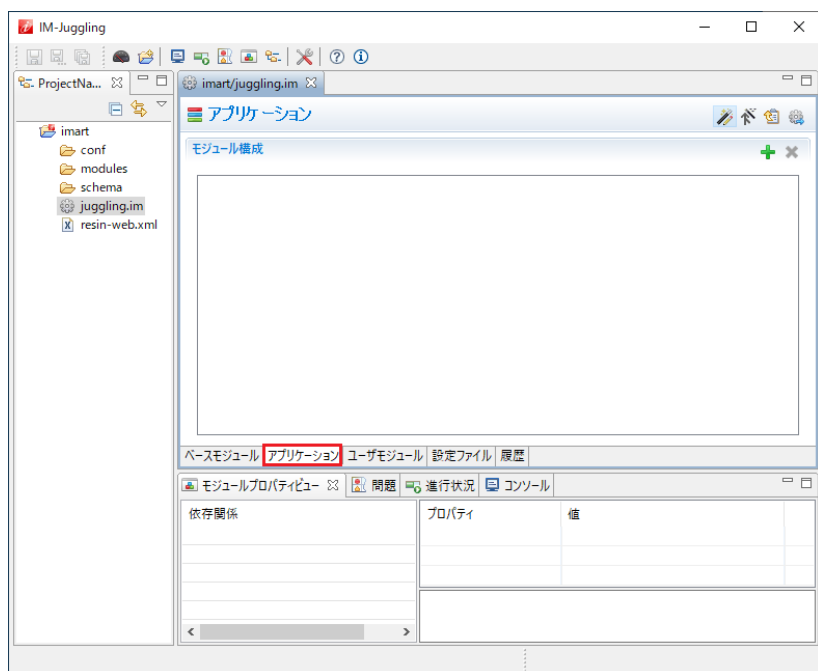
注意

使用する機能に合わせ、次のバージョンでプロジェクトを作成してください。

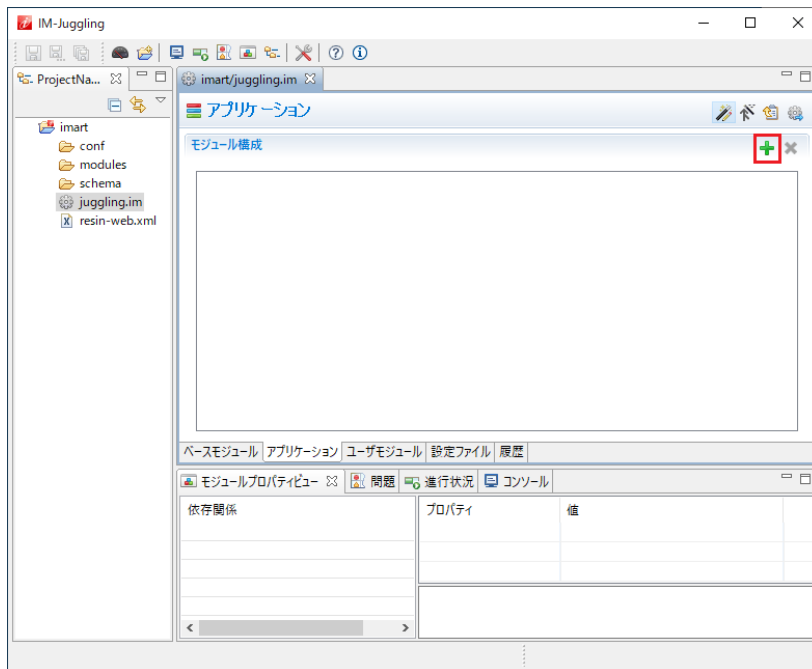
- HTML→PDF変換
intra-mart Accel Platform 2024 Autumn(Jasmine) 以降
- ジョブ／IM-LogicDesigner連携
intra-mart Accel Platform 2026 Spring(Mimosa) 以降

対応していない intra-mart Accel Platform のバージョンでプロジェクトを作成した場合、当該機能は使用できません。

1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「juggling.im」-「アプリケーション」タブを表示します。



2. 「プラス」アイコンをクリックします。



3. 「アプリケーションモジュール選択」画面が表示されます。
「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を選択し、「OK」をクリックします。



注意

使用する機能に合わせ、次のバージョンを選択してください。

- HTML→PDF変換
IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.25 以上
 - ジョブ／IM-LogicDesigner連携
IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.28 以上
- 古いバージョンでは当該機能を使用できません。



注意

次のアプリケーションを複数同時に選択する場合は、必ず同じバージョンを選択してください。

- IM-PDFDesigner for Accel Platform
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform
- IM-PDFDirectPrint for Accel Platform
- IM-PDFTimeStamper for Accel Platform



注意

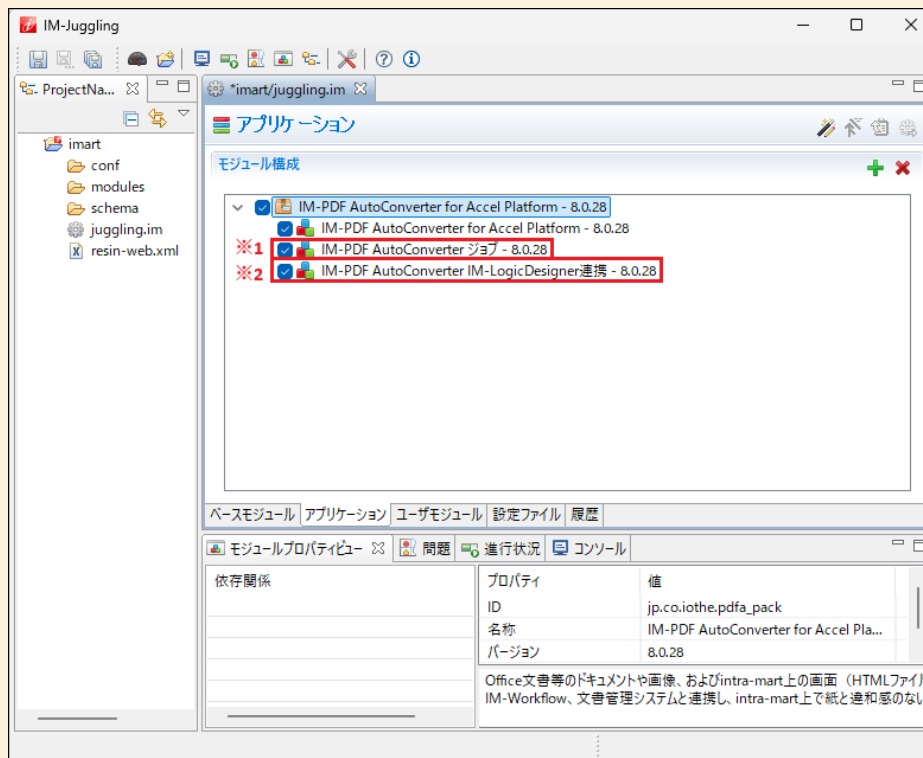
既に IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を導入中で、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.6 以上にバージョンアップする場合には、IM-Juggling のユーザモジュールから IM-PDFCoordinator for Accel Platform を削除してください。



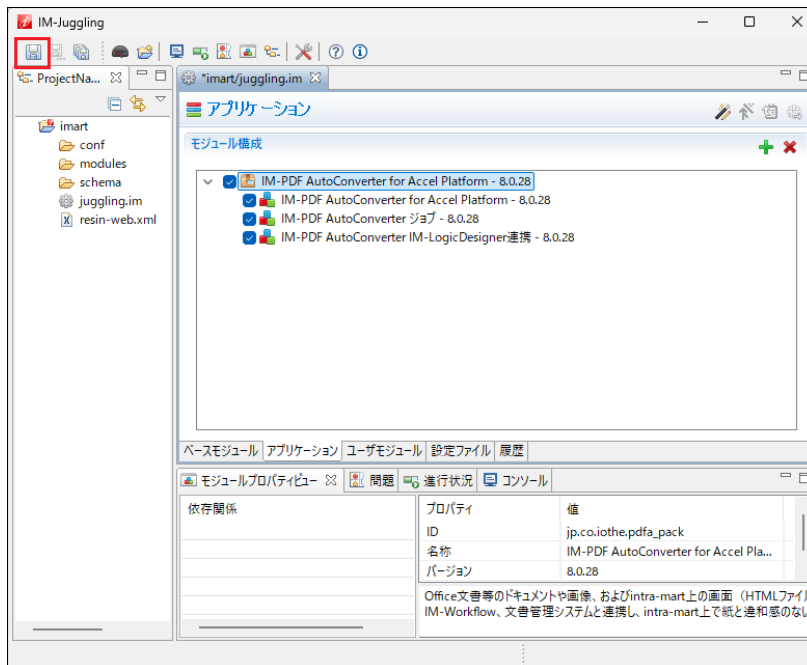
注意

使用する機能に合わせ、次のモジュールにチェックを入れてください。

- ジョブ
 - IM-PDFAutoConverter ジョブ (※1)
- IM-LogicDesigner連携
 - IM-PDFAutoConverter ジョブ (※1)
 - IM-PDFAutoConverter IM-LogicDesigner連携 (※2)



4. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



設定ファイルの追加・編集

IM-Juggling 上での IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の設定ファイルに関する手順を示します。

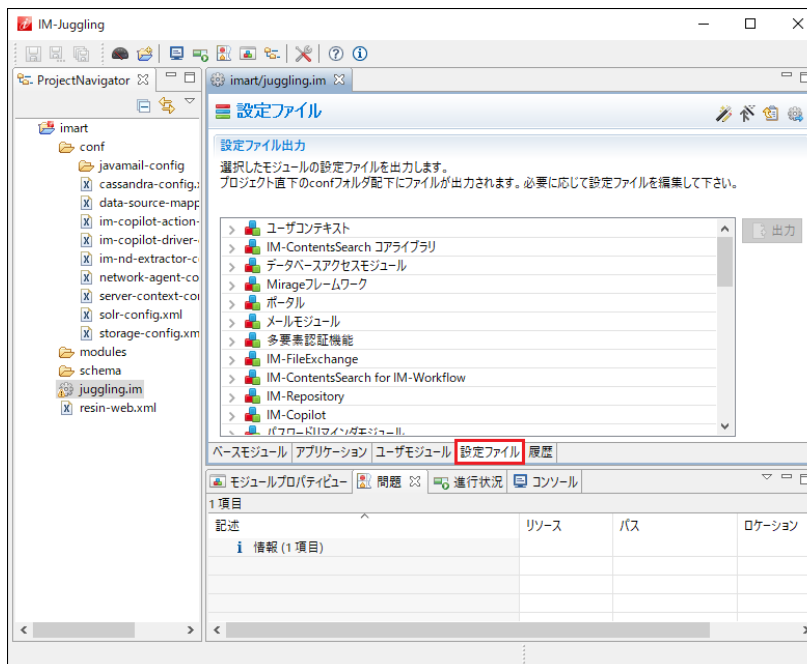
コラム

intra-mart Accel Platform の設定ファイルについては、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[基盤の設定ファイル](#)」を参照してください。

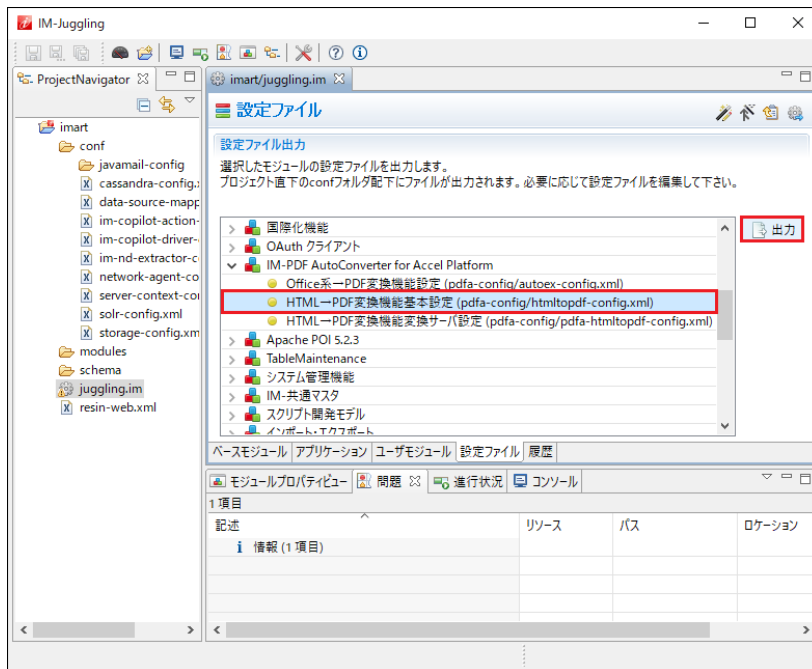
HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。

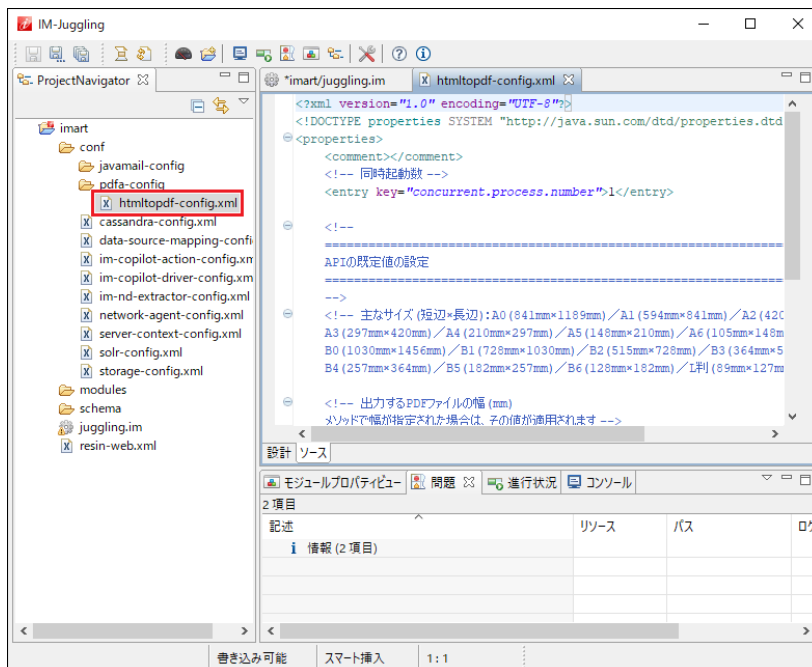
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



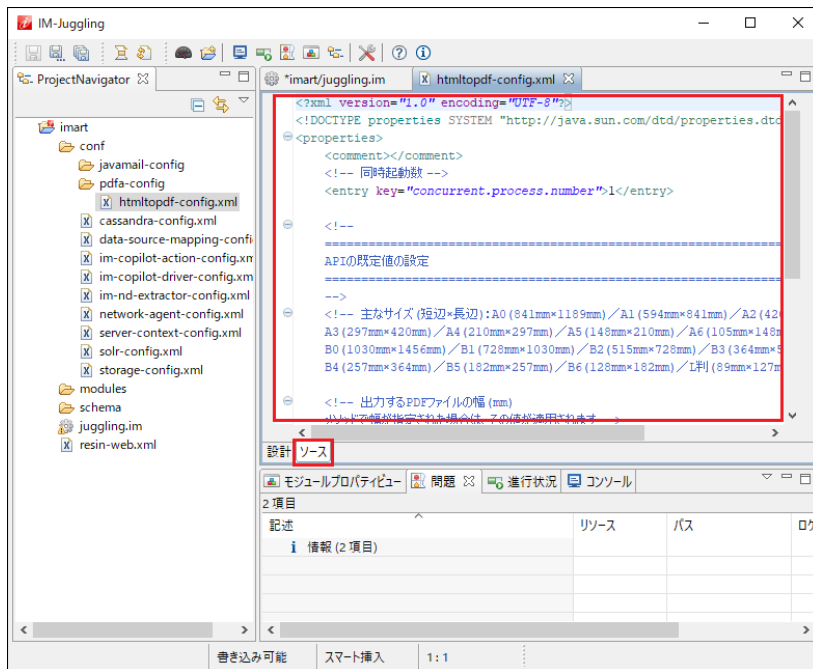
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」-「HTML→PDF変換 機能基本設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config >フォルダ配下に、設定ファイル< htmltopdf-config.xml >が追加されます。



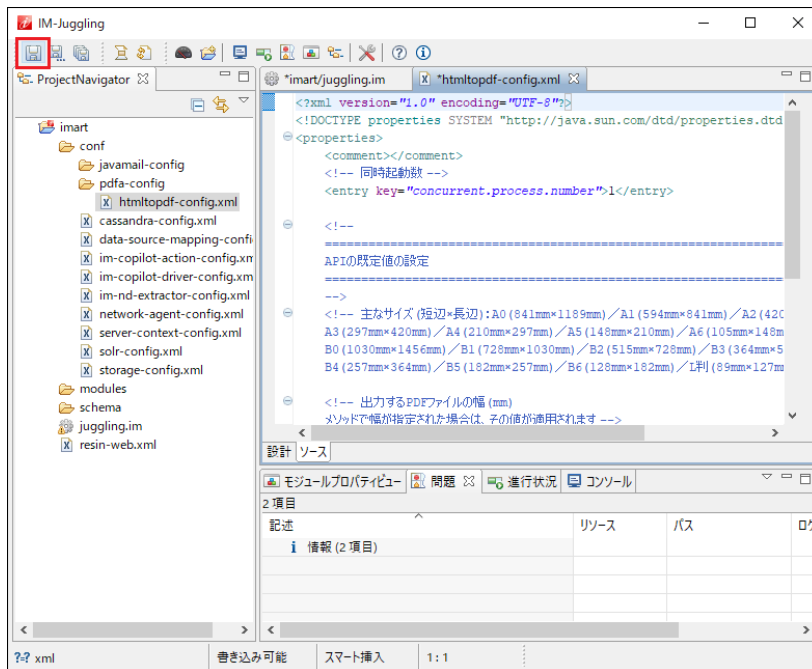
4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。



設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/任意	初期値
<entry key="concurrent.process.number">	PDFへの変換処理を同時に起動できる数	任意	1
<entry key="paper.size.width">	出力するPDFファイルの幅の既定値(mm) プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	210mm
<entry key="paper.size.height">	出力するPDFファイルの高さの既定値(mm) プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	297mm
<entry key="wait.millisecond">	画面読み込み後、変換を行うまでの待機時間(ミリ秒) プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	5000ミリ秒(5秒)
<entry key="timeout.sec">	PDF変換が完了するまでの待機時間(秒) プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	3600秒
<entry key="load.mode">	PDF変換が開始されるタイミング 0 : did-finish-load (ページ読み込み完了) 1 : ready-to-show (レンダリング完了) Windows、および、Linux (Xvfb) 環境では1、 Linux (Wayland) 環境では0を指定してください	任意	0

5. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



IM-LogicDesigner連携 < pdfa-logic-config.xml >

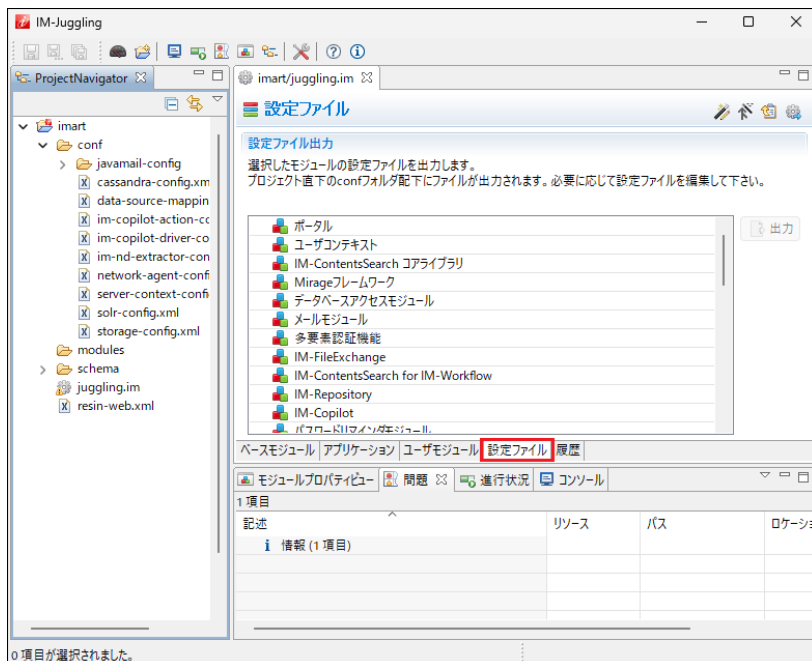
IM-LogicDesigner連携 の設定ファイル< pdfa-logic-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。



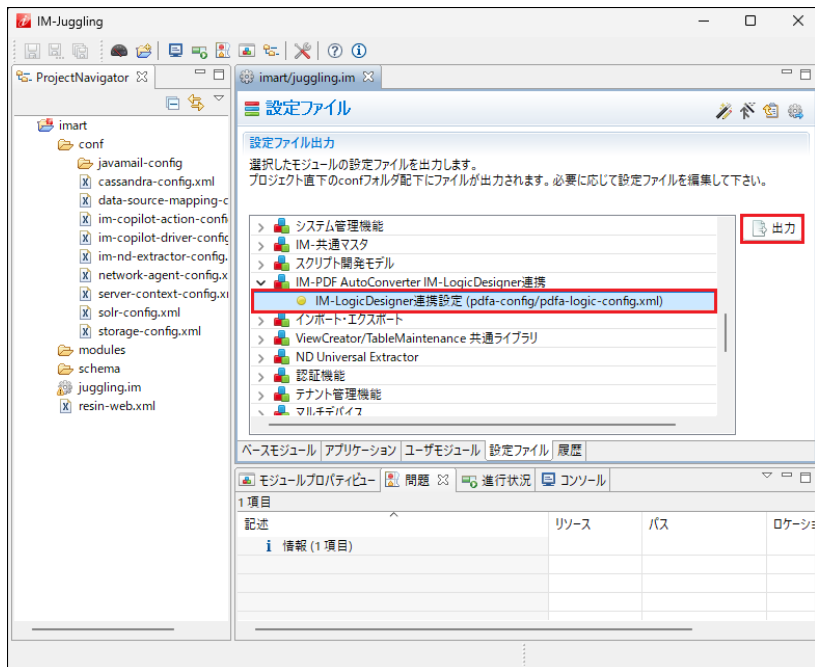
注意

IM-LogicDesigner連携 を使用しない場合、手順は不要です。

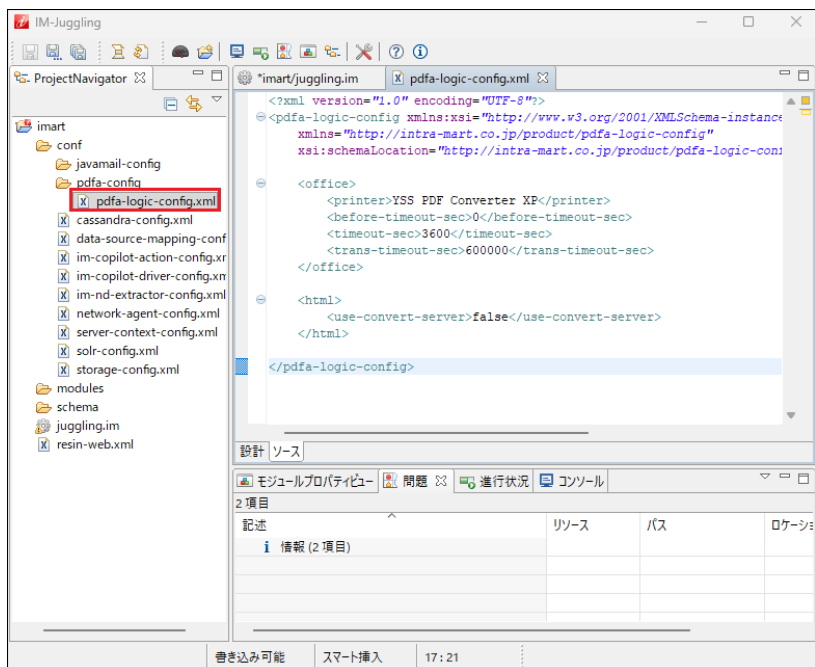
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



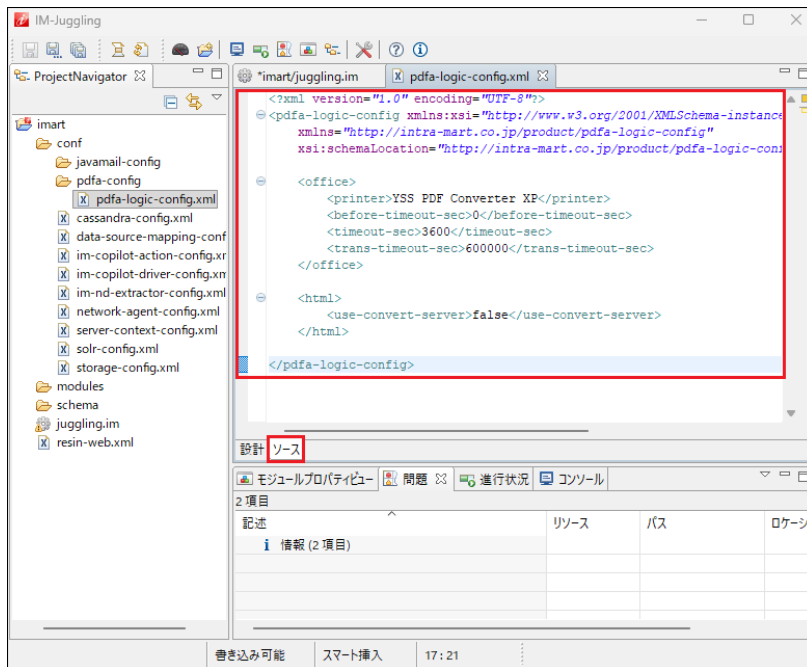
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」-「IM-LogicDesigner連携 設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config >フォルダ配下に、設定ファイル< pdfa-logic-config.xml >が追加されます。



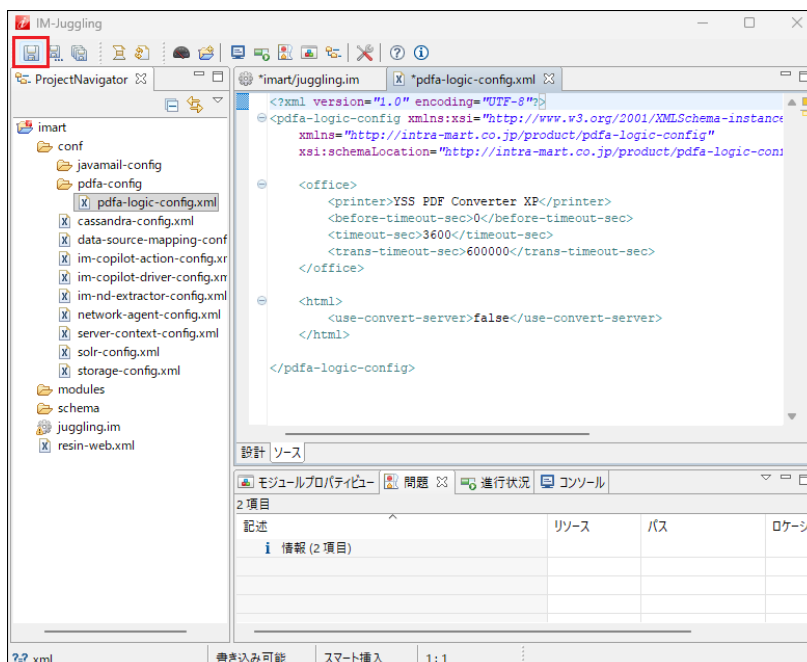
4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。



設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/任意	初期値
<office>	Office系→PDF変換 に関する設定	必須	—
/<printer>	変換時に使用するプリンタ名	必須	YSS PDF Converter XP
/<before-timeout-sec>	変換前のタイムアウト時間（秒）	任意	0
/<timeout-sec>	変換後のタイムアウト時間（秒）	任意	3600
/<trans-timeout-sec>	PDF変換サーバへのファイル転送のタイムアウト時間（ミリ秒）	任意	600000
<html>	HTML→PDF変換 に関する設定	必須	—
/<use-convert-server>	システム構成 スタンドアローン構成：false 分散構成：true	必須	false

- 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



WARファイル、静的ファイルを出力します。

出力手順については、次のドキュメントを参照してください。

- 「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[WARファイルの出力](#)」
- 「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[静的ファイルの出力](#)」

分散構成

項目

- アプリケーションの追加
- 設定ファイルの追加・編集
 - PDFオートコンバータEX < autoex-config.xml >
 - HTML→PDF変換 < pdfa-htmltopdf-config.xml >
 - IM-LogicDesigner連携 < pdfa-logic-config.xml >
- WARファイル・静的ファイルの出力

アプリケーションの追加

IM-Juggling で作成したプロジェクトに、アプリケーションを追加する手順を示します。



コラム

プロジェクトの作成手順については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[プロジェクトの作成とモジュールの選択](#)」を参照してください。



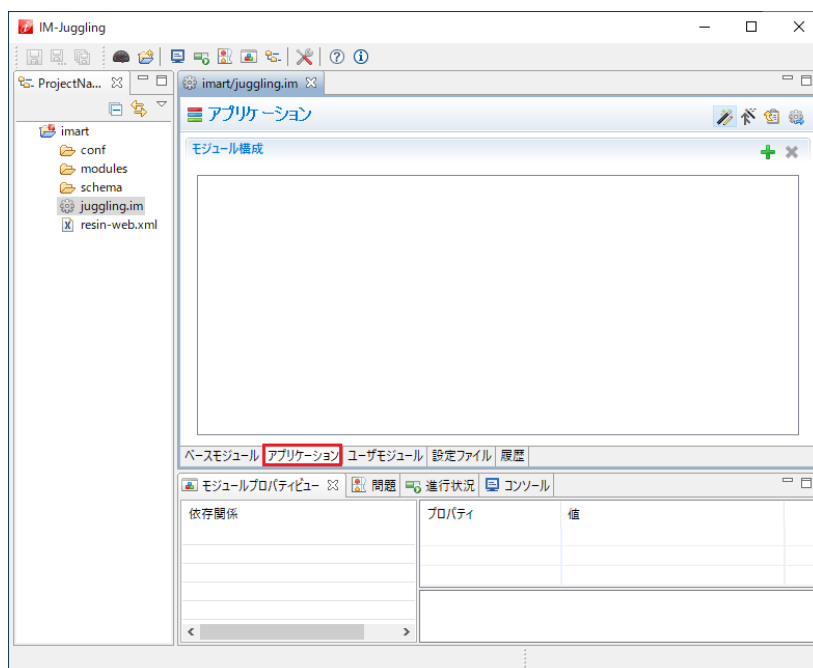
注意

使用する機能に合わせ、次のバージョンでプロジェクトを作成してください。

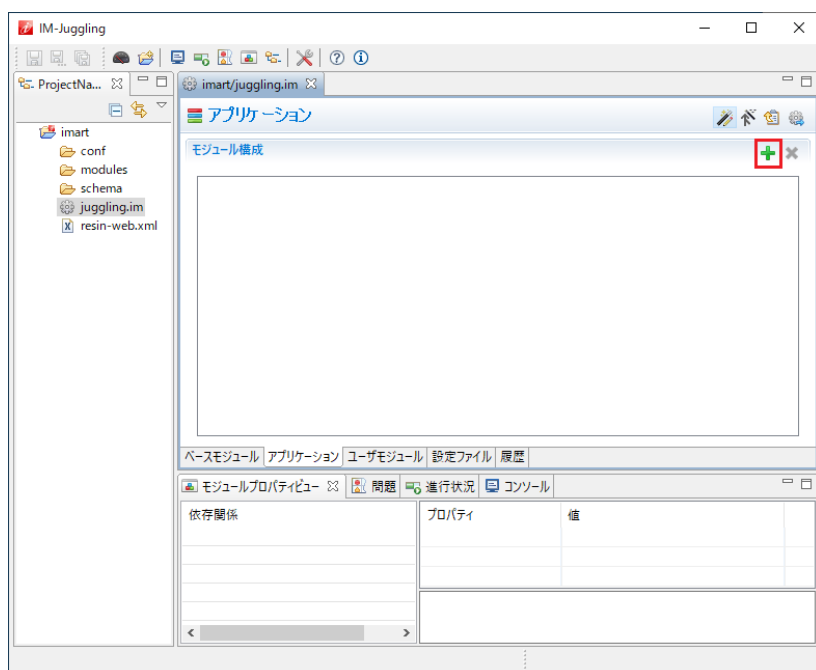
- HTML→PDF変換
intra-mart Accel Platform 2024 Autumn(Jasmine) 以降
- ジョブ／IM-LogicDesigner連携
intra-mart Accel Platform 2026 Spring(Mimosa) 以降

対応していない intra-mart Accel Platform のバージョンでプロジェクトを作成した場合、当該機能は使用できません。

1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「juggling.im」 - 「アプリケーション」タブを表示します。



2. 「プラス」アイコンをクリックします。



3. 「アプリケーションモジュール選択」画面が表示されます。
「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を選択し、「OK」をクリックします。



注意

使用する機能に合わせ、次のバージョンを選択してください。

- HTML→PDF変換

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.25 以上

- ジョブ／IM-LogicDesigner連携

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.28 以上

古いバージョンでは当該機能を使用できません。



注意

次のアプリケーションを複数同時に選択する場合は、必ず同じバージョンを選択してください。

- IM-PDFDesigner for Accel Platform
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform
- IM-PDFDirectPrint for Accel Platform
- IM-PDFTimeStamper for Accel Platform



注意

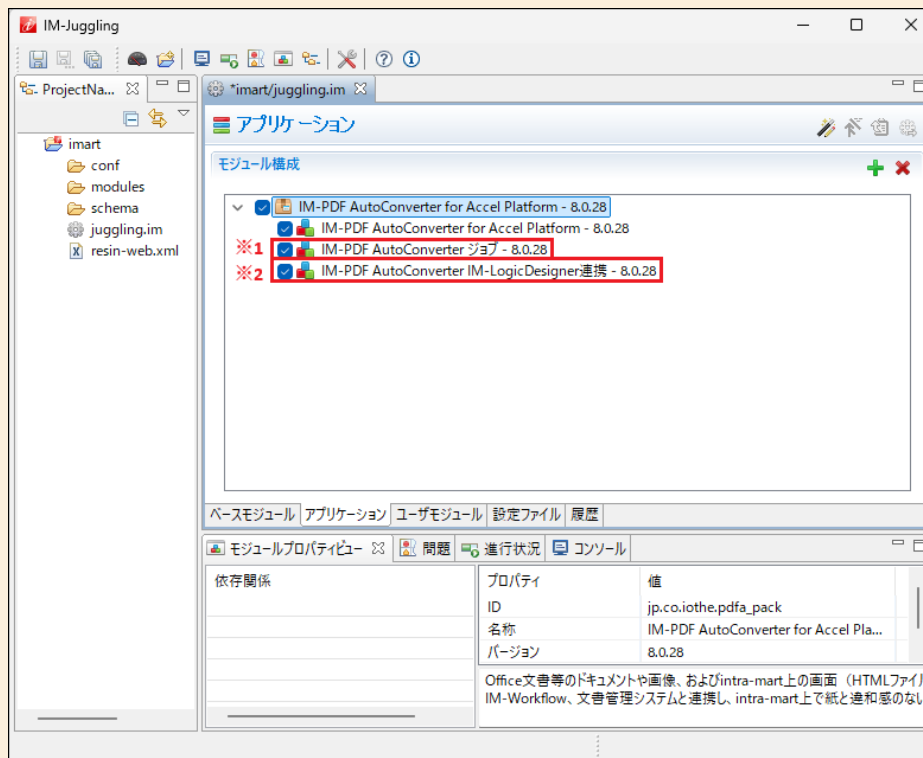
既に IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を導入中で、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.6 以上にバージョンアップする場合には、IM-Juggling のユーザモジュールから IM-PDFCoordinator for Accel Platform を削除してください。



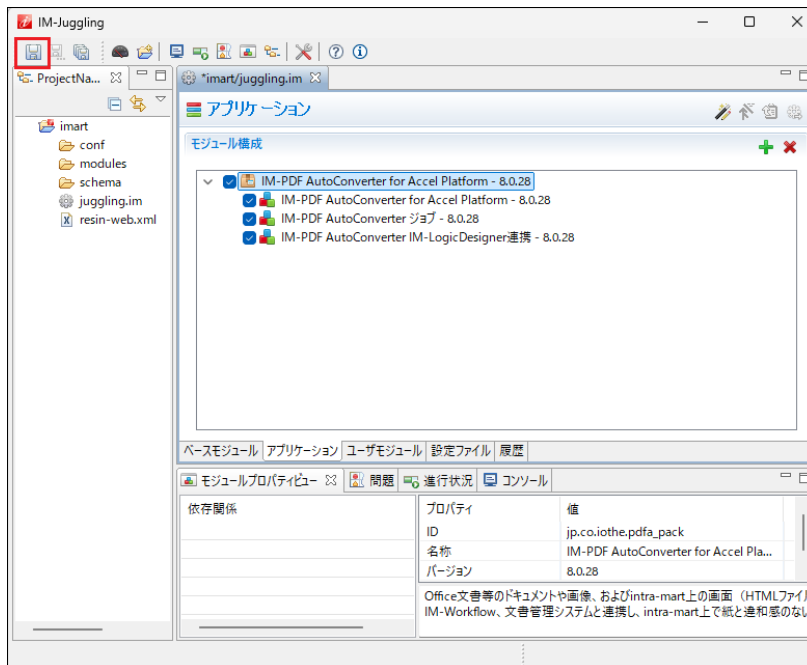
注意

使用する機能に合わせ、次のモジュールにチェックを入れてください。

- ジョブ
 - IM-PDFAutoConverter ジョブ (※1)
- IM-LogicDesigner連携
 - IM-PDFAutoConverter ジョブ (※1)
 - IM-PDFAutoConverter IM-LogicDesigner連携 (※2)



4. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



設定ファイルの追加・編集

IM-Juggling 上での IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の設定ファイルに関する手順を示します。

コラム

intra-mart Accel Platform の設定ファイルについては、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[基盤の設定ファイル](#)」を参照してください。

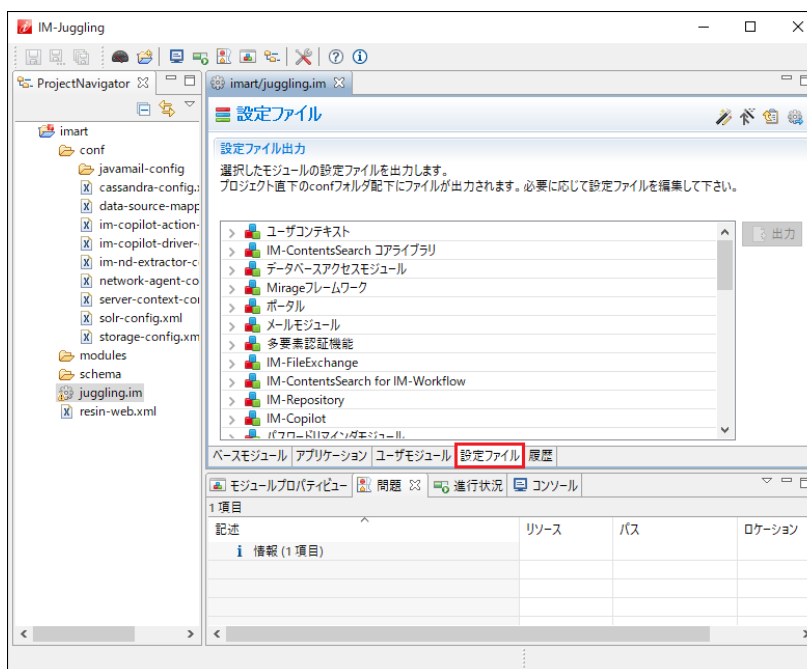
PDFオートコンバータEX < autoex-config.xml >

PDFオートコンバータEX の設定ファイル< autoex-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。

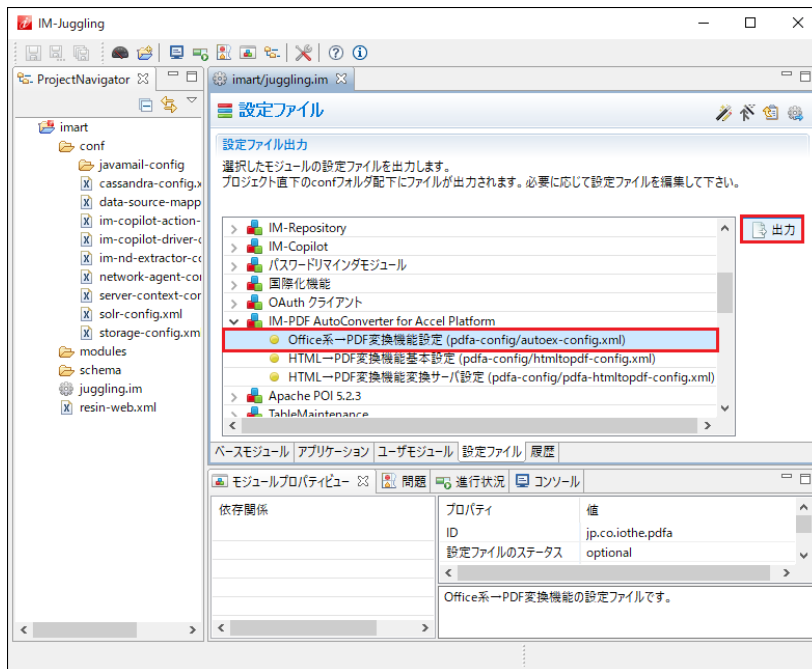
注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

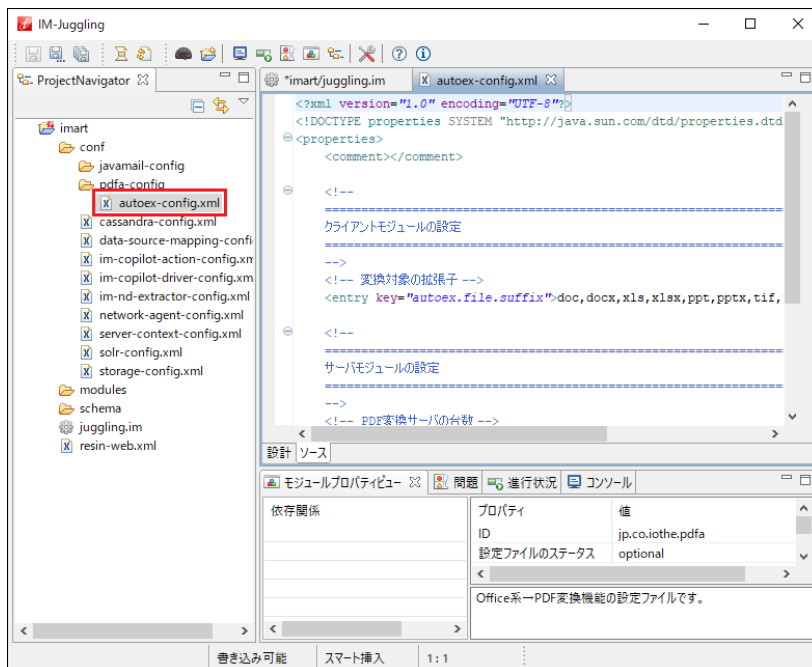
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



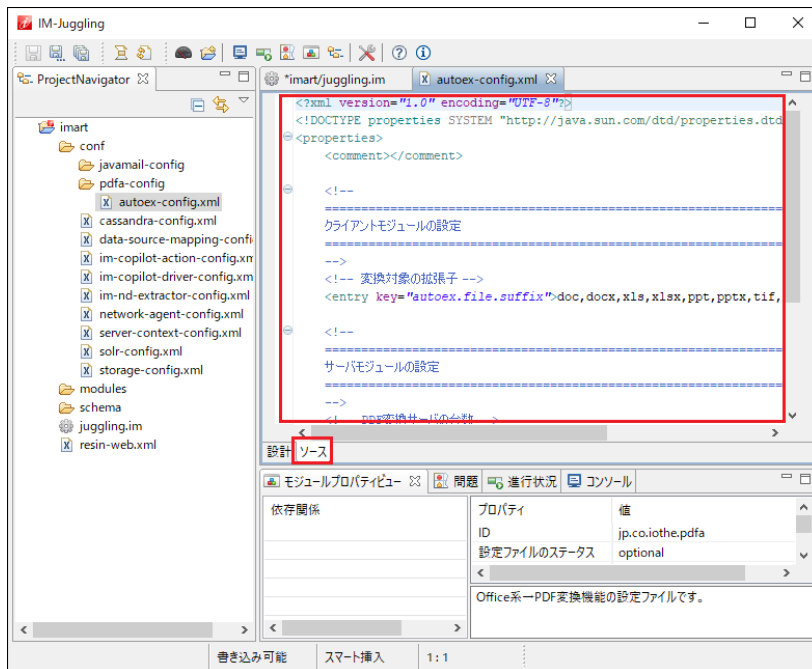
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」-「Office系→PDF変換 機能設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config >フォルダ配下に、設定ファイル< autoex-config.xml >が追加されます。



4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。



次は、PDF変換サーバ 3台で運用する場合のサンプルです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <comment></comment>

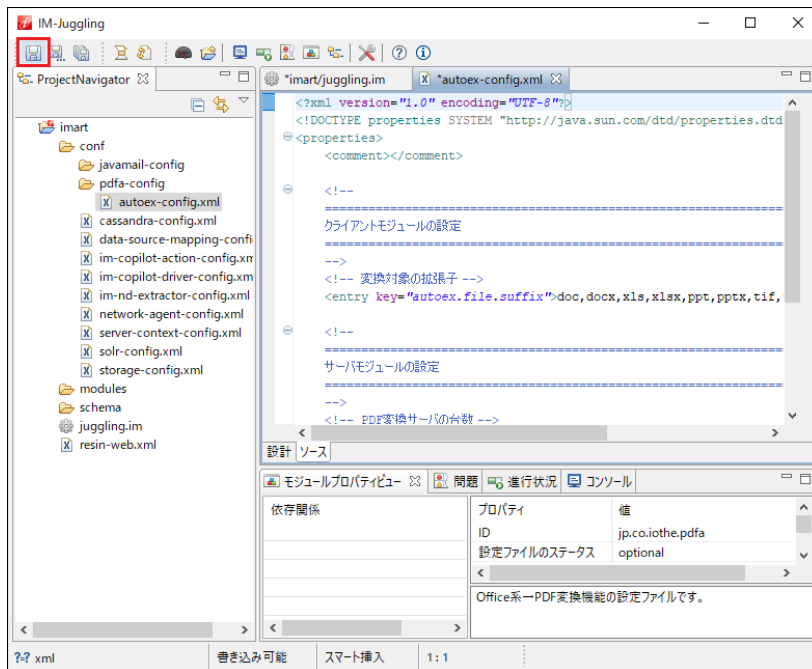
  <!--
  クライアントモジュールの設定
  -->
  <!-- 変換対象の拡張子 -->
  <entry key="autoex.file.suffix">doc,docx,xls,xlsx,ppt,pptx,tif,tiff,xdw,xbd,bmp,jpg,png,gif</entry>

  <!--
  サーバモジュールの設定
  -->
  <!-- PDF変換サーバの台数 -->
  <entry key="autoex.num">3</entry>

  <!-- 1台目のサーバの設定 -->
  <!-- PDF変換サーバのIPアドレスまたはホスト名 + ポート番号 -->
  <entry key="autoex.1.host">192.168.0.1:8080</entry>
  <entry key="autoex.2.host">192.168.0.2:8080</entry>
  <entry key="autoex.3.host">192.168.0.2:8080</entry>

  <!-- PDF変換サーバへの接続のリトライ回数 -->
  <entry key="autoex.retry">3</entry>
</properties>
```

5. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



HTML→PDF変換 < pdfa-htmltopdf-config.xml >

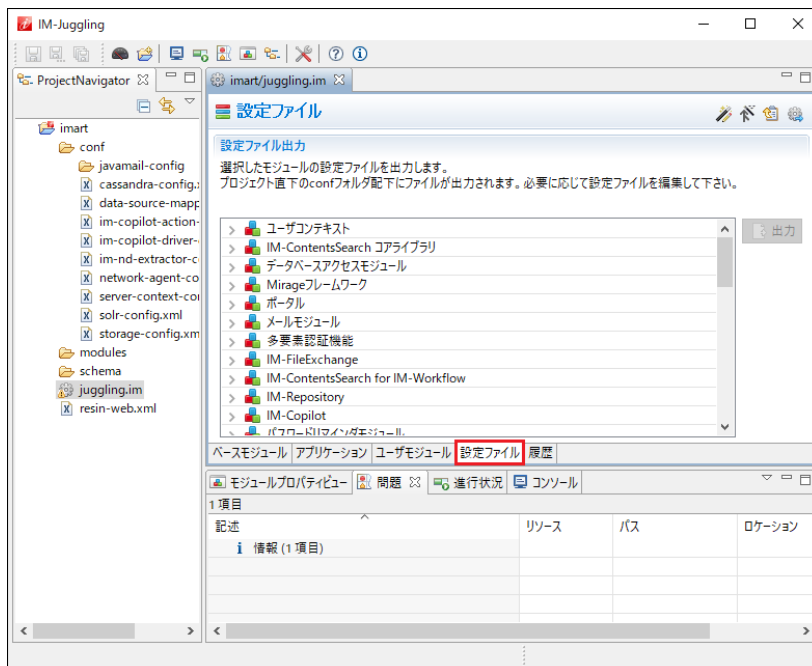
HTML→PDF変換 の設定ファイル< pdfa-htmltopdf-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。



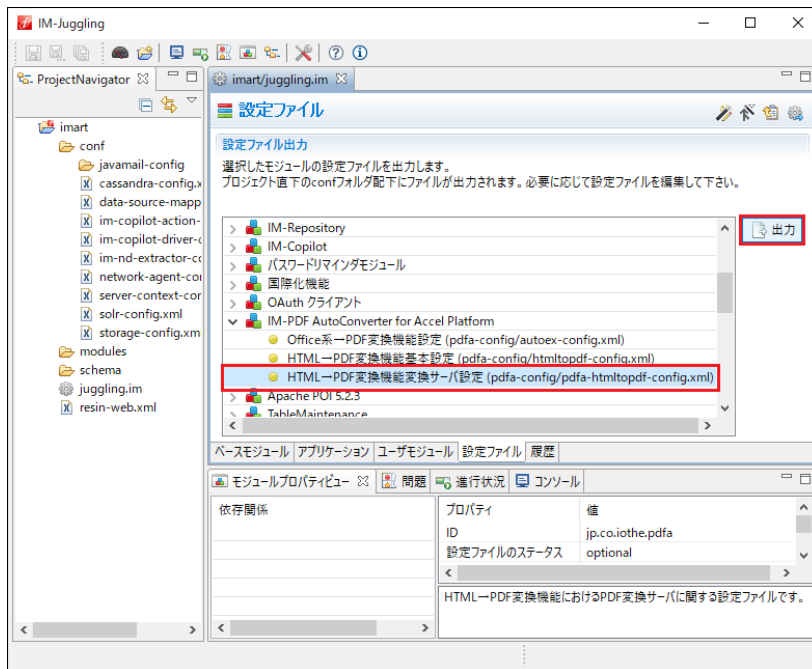
注意

HTML→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

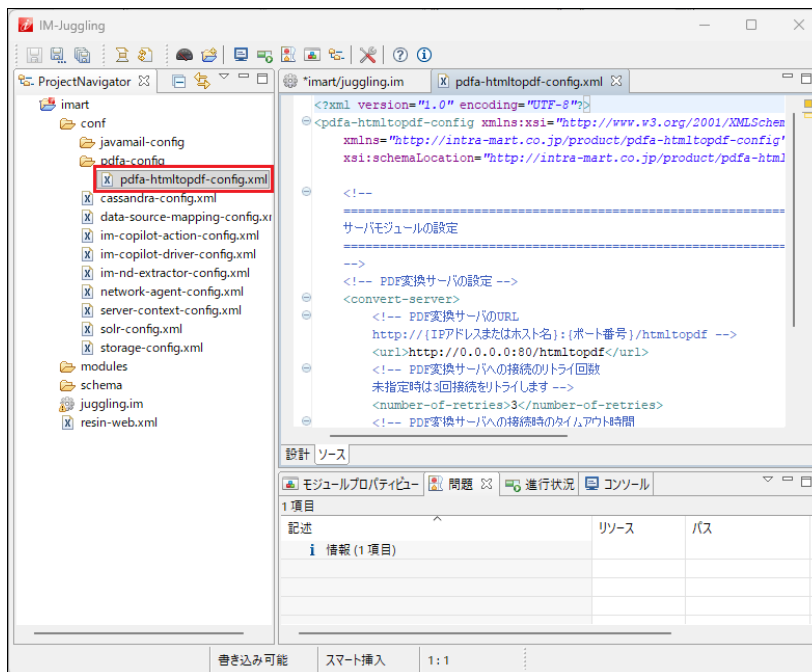
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



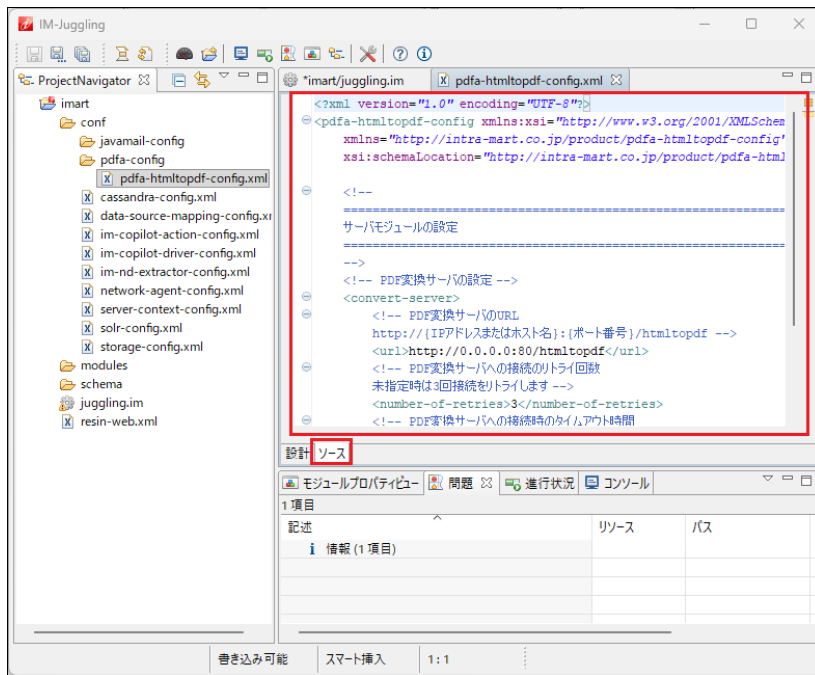
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」 - 「HTML→PDF変換 機能変換サーバ設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config > フォルダ配下に、設定ファイル< pdfa-htmtopdf-config.xml > が追加されます。



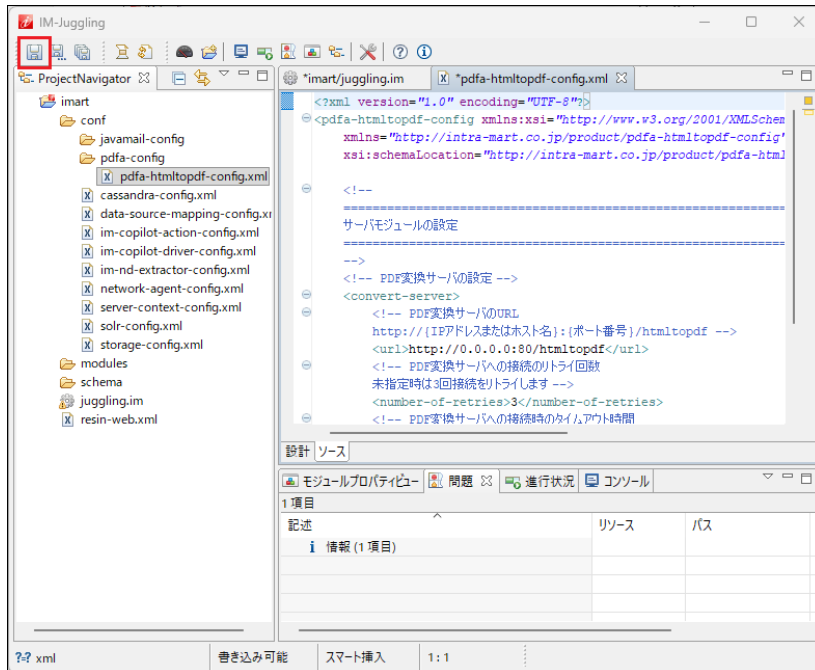
4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。



設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/任意	初期値
<convert-server>	PDF変換サーバ に関する設定	必須	—
/<url>	PDF変換サーバ のアドレス	必須	http://0.0.0.0:80/htmtopdf
/<number-of-retries>	PDF変換サーバ への接続のリトライ回数	任意	3
/<connection-timeout>	PDF変換サーバ へ接続する際のタイムアウト時間（秒）	任意	60
/<socket-timeout>	PDF変換サーバ への接続後のタイムアウト時間（秒）	任意	200

5. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



IM-LogicDesigner連携 < pdfa-logic-config.xml >

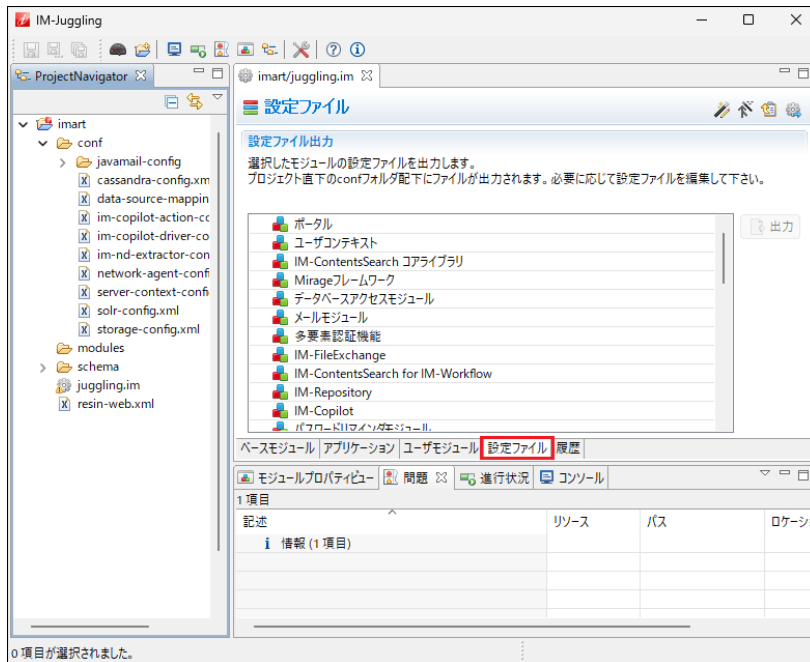
IM-LogicDesigner連携 の設定ファイル< pdfa-logic-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。



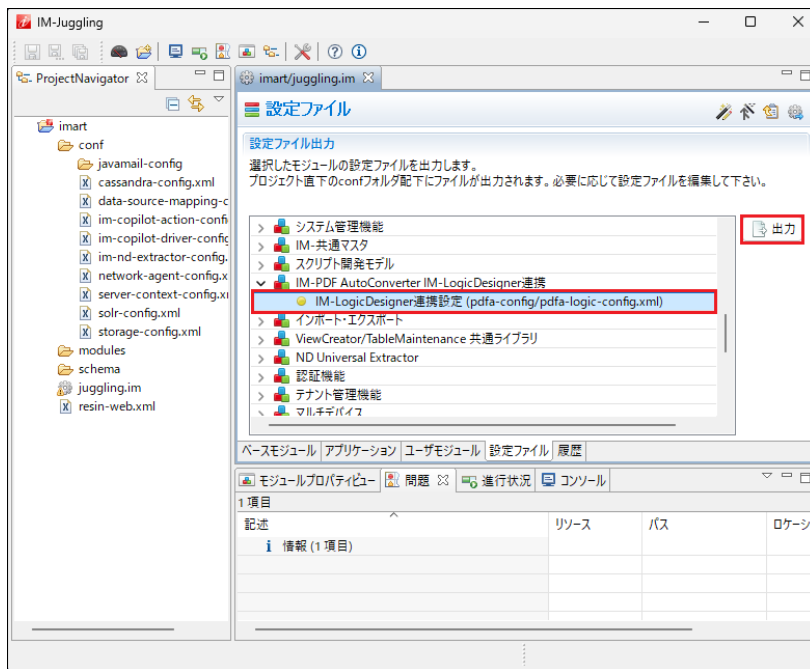
注意

IM-LogicDesigner連携 を使用しない場合、手順は不要です。

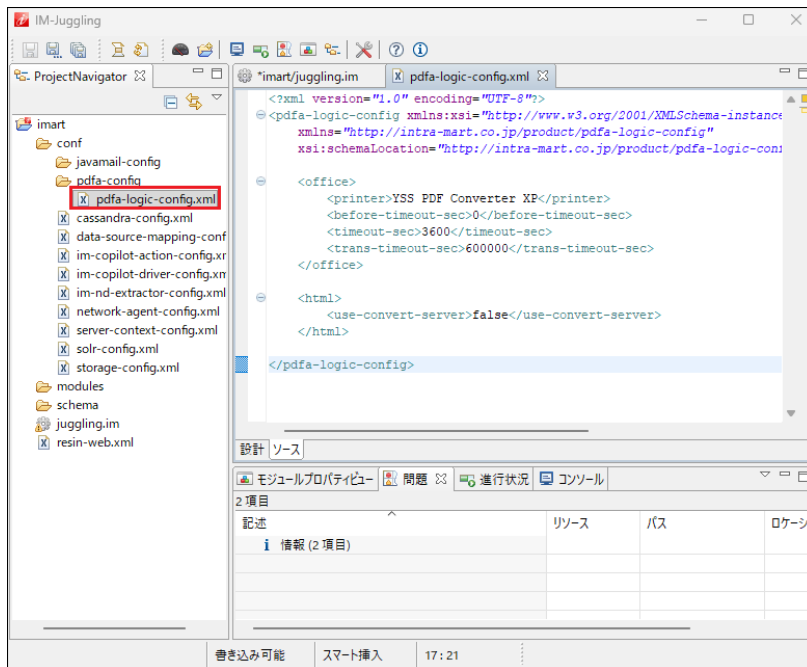
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



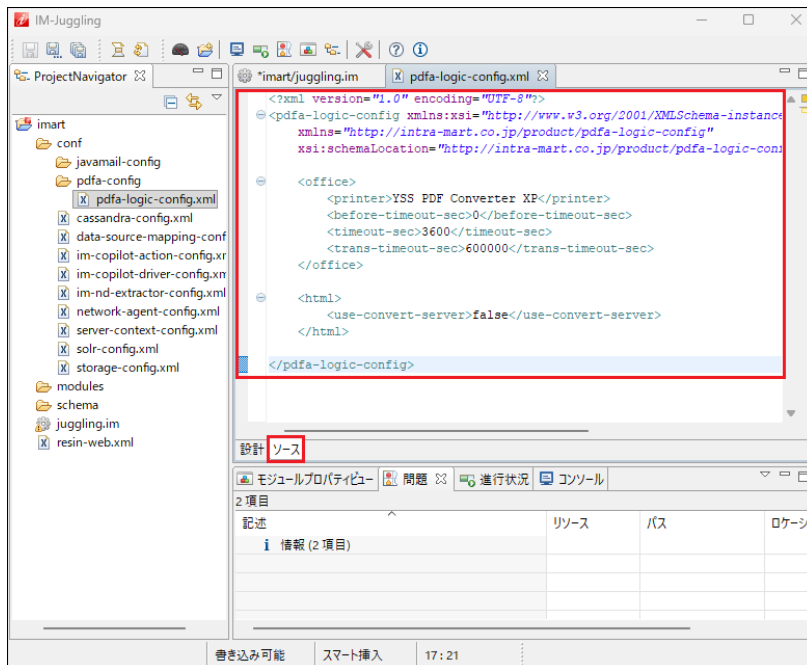
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」-「IM-LogicDesigner連携 設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config > フォルダ配下に、設定ファイル< pdfa-logic-config.xml >が追加されます。



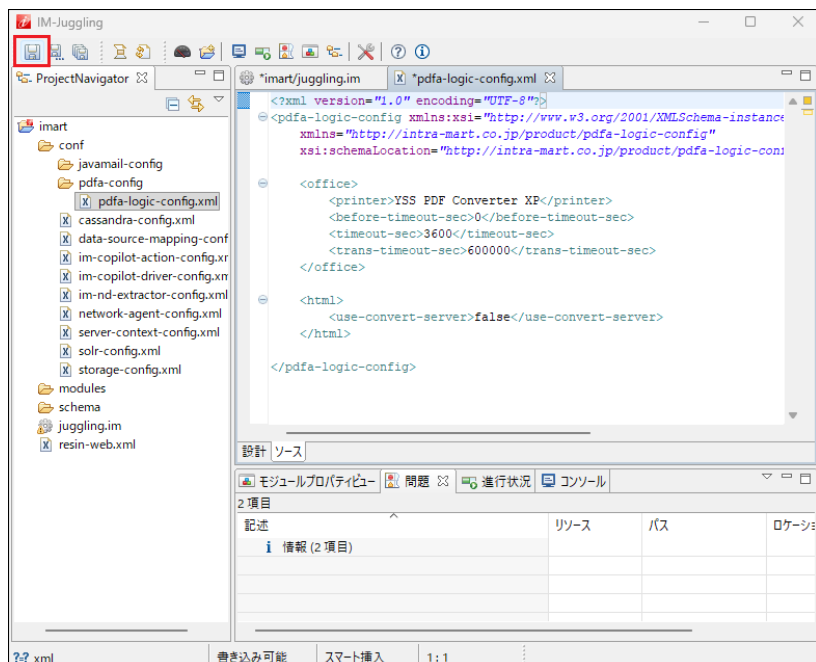
4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。



設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/任意	初期値
<office>	Office系→PDF変換 に関する設定	必須	—
/<printer>	変換時に使用するプリンタ名	必須	YSS PDF Converter XP
/<before-timeout-sec>	変換前のタイムアウト時間（秒）	任意	0
/<timeout-sec>	変換後のタイムアウト時間（秒）	任意	3600
/<trans-timeout-sec>	PDF変換サーバへのファイル転送のタイムアウト時間（ミリ秒）	任意	600000
<html>	HTML→PDF変換 に関する設定	必須	—
/<use-convert-server>	システム構成 スタンドアローン構成：false 分散構成：true	必須	false

5. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



WARファイル・静的ファイルの出力

WARファイル、静的ファイルを出力します。

出力手順については、次のドキュメントを参照してください。

- 「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[WARファイルの出力](#)」
- 「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[静的ファイルの出力](#)」

スタンドアローン構成

ミドルウェア製品の起動・停止を行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[Web Application Server の起動・停止](#)」を参照してください。

分散構成

項目

- [intra-mart Accel Platform](#)
- [PDF変換サーバ](#)
 - [Apache Tomcat の起動・停止](#)

[intra-mart Accel Platform](#)

ミドルウェア製品の起動・停止を行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[Web Application Server の起動・停止](#)」を参照してください。

[PDF変換サーバ](#)

[Apache Tomcat の起動・停止](#)

1. PDF変換サーバ に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインします。
2. Apache Tomcat を起動します。



コラム

Apache Tomcat の起動・停止の手順については、次のサイトを確認してください。

<http://tomcat.apache.org/>（2026年 10月 現在）



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ の Apache Tomcat を起動します。

デプロイを行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[WARファイルのデプロイ](#)」を参照してください。

テナント環境セットアップについては、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[テナント環境セットアップ](#)」を参照してください。



注意

WARファイルに含まれているモジュールにより、

テナント環境セットアップにて表示されるウィザードの順序が変わります。

項目

- 環境変数
- 環境変数の確認

環境変数

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の設定手順を示します。

Windows の場合

Windows での設定ファイルの環境変数の設定手順を示します。

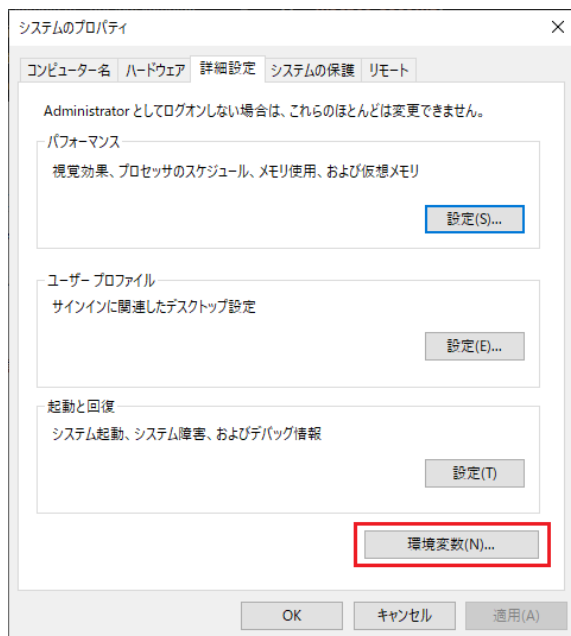
1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」-「システムの詳細設定」をクリックします。



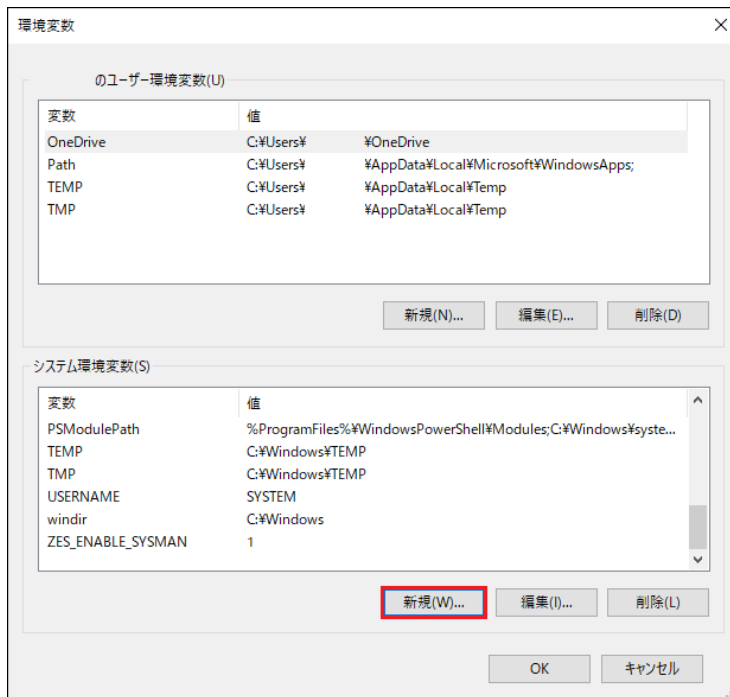
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「新規」をクリックします。

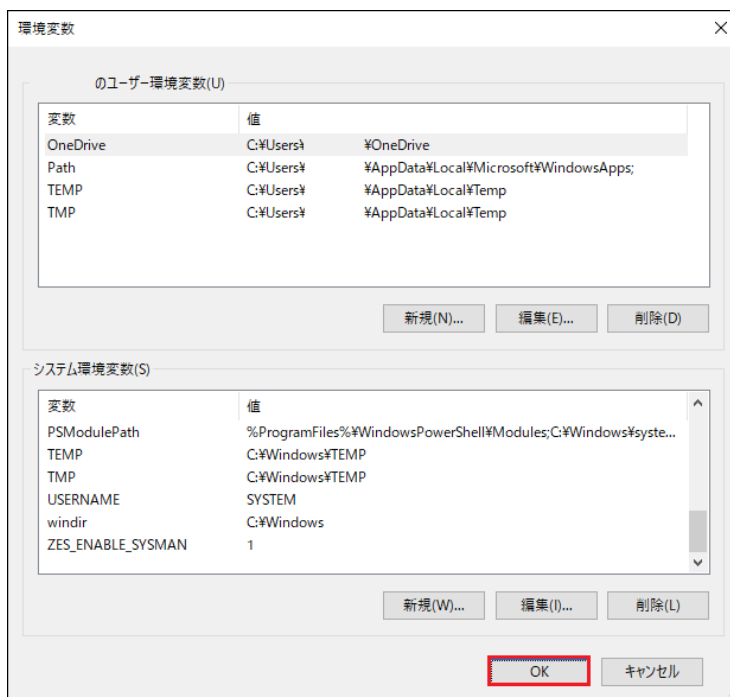


4. 「新しいシステム変数」画面が表示されるので、設定ファイルのパスに関する環境変数を入力し、「OK」をクリックします。

変数名	変数値
CLASSPATH	%RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名のディレクトリ}/WEB-INF/conf/pdfa-config



5. 「OK」をクリックします。



6. Resin を再起動します。

コラム

設定した環境変数が有効な環境変数となっているか、テナント環境セットアップ後に確認を行います。

確認手順は、次を参照してください。

- スタンドアローン構成：「[スタンドアローン構成](#)」
- 分散構成：「[分散構成](#)」

Linux の場合

Linux で次の環境変数を設定後、Resin を再起動します。

環境変数名	設定値
CLASSPATH	%RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名のディレクトリ}/WEB-INF/conf/pdfa-config

コラム

設定した環境変数が有効な環境変数となっているか、テナント環境セットアップ後に確認を行います。

確認手順は、次を参照してください。

- スタンドアローン構成：「[スタンドアローン構成](#)」
- 分散構成：「[分散構成](#)」

環境変数の確認

設定した環境変数が有効となっているか確認する手順を示します。

スタンドアローン構成

環境変数の設定に使用したユーザやその権限、設定方法などによって、Resin の実行ユーザからみて有効な環境変数になっていない場合があります。

設定した環境変数が Resin 上で有効となっているか確認する手順を示します。

- テナント環境セットアップ後、システム管理者画面のホームウィジェットよりstatus.zipを取得し、解凍します。
- セットアップ時に設定した次の環境変数が、< status/system/platform_XX/environment/os.txt >に存在することを確認します。
存在しない場合は、環境変数の設定を見直してください。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数

- 「[Windows の場合](#)」／「[Linux の場合](#)」

項目	値
CLASSPATH	< %RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名のディレクトリ}/WEB-INF/conf/pdfa-config >

- 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数

- Windows の場合：「[環境変数](#)」

項目	値
PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >

- Linux の場合：「[環境変数](#)」

項目	値
HTMLTOPDF	< %HTMLTOPDF_HOME% >

項目	値
PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >
LD_LIBRARY_PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /lib >
DBUS_SESSION_BUS_ADDRESS	%セットアップ時に設定した値%
DISPLAY	%セットアップ時に設定した値%

分散構成

環境変数の設定に使用したユーザやその権限、設定方法などによって、有効な環境変数になっていない場合があります。

設定した環境変数が、Resin や PDF変換サーバ 上で有効となっているか確認する手順を示します。

- テナント環境セットアップ後、システム管理者画面のホームウィジェットよりstatus.zipを取得し、解凍します。
- セットアップ時に設定した次の環境変数が、< status/system/platform_XX/environment/os.txt >に存在することを確認します。
存在しない場合は、環境変数の設定を見直してください。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数

- 「[Windows の場合](#)」／「[Linux の場合](#)」

項目	値
CLASSPATH	< %RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名のディレクトリ}/WEB-INF/conf/pdfa-config >

- PDF変換サーバ に管理者権限を持つユーザでログインします。

- Apache Tomcat のプロセス情報を確認します。

プロセスが存在しない場合は、Apache Tomcat が起動しているか確認してください。

- セットアップ時に設定した次の環境変数が、プロセスに対して有効となっている環境変数の一覧に存在することを確認します。
存在しない場合は、環境変数の設定を見直してください。

- 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数

- Windows の場合：「[環境変数](#)」

項目	値
PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >

- Linux の場合：「[環境変数](#)」

項目	値
HTMLTOPDF	< %HTMLTOPDF_HOME% >
PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >
LD_LIBRARY_PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /lib >
DBUS_SESSION_BUS_ADDRESS	%セットアップ時に設定した値%
DISPLAY	%セットアップ時に設定した値%

- 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数

- 「[環境変数](#)」

項目	値
PATH	< % PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ% /bin >



注意

対象の連携エンジンをインストールしていない場合、手順は不要です。

ライセンスの登録を行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[ライセンスの登録](#)」を参照してください。

IM-Juggling を利用して最新モジュールの適用や、モジュール構成を変更する事ができます。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[アップデート パッチの適用](#)」を参照してください。

アップデート

intra-mart Accel Platform 本体のアップデートについては、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[アップデートの適用](#)」を参照してください。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のアップデートについては、次を参照してください。

スタンドアローン構成

項目

- [連携エンジンの再セットアップ](#)
 - [連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ](#)
- [WARファイルの再作成](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定](#)

連携エンジンの再セットアップ

連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ

Windows の場合

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」-「[Windows の場合](#)」を参照し、既存環境から HTMLtoPDF をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」-「[スタンドアローン構成](#)」を参照し、アップデート対象の HTMLtoPDF をセットアップしてください。

Linux の場合

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」-「[Linux の場合](#)」を参照し、既存環境から HTMLtoPDF をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」-「[スタンドアローン構成](#)」を参照し、アップデート対象の HTMLtoPDF をセットアップしてください。

WARファイルの再作成

IM-Juggling でモジュールのアップデートを適用し、WARファイルを再作成します。

WARファイルの作成手順については、「[WARファイルの作成](#)」-「[スタンドアローン構成](#)」を参照してください。



コラム

モジュールのアップデート手順については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[アップデートの適用](#)」を参照してください。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定

テナント環境セットアップ後に、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定を実施します。

詳細は、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定](#)」を参照してください。

分散構成

intra-mart Accel Platform での再セットアップの手順を示します。

項目

- WARファイルの再作成
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定

WARファイルの再作成

IM-Juggling でモジュールのアップデートを適用し、WARファイルを再作成します。

WARファイルの作成手順については、「[WARファイルの作成](#)」-「[分散構成](#)」を参照してください。



コラム

モジュールのアップデート手順については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[アップデートの適用](#)」を参照してください。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定

テナント環境セットアップ後に、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定を実施します。

詳細は、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の環境設定](#)」を参照してください。

PDF変換サーバ

PDF変換サーバ での再セットアップの手順を示します。



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対して再セットアップを行ってください。



注意

PDF変換サーバ での環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

項目

- ミドルウェアの再セットアップ
 - Apache Tomcat の再セットアップ
 - JDK の再インストール
 - Apache Tomcat の再インストール
 - 連携エンジンの再セットアップ
 - 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ
 - 連携エンジン PDFコンバータXP の再インストール
 - 連携エンジン PDFオートコンバータEX の再セットアップ

ミドルウェアの再セットアップ

アップデートに伴い、ミドルウェアのシステム要件の改変が発生した場合、ミドルウェアの再セットアップを行ってください。



注意

ミドルウェアのシステム要件の改変が発生しない場合、手順は不要です。

Apache Tomcat の再セットアップ

Apache Tomcat の再構築手順を示します。

Apache Tomcat は PDF変換サーバ に構築します。

JDK の再インストール

1. 「[JDK のアンインストール](#)」を参照し、既存環境からJDK をアンインストールしてください。

2. 「[JDK のインストール](#)」を参照し、アップデート対象のJDKをインストールしてください。

Apache Tomcat の再インストール

1. 「[Apache Tomcat のアンインストール](#)」を参照し、既存環境からApache Tomcatをアンインストールしてください。
2. 「[Apache Tomcat のインストール](#)」を参照し、アップデート対象のApache Tomcatをインストールしてください。

連携エンジンの再セットアップ

連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ

Windows の場合

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」 - 「[Windows の場合](#)」を参照し、既存環境からHTMLtoPDFをアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」 - 「[分散構成](#)」を参照し、アップデート対象のHTMLtoPDFをセットアップしてください。

Linux の場合

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」 - 「[Linux の場合](#)」を参照し、既存環境からHTMLtoPDFをアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」 - 「[分散構成](#)」を参照し、アップデート対象のHTMLtoPDFをセットアップしてください。



注意

HTML→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

連携エンジン PDFコンバータXP の再インストール

連携エンジン PDFコンバータXP の再インストール手順を示します。



注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

1. 「[連携エンジン PDFコンバータXP のアンインストール](#)」を参照し、既存環境から連携エンジン PDFコンバータXPをアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン PDFコンバータXP のインストール](#)」を参照し、アップデート対象の連携エンジン PDFコンバータXPをセットアップしてください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX の再セットアップ

連携エンジン PDFオートコンバータEX の再セットアップ手順を示します。



注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

1. 「[連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール](#)」を参照し、既存環境から連携エンジン PDFオートコンバータEXをアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ](#)」を参照し、アップデート対象の連携エンジン PDFオートコンバータEXをセットアップしてください。



注意

HTML→PDF変換 は、連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

上記機能を使用する場合、HTMLtoPDFに関連する手順は実施してください。

！ 注意

Office系→PDF変換 は、連携エンジン PDFコンバータXP、および、連携エンジン PDFオートコンバータEX が必要です。
上記機能を使用する場合、PDFコンバータXP、および、PDFオートコンバータEX に関連する手順は実施してください。

！ 注意

Office系→PDF変換 は [分散構成](#) のみ対応しています。 [スタンドアローン構成](#) は対応していません。

i コラム

HTML→PDF変換 は [スタンドアローン構成](#) と [分散構成](#) に対応しています。

パッチ

パッチの適用については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[パッチの適用](#)」を参照してください。

パッチ適用前の環境を構築している場合、個別作業が必要です。

個別作業の詳細については、次を参照してください。

- 「[2024 Autumn\(8.0.25\) にパッチを適用する際の個別作業](#)」
- 「[2025 Spring\(8.0.26\) にパッチを適用する際の個別作業](#)」

2024 Autumn(8.0.25) にパッチを適用する際の個別作業

Office系→PDF変換 をご利用いただいている場合は、パッチを適用してください。

また、パッチの適用に合わせて、連携エンジン PDFオートコンバータEX / 連携エンジン PDFコンバータXP の差し替えが必要となります。

連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のアンインストール

既存の 連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のアンインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」-「15章. アンインストールの方法」に沿って、PDFオートコンバータEX をアンインストールしてください。
3. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」-「5章. アンインストール」に沿って、PDFコンバータXP をアンインストールしてください。
4. PDF変換サーバ を再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のインストール

パッチ適用分の 連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」-「1章. インストール」に沿って、PDFコンバータXP をインストールしてください。

！ 注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFコンバータXP のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\PDFconverter\
```

3. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」-「5.1. PDF オートコンバータ EX のインストール」に沿って、PDFオートコンバータEX をインストールしてください。



注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFオートコンバータEX のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\AutoConverterEX\
```



注意

異なるバージョンの、PDFオートコンバータEX がインストールされている環境では、インストール前に次のフォルダを削除してください。

C:/YSS_Settings/Auto Converter EX

上記フォルダは隠しフォルダとなっているため、フォルダ名を直接入力し削除ください。

4. PDF変換サーバ を再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定

「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」の次の章の設定をしてください。

- 「6.1. [611] エラー抑止（必須設定）」
- 「6.2.エラー時のダイアログ抑止（必須設定）」
- 「6.3.1.【設定項目 1】（必須設定）」～「6.3.8.【設定項目 8】（必須設定）」
- 「6.7.PDF ファイルのフォント埋め込み(必須設定)」
- 「7.1.Word用紙設定(必須設定)」
- 「8.1.Excel用紙設定(必須設定)」
- 「8.2.Excel の印刷効果の設定(必須設定)」
- 「9.1.PowerPoint印刷効果の設定(必須設定)」
- 「11.1.3.拡張子別設定の調整(必須設定)」
- 「11.1.4.アウトラインファイルの変数の設定(必須設定)」

連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動

変換対象のファイルに外字が含まれている場合は、連携エンジン PDFオートコンバータEX の外字用サービスの起動が必要です。

「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」-「6.7.PDFフォントファイルのフォント埋め込み」の(4)～(11)を参照し、サービス「YSS Auto Converter EX(EUDC)」を起動してください。



注意

変換対象のファイルに外字が含まれていない場合、手順は不要です。



注意

サービスが自動で起動されるように、サービスのスタートアップの種類を「自動」に設定してください。

2025 Spring(8.0.26) にパッチを適用する際の個別作業

Office系→PDF変換 をご利用いただいている場合は、パッチを適用してください。

また、パッチの適用に合わせて、連携エンジン PDFオートコンバータEX / 連携エンジン PDFコンバータXP の差し替えが必要となります。

連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス削除

変換対象のファイルに外字が含まれている場合、連携エンジン PDFオートコンバータEX の既存のサービスの削除が必要です。

1. 連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス「YSS Auto Converter EX」を停止してください。

2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」 - 「14.2. サービス変換」を参照し、「サービス登録/削除」画面からサービス「YSS Auto Converter EX」を削除してください。



注意

変換対象のファイルに外字が含まれていない場合、手順は不要です。

連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のアンインストール

既存の 連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のアンインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」 - 「15章. アンインストールの方法」に沿って、PDFオートコンバータEX をアンインストールしてください。
3. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」 - 「5章. アンインストール」に沿って、PDFコンバータXP をアンインストールしてください。
4. PDF変換サーバを再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のインストール

パッチ適用分の 連携エンジン PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP のインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」 - 「1章. インストール」に沿って、PDFコンバータXP をインストールしてください。



注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFコンバータXP のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\PDFconverter\
```

3. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」 - 「5.1. PDF オートコンバータ EX のインストール」に沿って、PDFオートコンバータEX をインストールしてください。



注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFオートコンバータEX のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\AutoConverterEX\
```



注意

異なるバージョンの、PDFオートコンバータEX がインストールされている環境では、インストール前に次のフォルダを削除してください。

```
C:/YSS_Settings/Auto Converter EX
```

上記フォルダは隠しフォルダとなっているため、フォルダ名を直接入力し削除ください。

4. PDF変換サーバを再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定

「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」の次の章の設定をしてください。

- 「6.1. [611] エラー抑止 (必須設定)」
- 「6.2.エラー時のダイアログ抑止 (必須設定)」
- 「6.3.1. 【設定項目 1】 (必須設定)」～「6.3.8. 【設定項目 8】 (必須設定)」
- 「6.7.PDF ファイルのフォント埋め込み(必須設定)」
- 「7.1.Word用紙設定(必須設定)」
- 「8.1.Excel用紙設定(必須設定)」
- 「8.2.Excel の印刷効果の設定(必須設定)」
- 「9.1.PowerPoint印刷効果の設定(必須設定)」
- 「11.1.3.拡張子別設定の調整(必須設定)」
- 「11.1.4.アウトラインファイルの変数の設定(必須設定)」

連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動

変換対象のファイルに外字が含まれている場合は、連携エンジン PDFオートコンバータEX の外字用サービスの起動が必要です。

「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」-「6.7.PDFフォントファイルのフォント埋め込み」の(4)～(11)を参照し、サービス「YSS Auto Converter EX(EUDC)」を起動してください。



注意

変換対象のファイルに外字が含まれていない場合、手順は不要です。



注意

サービスが自動で起動されるように、サービスのスタートアップの種類を「自動」に設定してください。

モジュール構成の変更

モジュール構成の変更については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[モジュール構成の変更](#)」を参照してください。

スタンドアローン構成

項目

- アプリケーションの削除
- 環境変数の削除
- 連携エンジンのアンインストール

アプリケーションの削除

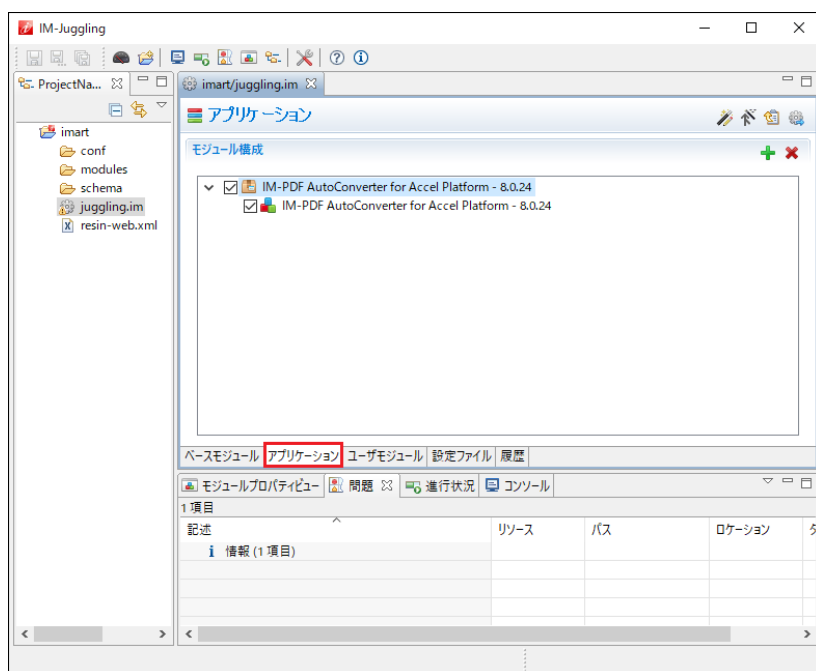
IM-PDFAutoConverter for Accel Platform をアンインストールする手順を示します。

i コラム

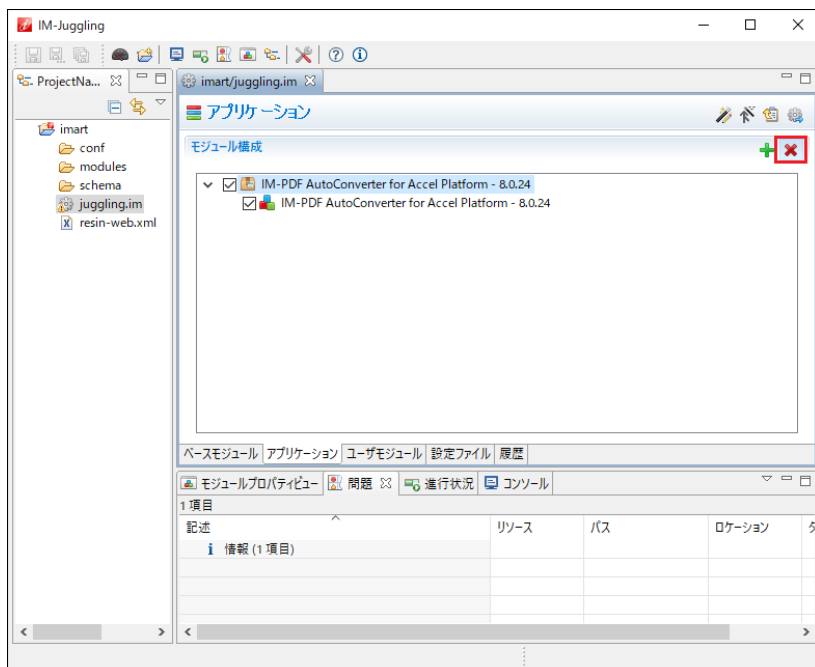
IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、intra-mart Accel Platform の追加アプリケーションです。

プロジェクト作成時にアプリケーションから IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を除外することで、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は削除されます。

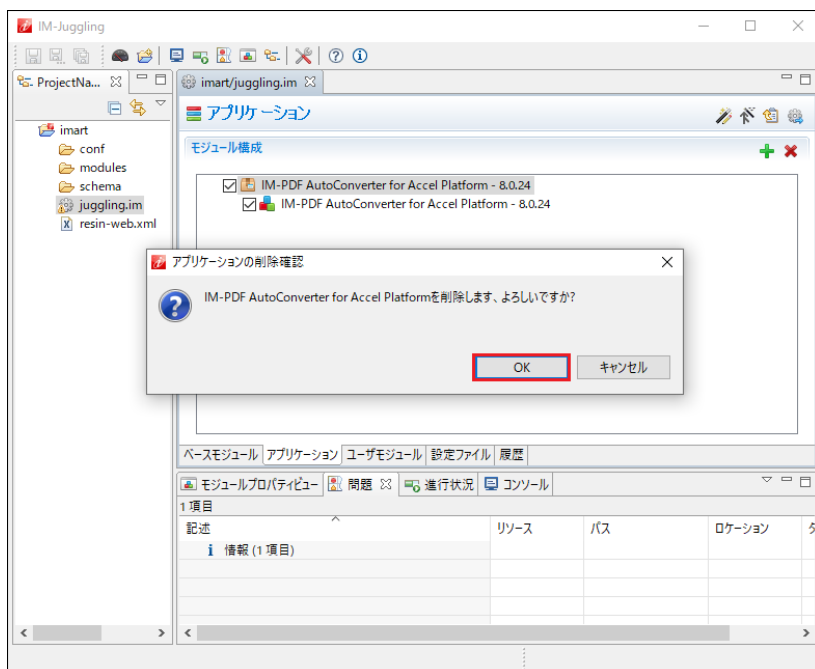
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「juggling.im」-「アプリケーション」タブを表示します。



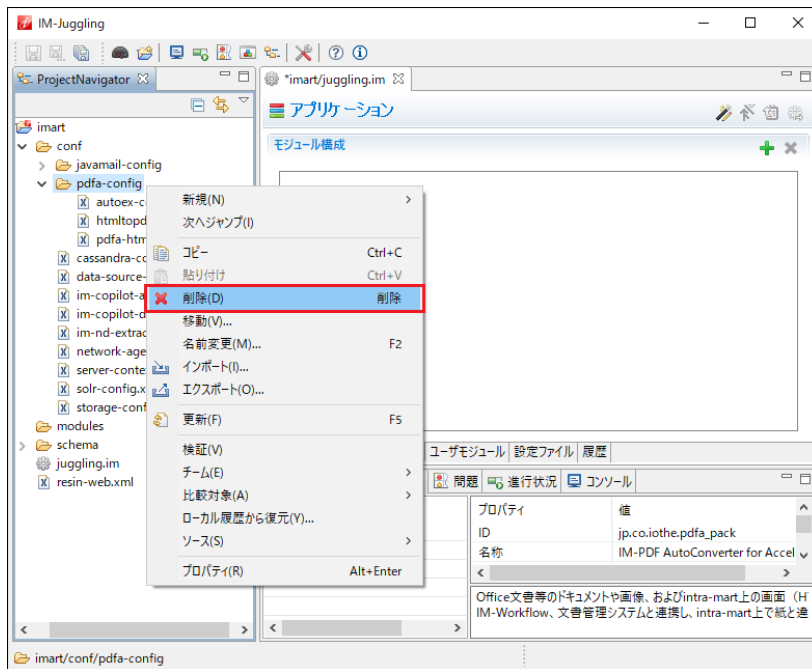
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を選択し、「削除」アイコンをクリックします。



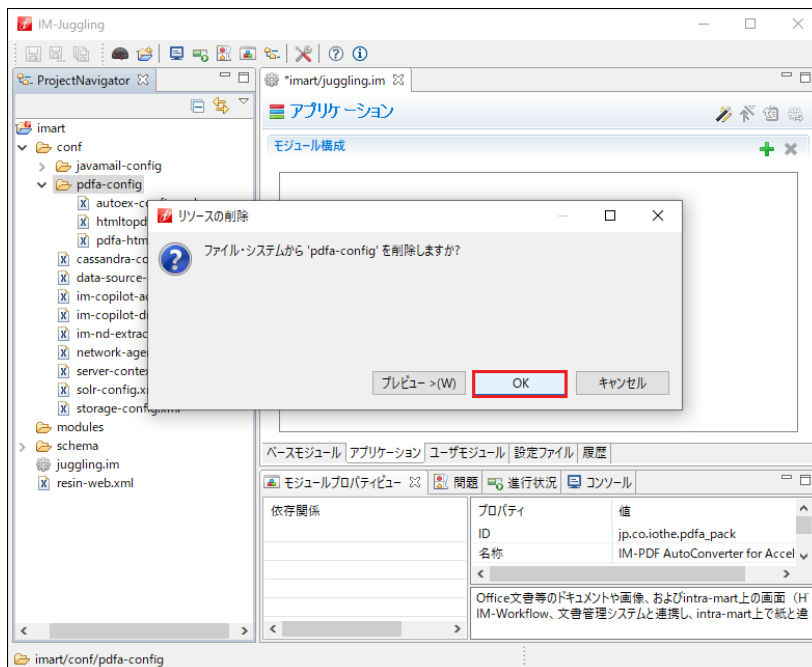
3. 削除の確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



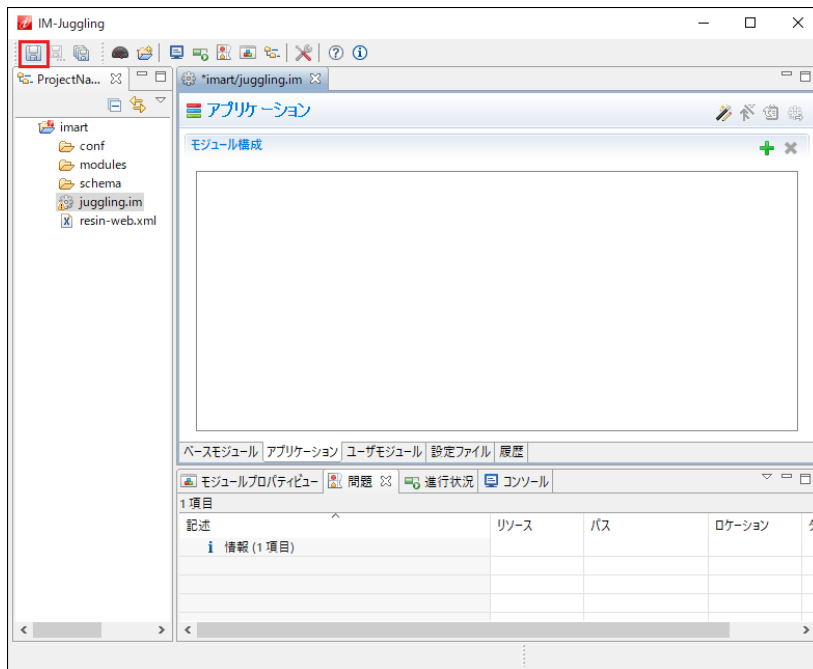
4. < conf >フォルダ配下に< pdfa-config >フォルダが出力されている場合は、< pdfa-config >フォルダを選択し、右クリック - 「削除」をクリックします。



5. 削除の確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



6. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



7. 編集したプロジェクトのWARファイルを出力します。



コラム

出力方法については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[WARファイルの出力](#)」を参照してください。

8. 既存のWARファイルをアンデプロイ後、出力したWARファイルを再デプロイします。



コラム

手順については、次を参照してください。

- 「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[WARファイルのアンデプロイ](#)」
- 「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[WARファイルのデプロイ](#)」

9. 編集したプロジェクトの静的ファイルを出力し、再配置します。



コラム

手順については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[静的ファイルの出力と再配置](#)」を参照してください。

環境変数の削除

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の削除手順を示します。

Windows の場合

Windows での設定ファイルの環境変数の削除手順を示します。

1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」-「システムの詳細設定」をクリックします。

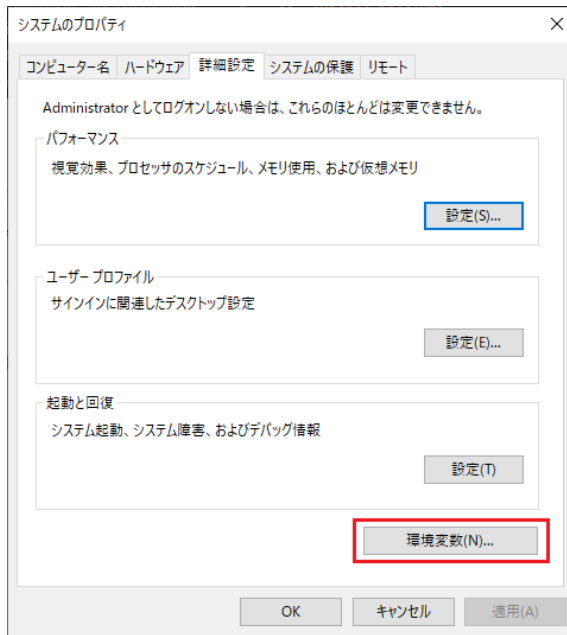




注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



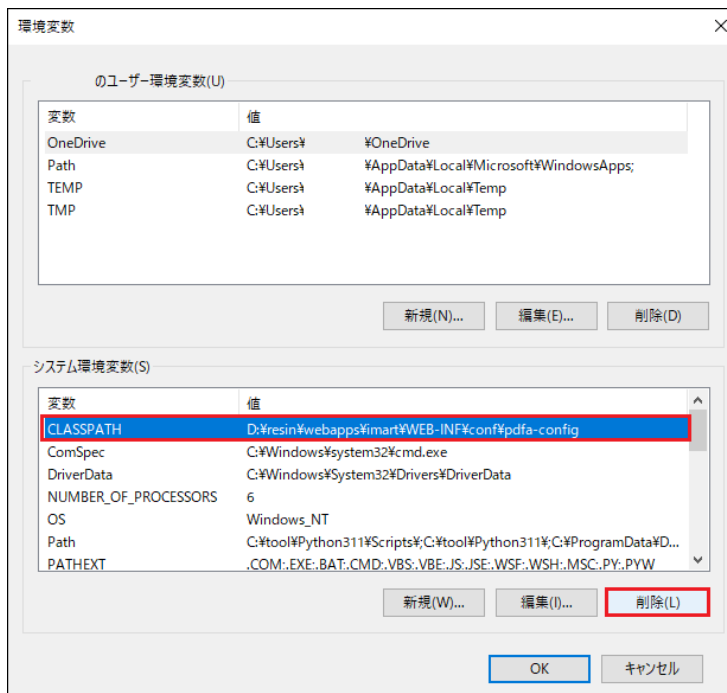
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」から設定ファイルのパスに関する環境変数を選択し、「削除」をクリックします。

変数名	変数値
CLASSPATH	%RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名のディレクトリ}/WEB-INF/conf/pdfa-config

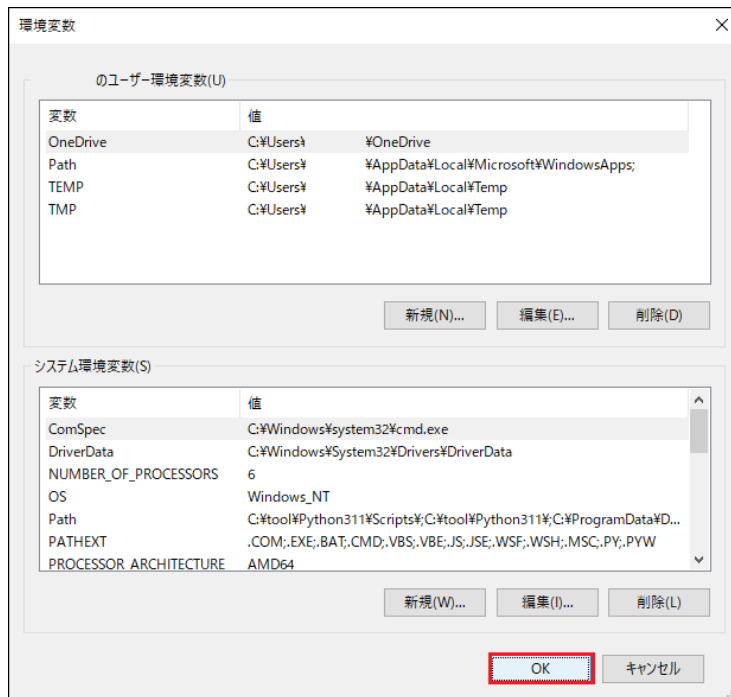


注意

上記以外の変数値がCLASSPATHに設定されている場合、CLASSPATH自体は削除せず、上記変数値のみ削除してください。



4. 「OK」をクリックします。



Linux の場合

「環境変数」 - 「Linux の場合」で追記した、設定ファイルのパスに関する環境変数の記述を削除してください。

連携エンジンのアンインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Windows の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

- 項目
- 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール
 - 環境変数の削除

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールした対象サーバに、管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール先フォルダを削除してください。

環境変数の削除

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の削除手順を示します。

1. 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「システム」 - 「システムの詳細設定」をクリックします。

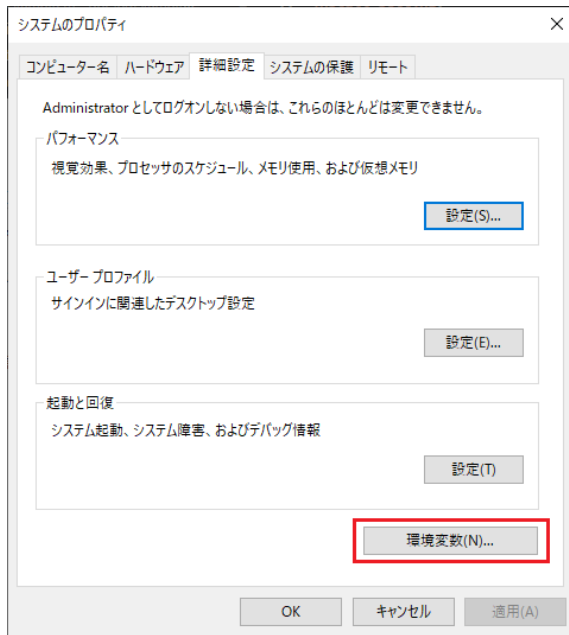




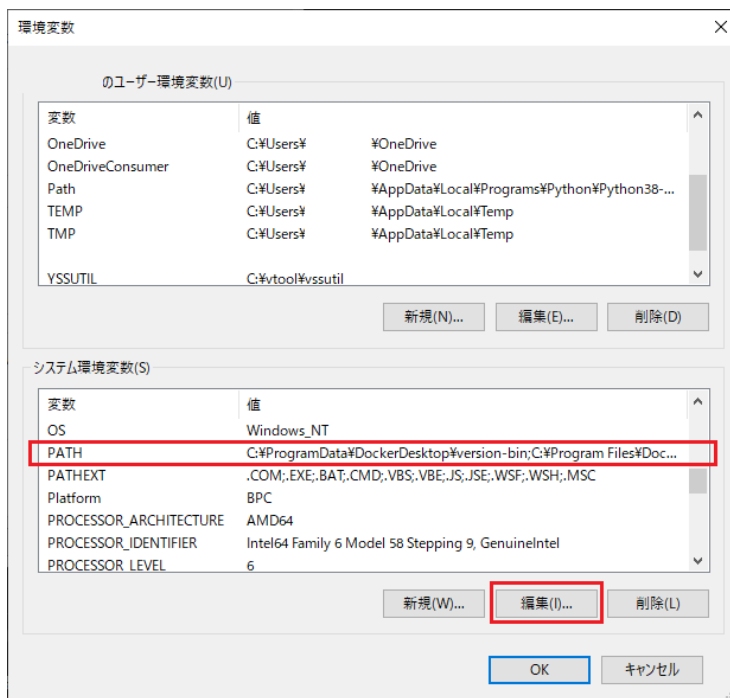
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

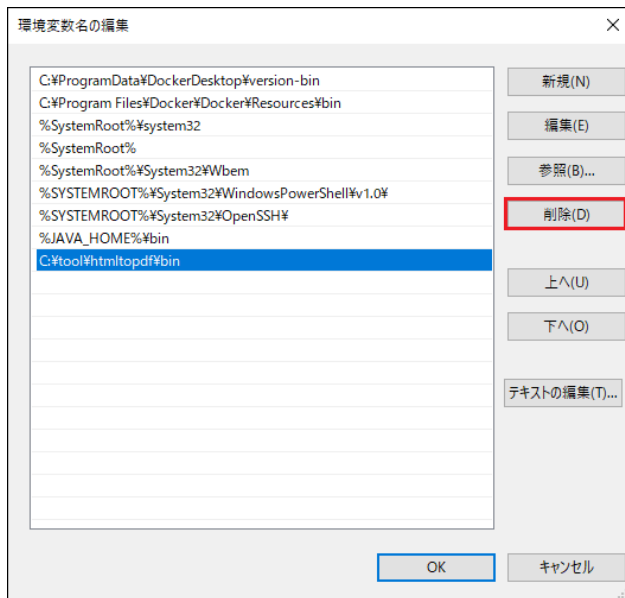
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



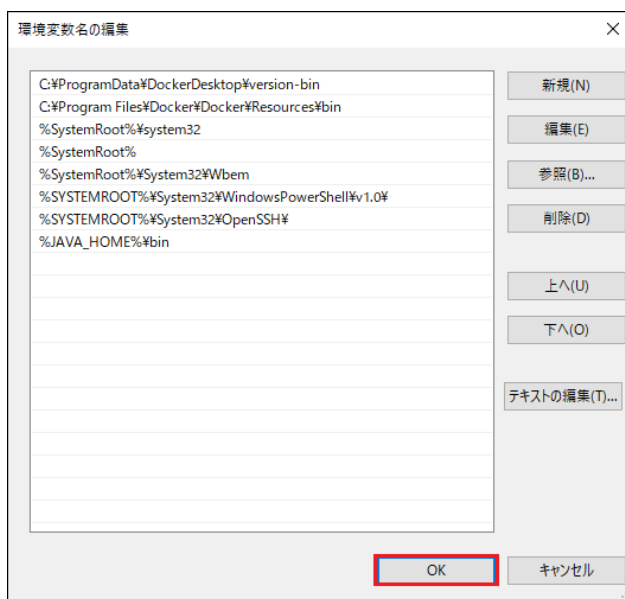
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



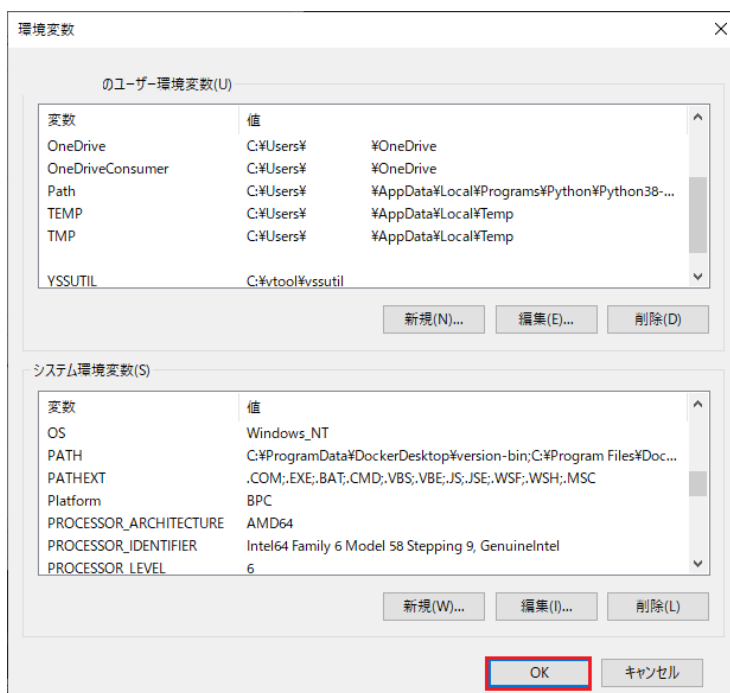
4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >のパスを選択し、「削除」をクリックします。



5. 「OK」をクリックします。



6. 「OK」をクリックします。



Linux の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)
- [環境変数の削除](#)
- [デスクトップ環境のアンインストール](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしたディレクトリ < %HTMLTOPDF_HOME% > をディレクトリごと削除します。
< %HTMLTOPDF_HOME% > を < /usr/local/htmltopdf/ > として説明します。

```
$ rm -r /usr/local/htmltopdf/
```

2. UPower が不要な場合は、アンインストールを行ってください。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum remove gobject-introspection libgudev
$ rpm -e upower-0.99.11-11.el9.x86_64
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

3. Xvfb が不要な場合は、アンインストールを行ってください。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ killall Xvfb
$ yum remove -y xorg-x11-server-Xvfb
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

4. セットアップ時にインストールしたフォントが不要な場合は、アンインストールを行ってください。

環境変数の削除

Linux でのセットアップ時に追記した次の環境変数の記述を削除してください。

- セットアップ時の手順
 - スタンドアローン構成 : 「 [環境変数](#) 」
 - 分散構成 : 「 [環境変数](#) 」
- 削除対象の環境変数
 - 連携エンジン HTMLtoPDF のパスに関する環境変数
 - 連携エンジン HTMLtoPDF 用のディスプレイの環境変数



注意

Wayland 環境の場合、ディスプレイの環境変数の削除は不要です。

デスクトップ環境のアンインストール

Linux でのデスクトップ環境のアンインストール手順を示します。

デスクトップ環境が不要な場合は、アンインストールを行ってください。



注意

Xvfb 環境の場合、手順は不要です。

1. CLI環境に切り替えます。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ systemctl set-default multi-user.target
```

2. サーバを再起動します。
3. グループ一覧を表示し、「Minimal Install（日本語環境では「最小限のインストール）」がインストール済みか確認します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum grouplist
```

インストールしていない場合はインストールします。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum group install -y "Minimal Install"
```

4. セットアップ時にインストールしたGUI関連パッケージを削除します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum group remove -y "Server with GUI"
```

分散構成

intra-mart Accel Platform

intra-mart Accel Platform でのアンインストールの手順を示します。

項目

- アプリケーションの削除
- 環境変数の削除

アプリケーションの削除

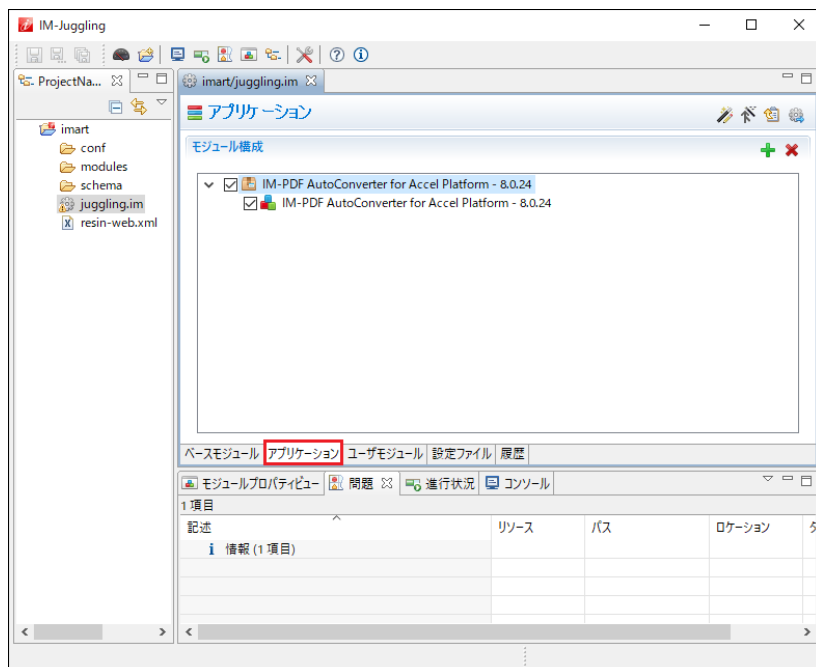
IM-PDFAutoConverter for Accel Platform をアンインストールする手順を示します。

コラム

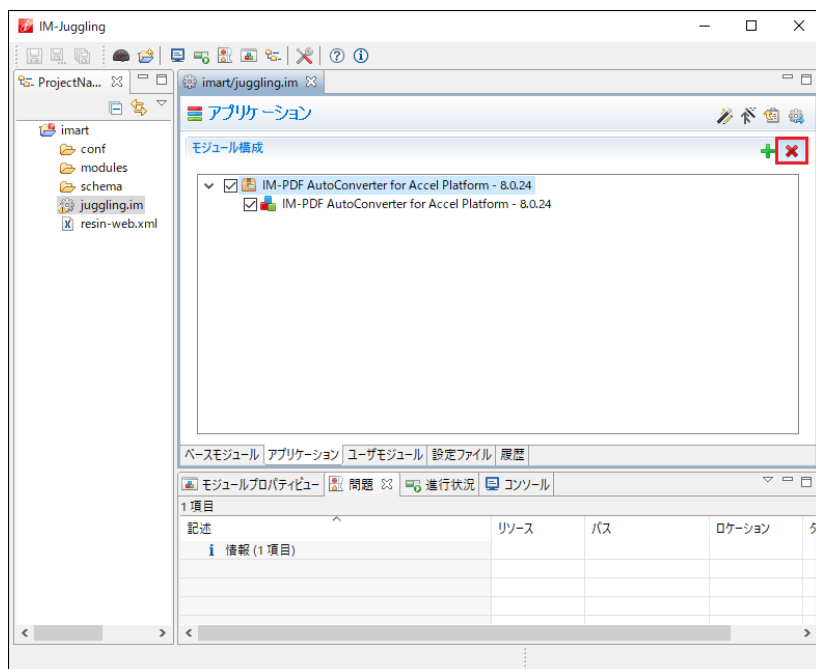
IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、intra-mart Accel Platform の追加アプリケーションです。

プロジェクト作成時にアプリケーションから IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を除外することで、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は削除されます。

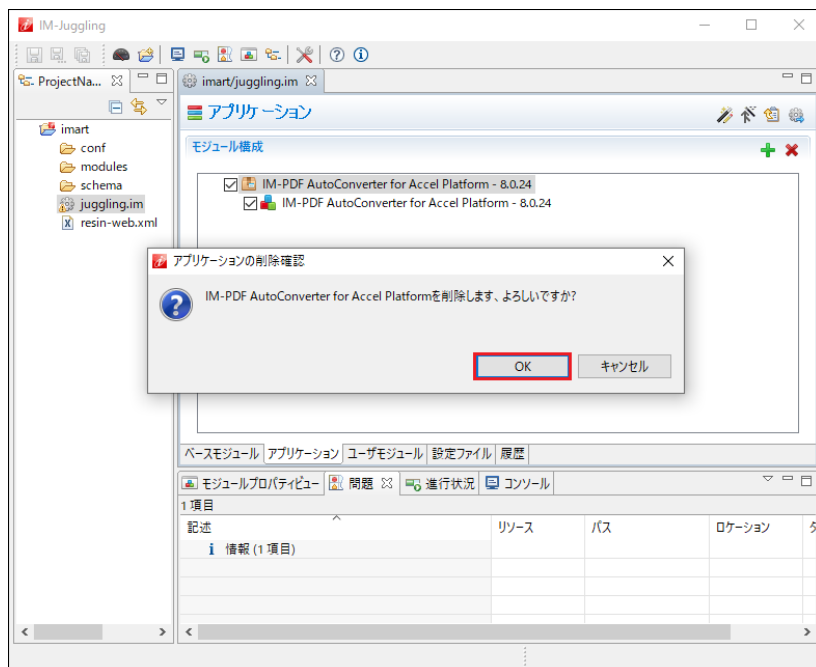
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「juggling.im」-「アプリケーション」タブを表示します。



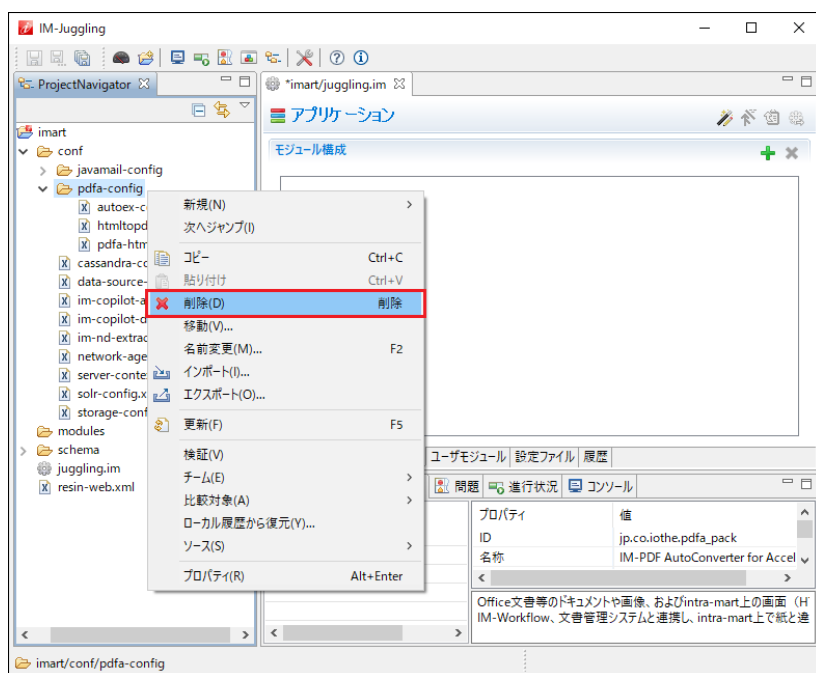
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を選択し、「削除」アイコンをクリックします。



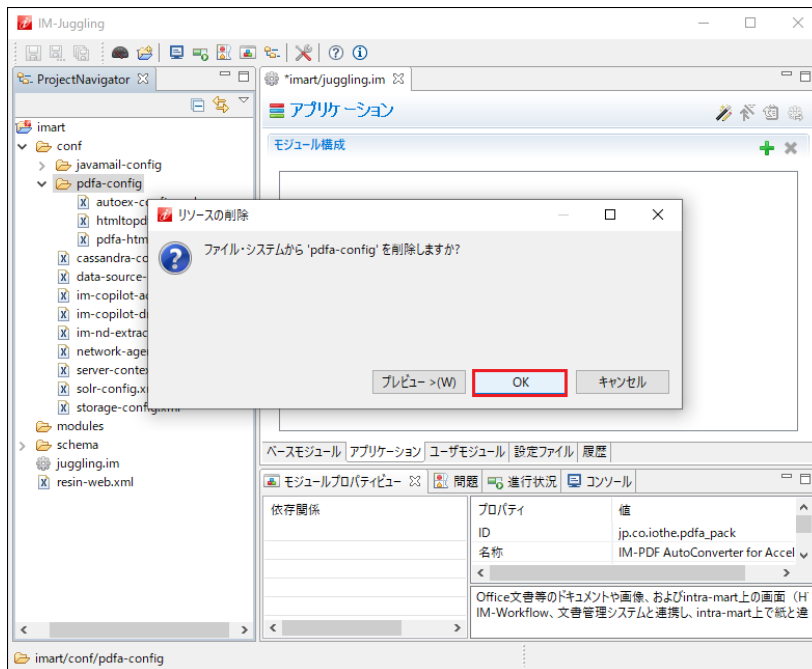
3. 削除の確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



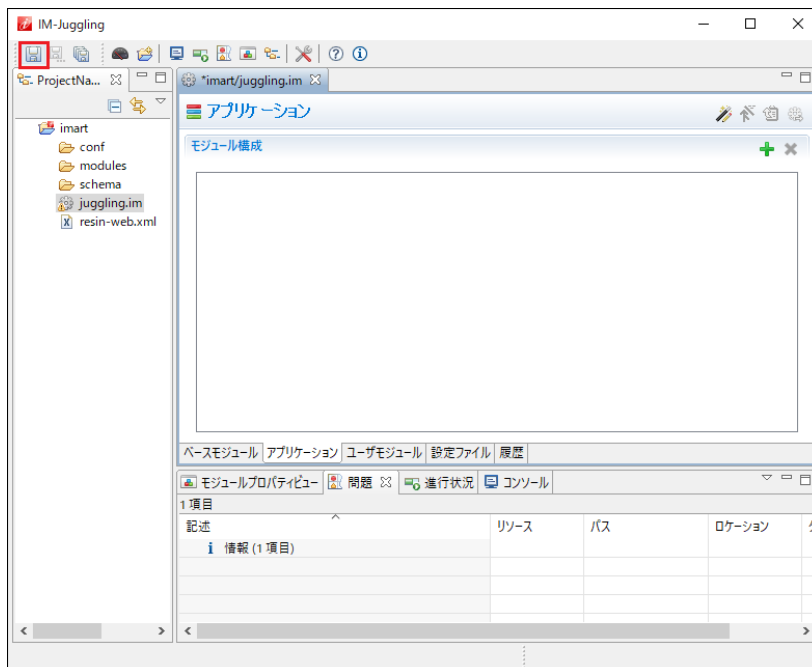
4. < conf >フォルダ配下に< pdfa-config >フォルダが出力されている場合は、< pdfa-config >フォルダを選択し、右クリック - 「削除」をクリックします。



5. 削除の確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



6. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



7. 編集したプロジェクトのWARファイルを出力します。



コラム

出力方法については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「WARファイルの出力」を参照してください。

8. 既存のWARファイルをアンデプロイ後、出力したWARファイルを再デプロイします。



コラム

手順については、次を参照してください。

- 「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「WARファイルのアンデプロイ」
- 「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「WARファイルのデプロイ」

9. 編集したプロジェクトの静的ファイルを出力し、再配置します。



コラム

手順については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「静的ファイルの出力と再配置」を参照してください。

環境変数の削除

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の削除手順を示します。

Windows の場合

Windows での設定ファイルの環境変数の削除手順を示します。

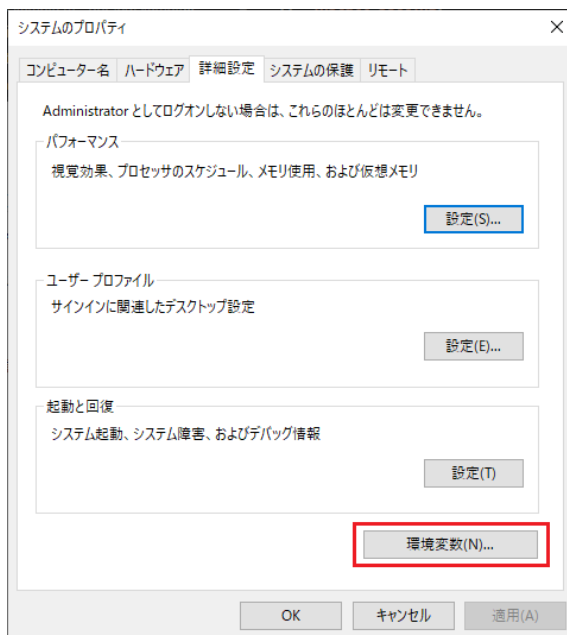
1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」-「システムの詳細設定」をクリックします。



注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



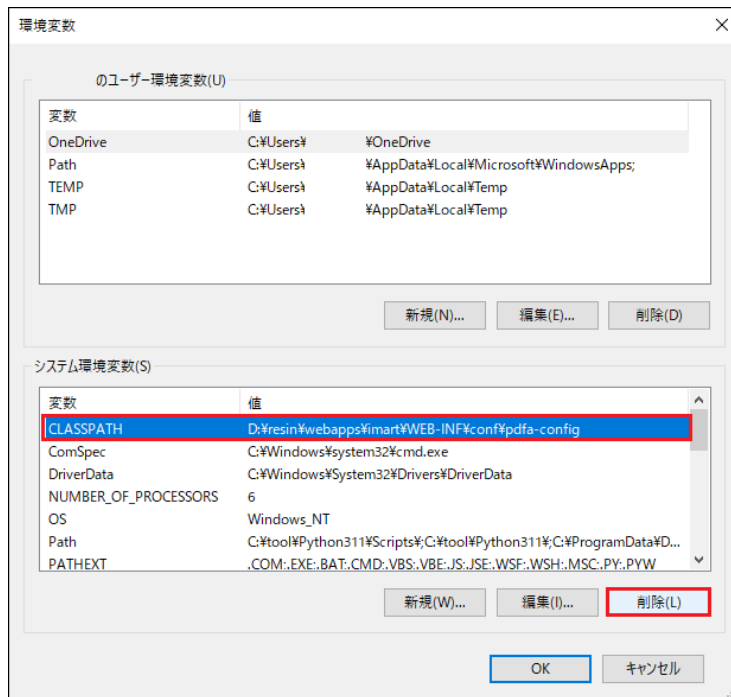
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」から設定ファイルのパスに関する環境変数を選択し、「削除」をクリックします。

変数名	変数値
CLASSPATH	%RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名のディレクトリ}/WEB-INF/conf/pdfa-config

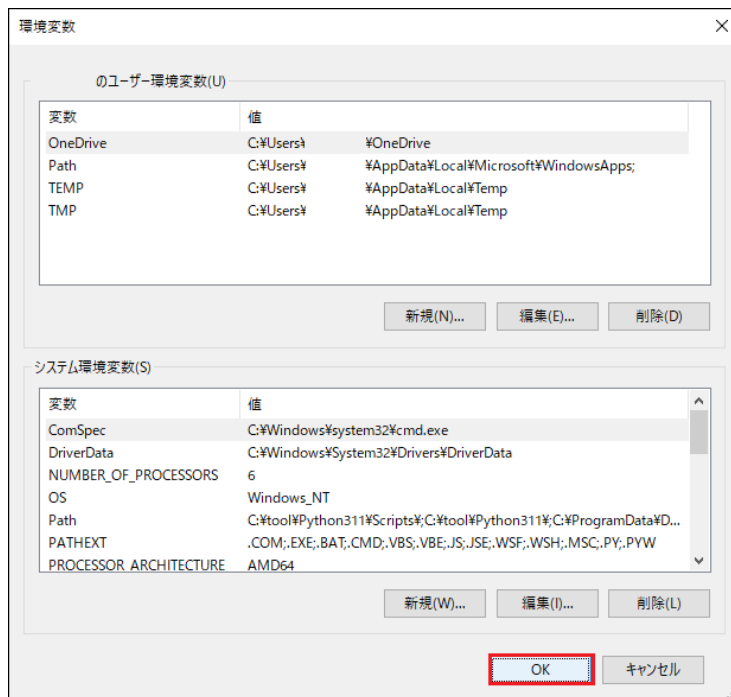


注意

上記以外の変数値がCLASSPATHに設定されている場合、CLASSPATH自体は削除せず、上記変数値のみ削除してください。



4. 「OK」をクリックします。



Linux の場合

「環境変数」 - 「Linux の場合」で追記した、設定ファイルのパスに関する環境変数の記述を削除してください。

PDF変換サーバ

PDF変換サーバでのアンインストールの手順を示します。



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してアンインストールを行ってください。



注意

PDF変換サーバでの環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

項目

- 連携エンジンのアンインストール
- ミドルウェアのアンインストール
 - Apache Tomcat のアンインストール
 - JDK のアンインストール
 - Apache Tomcat のアンインストール

連携エンジンのアンインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Windows の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

項目

- 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール
- 環境変数の削除
- WAR ファイルの削除

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールした対象サーバに、管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール先フォルダを削除してください。

環境変数の削除

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の削除手順を示します。

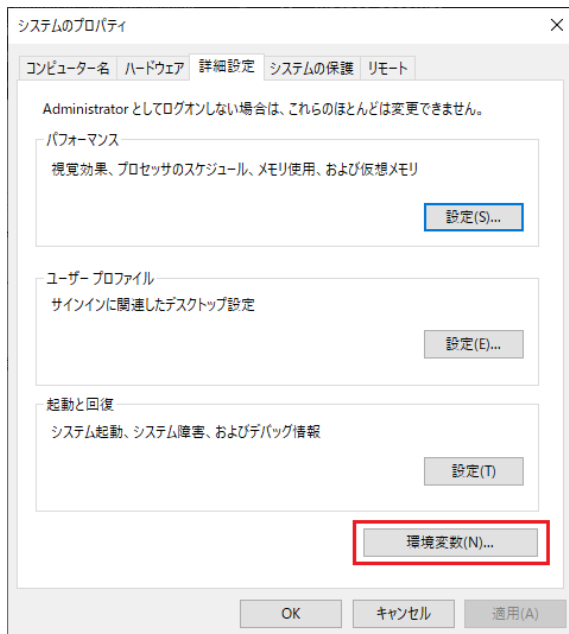
1. 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「システム」 - 「システムの詳細設定」をクリックします。



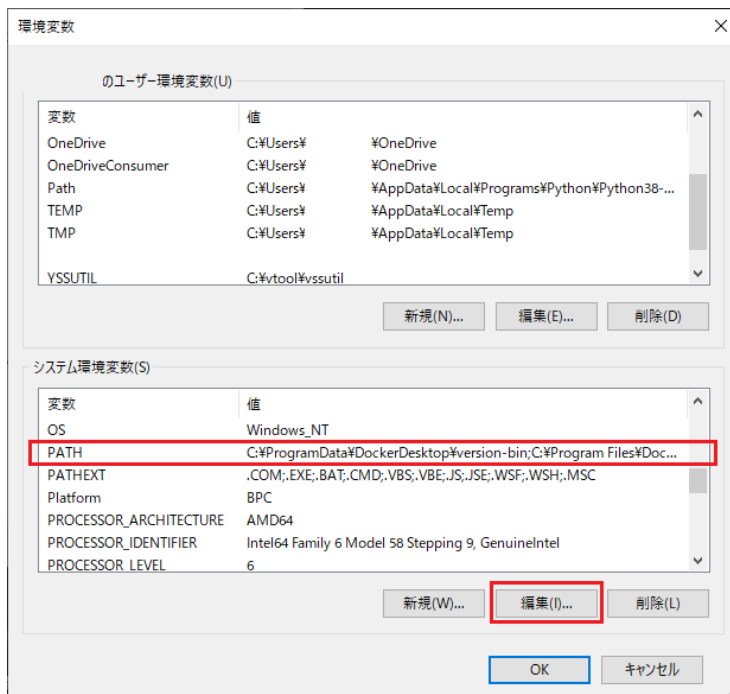
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

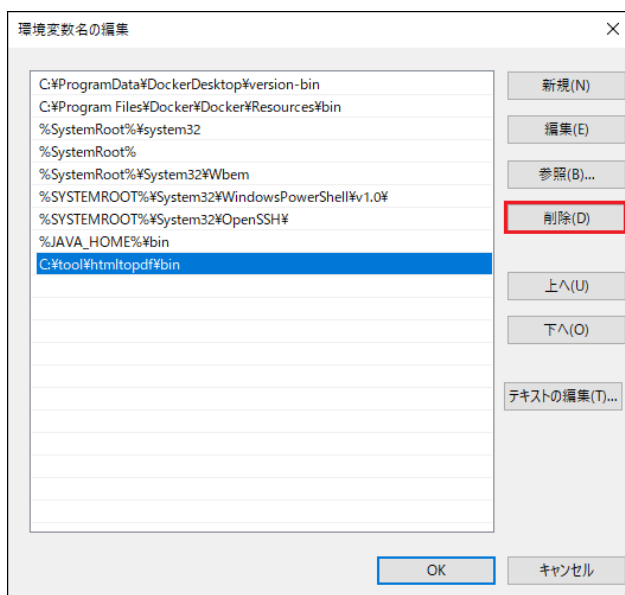
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



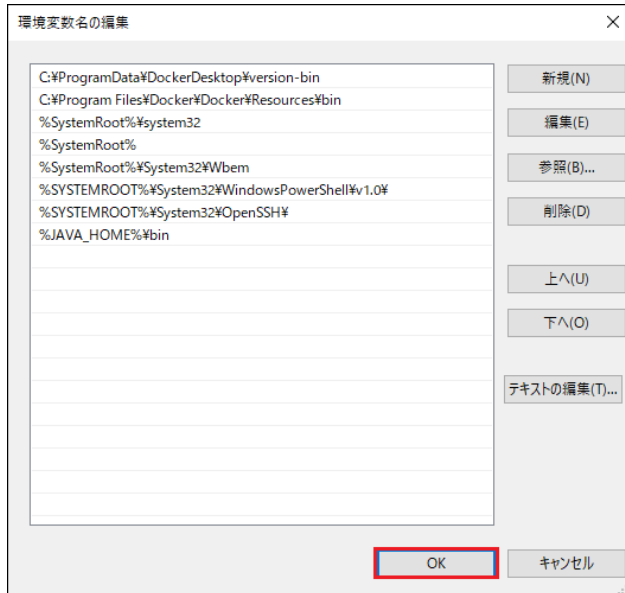
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」 - 「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



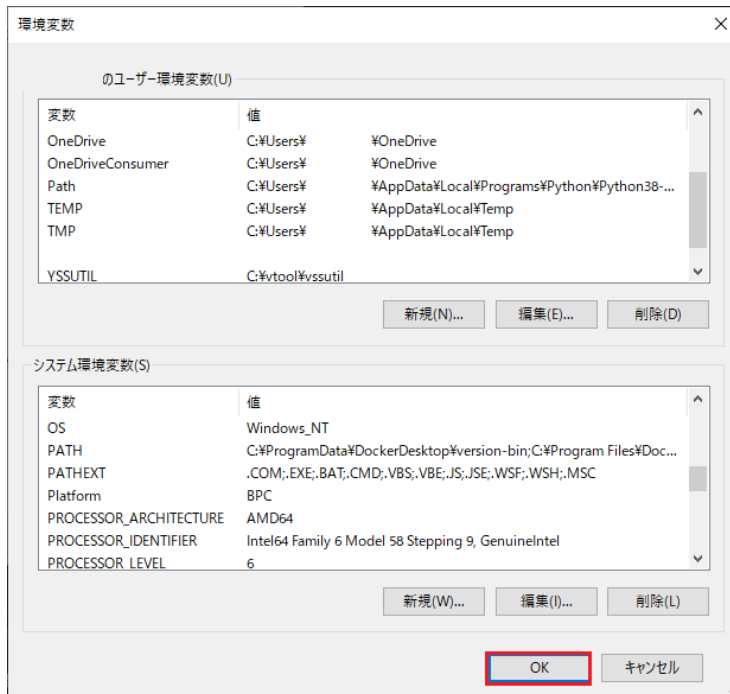
4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >のパスを選択し、「削除」をクリックします。



5. 「OK」をクリックします。



6. 「OK」をクリックします。



WARファイルの削除

WARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル< htmltopdf.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
3. HTML→PDF変換 のWARファイルと同名のディレクトリ< htmltopdf >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
4. Apache Tomcat を再起動させます。

Linux の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

項目

- 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール
- 環境変数の削除
- WARファイルの削除
- デスクトップ環境のアンインストール

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしたディレクトリ < %HTMLTOPDF_HOME% > をディレクトリごと削除します。
< %HTMLTOPDF_HOME% > を < /usr/local/htmltopdf/ > として説明します。

```
$ rm -r /usr/local/htmltopdf/
```

2. UPower が不要な場合は、アンインストールを行ってください。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum remove gobject-introspection libgudev
$ rpm -e upower-0.99.11-11.el9.x86_64
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

3. Xvfb が不要な場合は、アンインストールを行ってください。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ killall Xvfb
$ yum remove -y xorg-x11-server-Xvfb
```



注意

Wayland 環境の場合、手順は不要です。

4. セットアップ時にインストールしたフォントが不要な場合は、アンインストールを行ってください。

環境変数の削除

Linux でのセットアップ時に追記した次の環境変数の記述を削除してください。

- セットアップ時の手順
 - スタンドアローン構成 : 「[環境変数](#)」
 - 分散構成 : 「[環境変数](#)」
- 削除対象の環境変数
 - 連携エンジン HTMLtoPDF のパスに関する環境変数
 - 連携エンジン HTMLtoPDF 用のディスプレイの環境変数



注意

Wayland 環境の場合、ディスプレイの環境変数の削除は不要です。

WARファイルの削除

WARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル < htmltopdf.war > を、 < %CATALINA_HOME%/webapps > から削除します。

```
$ rm %CATALINA_HOME%/webapps/htmltopdf.war
```

3. HTML→PDF変換 のWARファイルと同名のディレクトリ < htmltopdf > を、 < %CATALINA_HOME%/webapps > から削除します。

```
$ rm -r %CATALINA_HOME%/webapps/htmltopdf
```

4. Apache Tomcat を再起動させます。

デスクトップ環境のアンインストール

Linux でのデスクトップ環境のアンインストール手順を示します。

デスクトップ環境が不要な場合は、アンインストールを行ってください。

**注意**

Xvfb 環境の場合、手順は不要です。

1. CLI環境に切り替えます。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ systemctl set-default multi-user.target
```

2. サーバを再起動します。

3. グループ一覧を表示し、「Minimal Install（日本語環境では「最小限のインストール」）」がインストール済みか確認します。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum grouplist
```

インストールしていない場合はインストールします。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum group install -y "Minimal Install"
```

4. セットアップ時にインストールしたGUI関連パッケージを削除します。

コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum group remove -y "Server with GUI"
```

連携エンジン PDFコンバータXP のアンインストール

連携エンジン PDFコンバータXP のアンインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」-「5章. アンインストール」に沿って、アンインストールしてください。
3. PDF変換サーバを再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール

連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール手順を示します。

項目

- [連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール](#)
- [環境変数の削除](#)
- [JARファイルの削除](#)
- [WARファイルの削除](#)

連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール

連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバに管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」-「15章. アンインストールの方法」に沿って、アンインストールしてください。
3. PDF変換サーバを再起動してください。

環境変数の削除

Windows での 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数の削除手順を示します。

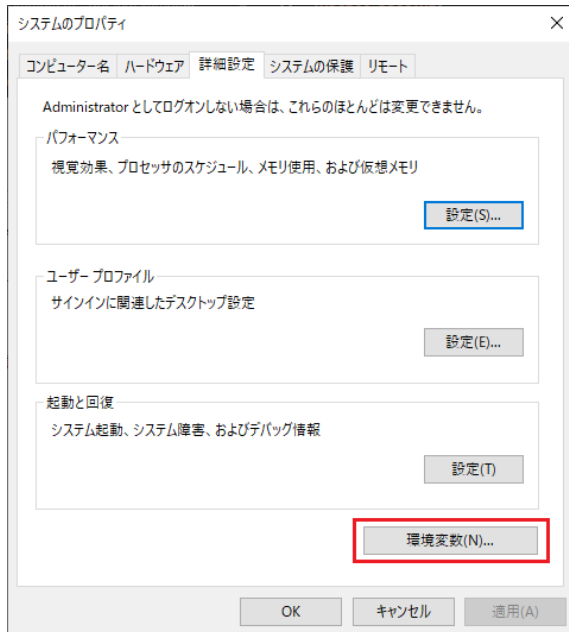
1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」-「システムの詳細設定」をクリックします。



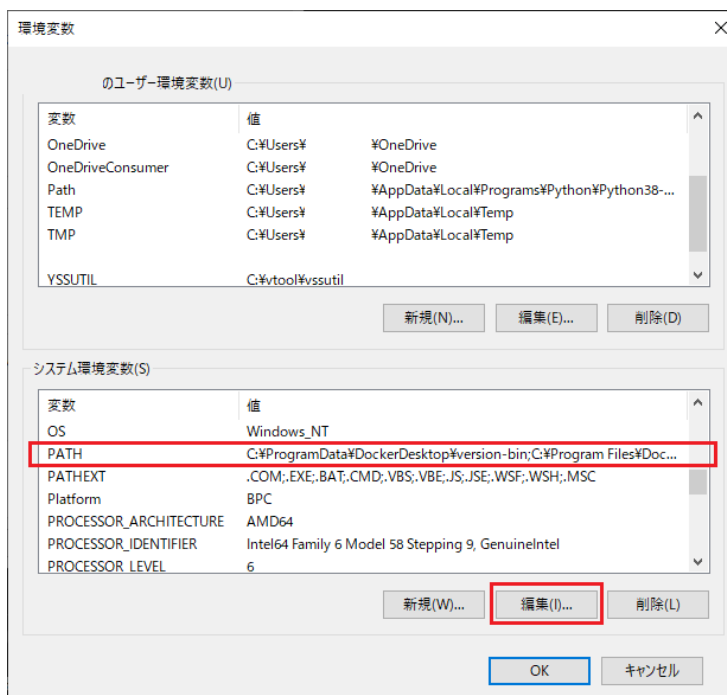
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

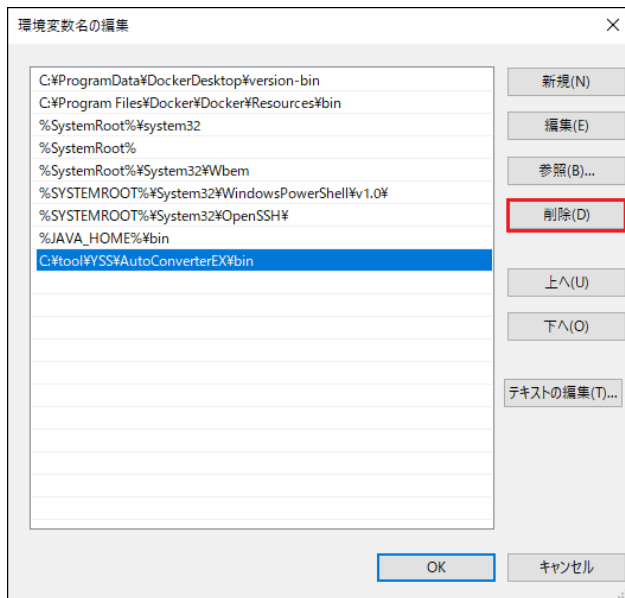
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



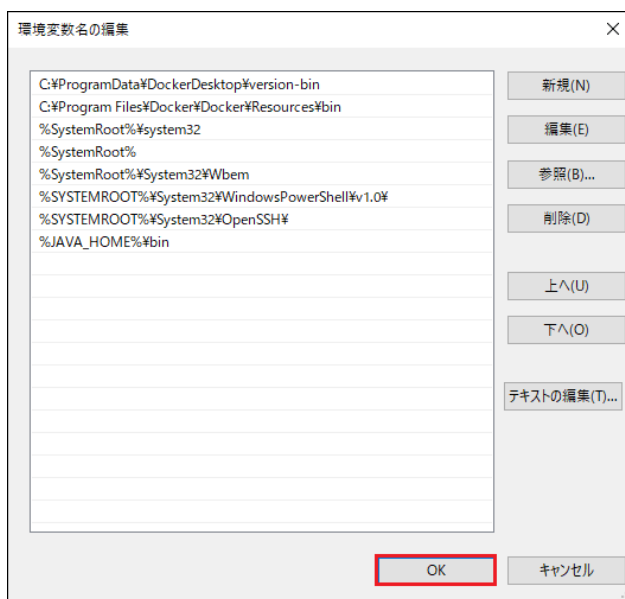
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



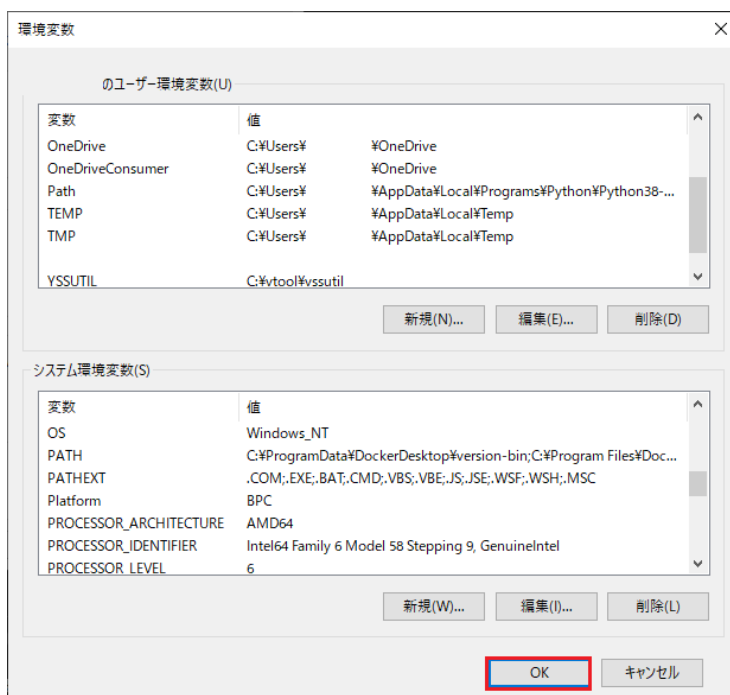
4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、< % PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ%bin >のパスを選択し、「削除」をクリックします。



5. 「OK」をクリックします。



6. 「OK」をクリックします。



JARファイルの削除

連携エンジン PDFオートコンバータEX のJARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のJARファイル< autoex.jar >を、< %CATALINA_HOME%/lib >から削除します。
3. Apache Tomcat を再起動させます。

WARファイルの削除

連携エンジン PDFオートコンバータEX のWARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のWARファイル< axis2.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
3. PDFオートコンバータEX のWARファイルと同名のディレクトリ< axis2 >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
4. Apache Tomcat を再起動させます。



注意

対象の連携エンジンをインストールしていない場合、手順は不要です。

ミドルウェアのアンインストール

Apache Tomcat のアンインストール

JDK のアンインストール

JDK が不要な場合は、アンインストールを行ってください。



コラム

アンインストールの手順については、次のサイトを参照してください。

<https://www.oracle.com/java/technologies/downloads/>（2026年 10月 現在）

Apache Tomcat のアンインストール

Apache Tomcat が不要な場合は、アンインストールを行ってください。



コラム

アンインストールの手順については、次のサイトを参照してください。

<http://tomcat.apache.org/>（2026年 10月 現在）



注意

「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「アンインストール」と併せて手順を確認してください。

WSDLファイル

以下に WSDL ファイルを記載します。ご利用ください。

```

1  <wsdl:definitions xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/" xmlns:ns1="http://org.apache.axis2/xsd"
2  xmlns:ns="http://service.soap.autoconverterex.yss" xmlns:wsaw="http://www.w3.org/2006/05/addressing/wsdl"
3  xmlns:http="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/http/" xmlns:ax21="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd"
4  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:mime="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/mime/"
5  xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/" xmlns:soap12="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap12/"
6  targetNamespace="http://service.soap.autoconverterex.yss">
7  <wsdl:documentation>PDFAutoEXService</wsdl:documentation>
8  <wsdl:types>
9  <xs:schema attributeFormDefault="qualified" elementFormDefault="qualified"
10 targetNamespace="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd">
11 <xs:complexType name="AutoExConfig">
12 <xs:sequence>
13 <xs:element minOccurs="0" name="befTimeoutSec" type="xs:int"/>
14 <xs:element minOccurs="0" name="docInfAndSecurity" nillable="true" type="xs:string"/>
15 <xs:element minOccurs="0" name="docInfByName" nillable="true" type="xs:string"/>
16 <xs:element minOccurs="0" name="docInfo" nillable="true" type="ax21:DocInfo"/>
17 <xs:element minOccurs="0" name="fastWebView" type="xs:boolean"/>
18 <xs:element minOccurs="0" name="folderName" nillable="true" type="xs:string"/>
19 <xs:element minOccurs="0" name="overWrite" type="xs:boolean"/>
20 <xs:element minOccurs="0" name="printerName" nillable="true" type="xs:string"/>
21 <xs:element minOccurs="0" name="securityByName" nillable="true" type="xs:string"/>
22 <xs:element minOccurs="0" name="stampName" nillable="true" type="xs:string"/>
23 <xs:element minOccurs="0" name="timeoutSec" type="xs:int"/>
24 <xs:element minOccurs="0" name="transTimeoutMSec" type="xs:int"/>
25 <xs:element minOccurs="0" name="sec128" nillable="true" type="ax21:Security128"/>
26 <xs:element minOccurs="0" name="sec40" nillable="true" type="ax21:Security40"/>
27 <xs:element minOccurs="0" name="secType" type="xs:int"/>
28 <xs:element minOccurs="0" name="srcFileSuffix" nillable="true" type="xs:string"/>
29 <xs:element minOccurs="0" name="srcfile" nillable="true" type="xs:base64Binary"/>
30 </xs:sequence>
31 </xs:complexType>
32 <xs:complexType name="DocInfo">
33 <xs:sequence>
34 <xs:element minOccurs="0" name="app" nillable="true" type="xs:string"/>
35 <xs:element minOccurs="0" name="creator" nillable="true" type="xs:string"/>
36 <xs:element minOccurs="0" name="keyword" nillable="true" type="xs:string"/>
37 <xs:element minOccurs="0" name="subTitle" nillable="true" type="xs:string"/>
38 <xs:element minOccurs="0" name="title" nillable="true" type="xs:string"/>
39 </xs:sequence>
40 </xs:complexType>
41 <xs:complexType name="Security128">
42 <xs:sequence>
43 <xs:element minOccurs="0" name="acc" type="xs:int"/>
44 <xs:element minOccurs="0" name="change" type="xs:int"/>
45 <xs:element minOccurs="0" name="copy" type="xs:int"/>
46 <xs:element minOccurs="0" name="openPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
47 <xs:element minOccurs="0" name="print" type="xs:int"/>
48 <xs:element minOccurs="0" name="securityPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
49 </xs:sequence>
50 </xs:complexType>
51 <xs:complexType name="Security40">
52 <xs:sequence>
53 <xs:element minOccurs="0" name="noAddNote" type="xs:boolean"/>
54 <xs:element minOccurs="0" name="noCopy" type="xs:boolean"/>
55 <xs:element minOccurs="0" name="noEdit" type="xs:boolean"/>
56 <xs:element minOccurs="0" name="noPrint" type="xs:boolean"/>
57 <xs:element minOccurs="0" name="openPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
58 <xs:element minOccurs="0" name="securityPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
59 </xs:sequence>
60 </xs:complexType>
61 <xs:complexType name="AutoExResponse">
62 <xs:sequence>
63 <xs:element minOccurs="0" name="callException" type="xs:boolean"/>
64 <xs:element minOccurs="0" name="errormess" nillable="true" type="xs:string"/>
65 <xs:element minOccurs="0" name="res" nillable="true" type="xs:base64Binary"/>
66 <xs:element minOccurs="0" name="templID" type="xs:long"/>
67 </xs:sequence>
68 </xs:complexType>
69 </xs:schema>
70 <xs:schema xmlns:ax22="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd" attributeFormDefault="qualified"
71 elementFormDefault="qualified" targetNamespace="http://service.soap.autoconverterex.yss">
72 <xs:import namespace="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd"/>
73 <xs:element name="clearPDFAutoConverterEX">
74 <xs:complexType>

```

```

75 <xs:sequence>
76 <xs:element minOccurs="0" name="tempID" type="xs:long"/>
77 </xs:sequence>
78 </xs:complexType>
79 </xs:element>
80 <xs:element name="clearPDFAutoConverterEXResponse">
81 <xs:complexType>
82 <xs:sequence>
83 <xs:element minOccurs="0" name="return" type="xs:boolean"/>
84 </xs:sequence>
85 </xs:complexType>
86 </xs:element>
87 <xs:element name="isPDFAutoConverterEXResponse">
88 <xs:complexType>
89 <xs:sequence>
90 <xs:element minOccurs="0" name="return" type="xs:boolean"/>
91 </xs:sequence>
92 </xs:complexType>
93 </xs:element>
94 <xs:element name="cnvPDFAutoConverterEX">
95 <xs:complexType>
96 <xs:sequence>
97 <xs:element minOccurs="0" name="autoexconf" nillable="true" type="ax22:AutoExConfig"/>
98 </xs:sequence>
99 </xs:complexType>
100 </xs:element>
101 <xs:element name="cnvPDFAutoConverterEXResponse">
102 <xs:complexType>
103 <xs:sequence>
104 <xs:element minOccurs="0" name="return" nillable="true" type="ax22:AutoExResponse"/>
105 </xs:sequence>
106 </xs:complexType>
107 </xs:element>
108 </xs:schema>
109 </wsdl:types>
110 <wsdl:message name="clearPDFAutoConverterEXRequest">
111 <wsdl:part name="parameters" element="ns:clearPDFAutoConverterEX"/>
112 </wsdl:message>
113 <wsdl:message name="clearPDFAutoConverterEXResponse">
114 <wsdl:part name="parameters" element="ns:clearPDFAutoConverterEXResponse"/>
115 </wsdl:message>
116 <wsdl:message name="cnvPDFAutoConverterEXRequest">
117 <wsdl:part name="parameters" element="ns:cnvPDFAutoConverterEX"/>
118 </wsdl:message>
119 <wsdl:message name="cnvPDFAutoConverterEXResponse">
120 <wsdl:part name="parameters" element="ns:cnvPDFAutoConverterEXResponse"/>
121 </wsdl:message>
122 <wsdl:message name="isPDFAutoConverterEXRequest"/>
123 <wsdl:message name="isPDFAutoConverterEXResponse">
124 <wsdl:part name="parameters" element="ns:isPDFAutoConverterEXResponse"/>
125 </wsdl:message>
126 <wsdl:portType name="PDFAutoEXServicePortType">
127 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
128 <wsdl:input message="ns:clearPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:clearPDFAutoConverterEX"/>
129 <wsdl:output message="ns:clearPDFAutoConverterEXResponse" wsaw:Action="urn:clearPDFAutoConverterEXResponse"/>
130 </wsdl:operation>
131 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
132 <wsdl:input message="ns:cnvPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:cnvPDFAutoConverterEX"/>
133 <wsdl:output message="ns:cnvPDFAutoConverterEXResponse" wsaw:Action="urn:cnvPDFAutoConverterEXResponse"/>
134 </wsdl:operation>
135 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
136 <wsdl:input message="ns:isPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:isPDFAutoConverterEX"/>
137 <wsdl:output message="ns:isPDFAutoConverterEXResponse" wsaw:Action="urn:isPDFAutoConverterEXResponse"/>
138 </wsdl:operation>
139 </wsdl:portType>
140 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceSoap11Binding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
141 <soap:binding transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http" style="document"/>
142 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
143 <soap:operation soapAction="urn:clearPDFAutoConverterEX" style="document"/>
144 <wsdl:input>
145 <soap:body use="literal"/>
146 </wsdl:input>
147 <wsdl:output>
148 <soap:body use="literal"/>

```

```

149 </wsdl:output>
150 </wsdl:operation>
151 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
152 <soap:operation soapAction="urn:cnvPDFAutoConverterEX" style="document"/>
153 <wsdl:input>
154 <soap:body use="literal"/>
155 </wsdl:input>
156 <wsdl:output>
157 <soap:body use="literal"/>
158 </wsdl:output>
159 </wsdl:operation>
160 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
161 <soap:operation soapAction="urn:isPDFAutoConverterEX" style="document"/>
162 <wsdl:input>
163 <soap:body use="literal"/>
164 </wsdl:input>
165 <wsdl:output>
166 <soap:body use="literal"/>
167 </wsdl:output>
168 </wsdl:operation>
169 </wsdl:binding>
170 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceSoap12Binding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
171 <soap12:binding transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http" style="document"/>
172 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
173 <soap12:operation soapAction="urn:clearPDFAutoConverterEX" style="document"/>
174 <wsdl:input>
175 <soap12:body use="literal"/>
176 </wsdl:input>
177 <wsdl:output>
178 <soap12:body use="literal"/>
179 </wsdl:output>
180 </wsdl:operation>
181 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
182 <soap12:operation soapAction="urn:cnvPDFAutoConverterEX" style="document"/>
183 <wsdl:input>
184 <soap12:body use="literal"/>
185 </wsdl:input>
186 <wsdl:output>
187 <soap12:body use="literal"/>
188 </wsdl:output>
189 </wsdl:operation>
190 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
191 <soap12:operation soapAction="urn:isPDFAutoConverterEX" style="document"/>
192 <wsdl:input>
193 <soap12:body use="literal"/>
194 </wsdl:input>
195 <wsdl:output>
196 <soap12:body use="literal"/>
197 </wsdl:output>
198 </wsdl:operation>
199 </wsdl:binding>
200 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceHttpBinding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
201 <http:binding verb="POST"/>
202 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
203 <http:operation location="PDFAutoEXService/clearPDFAutoConverterEX"/>
204 <wsdl:input>
205 <mime:content type="text/xml" part="clearPDFAutoConverterEX"/>
206 </wsdl:input>
207 <wsdl:output>
208 <mime:content type="text/xml" part="clearPDFAutoConverterEX"/>
209 </wsdl:output>
210 </wsdl:operation>
211 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
212 <http:operation location="PDFAutoEXService/cnvPDFAutoConverterEX"/>
213 <wsdl:input>
214 <mime:content type="text/xml" part="cnvPDFAutoConverterEX"/>
215 </wsdl:input>
216 <wsdl:output>
217 <mime:content type="text/xml" part="cnvPDFAutoConverterEX"/>
218 </wsdl:output>
219 </wsdl:operation>
220 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
221 <http:operation location="PDFAutoEXService/isPDFAutoConverterEX"/>
222 <wsdl:input>
223 <mime:content type="text/xml" part="isPDFAutoConverterEX"/>

```

```

223 </mime:content type="text/xml" part="isPDFAutoConverterEX"/>
224 </wsdl:input>
225 <wsdl:output>
226 <mime:content type="text/xml" part="isPDFAutoConverterEX"/>
227 </wsdl:output>
228 </wsdl:operation>
229 </wsdl:binding>
230 <wsdl:service name="PDFAutoEXService">
231 <wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpSoap11Endpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceSoap11Binding">
232 <soap:address
233 location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpSoap11Endpoint/" />
234 </wsdl:port>
<wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpSoap12Endpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceSoap12Binding">
<soap12:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpSoap12Endpoint/" />
</wsdl:port>
<wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpEndpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceHttpBinding">
<http:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpEndpoint/" />
</wsdl:port>
</wsdl:service>
</wsdl:definitions>

```

連携エンジンバージョン



注意

次のバージョンは、必ず正しい組み合わせで運用してください。異なる組み合わせはサポート対象外です。

- intra-mart Accel Platform のバージョン
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のバージョン
- 連携エンジンのバージョン



注意

最新シーズンでの組み合わせが記載されていない場合、記載されている組み合わせの最新バージョンと同一です。

- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2026 Autumn](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2026 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Autumn](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Autumn](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Autumn](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2015 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2013 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2012 Winter](#)

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2026 Autumn

連携エンジン		HTML→PDF変換
Office系→PDF変換		
PDFコンバータXP 7.0.6	PDFオートコンバータEX 5.0.3.1	HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版
		HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2026 Spring

連携エンジン		HTML→PDF変換
Office系→PDF変換		
PDFコンバータXP 7.0.6	PDFオートコンバータEX 5.0.2	HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版
		HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Autumn

連携エンジン		HTML→PDF変換
Office系→PDF変換		

連携エンジン

Office系→PDF変換

HTML→PDF変換

PDFコンバータXP 7.0.5

PDFオートコンバータEX 5.0.2

HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版

HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring

連携エンジン

Office系→PDF変換

HTML→PDF変換

PDFコンバータXP 7.0.3

PDFオートコンバータEX 5.0.1

HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版

HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Autumn

連携エンジン

Office系→PDF変換

HTML→PDF変換

PDFコンバータXP 6.1.6

PDFオートコンバータEX 4.1.0

HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版

HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.1.6

PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Autumn

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.1.3

PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.1.3

PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.1.3

PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.1.1

PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.1.1

PDFオートコンバータEX 4.1.0

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.1.0	PDFオートコンバータEX 4.1.0
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Summer

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.1	PDFオートコンバータEX 4.0.1
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Summer

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.1	PDFオートコンバータEX 4.0.1
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.8.1	PDFオートコンバータEX 3.6.4
--------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.8.1	PDFオートコンバータEX 3.6.4
--------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.7	PDFオートコンバータEX 3.6.3.2
------------------	-----------------------

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.7	PDFオートコンバータEX 3.6.3.2
------------------	-----------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Summer

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.7.2	PDFオートコンバータEX 3.6.3
--------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.6	PDFオートコンバータEX 3.5.0
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.5	PDFオートコンバータEX 3.4.2
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.3	PDFオートコンバータEX 3.4.0
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2015 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.0.1	PDFオートコンバータEX 3.1.1
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.0.0	PDFオートコンバータEX 3.0.1
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.0.0 b9	PDFオートコンバータEX 3.0.1
---------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2013 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 4.4.8	PDFオートコンバータEX 2.6.0
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2012 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 4.4.3	PDFオートコンバータEX 2.3.5
------------------	---------------------

連携エンジンのバージョンの確認手順を示します。

- [連携エンジン HTMLtoPDF](#)
 - [Windows の場合](#)
 - [Linux の場合](#)
- [連携エンジン PDFオートコンバータEX](#)
- [連携エンジン PDFコンバータXP](#)

連携エンジン HTMLtoPDF

Windows の場合

1. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
$ htmltopdf -v
```

2. 連携エンジン HTMLtoPDF のバージョンが表示されます。

```
$ htmltopdf 64Bit Vx.x.x.x
```



コラム

バージョンが表示されない場合、< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >配下にて上記コマンドを実行してください。

Linux の場合

1. シェル変数に次の値を設定します。

変数名	値
HTMLTOPDF	< %HTMLTOPDF_HOME% >
PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /bin >
LD_LIBRARY_PATH	< %HTMLTOPDF_HOME% /lib >

2. ターミナルを起動し、次のコマンドを実行します。

```
$ htmltopdf -v
```

3. 連携エンジン HTMLtoPDF のバージョンが表示されます。

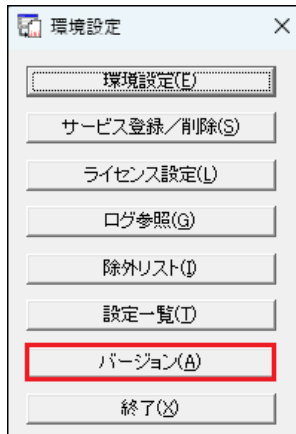
```
$ htmltopdf Linux Vx.x.x.x
```

連携エンジン PDFオートコンバータEX

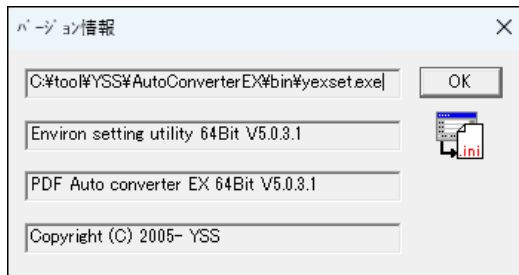
1. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
> yexset
```

2. 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定画面が表示されるため、「バージョン」をクリックします。



3. 連携エンジン PDFオートコンバータEX のバージョン情報が表示されます。



コラム

上記コマンドで環境設定画面が表示されない場合、「スタート」からアプリの一覧を表示し、「YSS Auto Converter EX」-「環境設定」をクリックしてください。

連携エンジン PDFコンバータXP

「コントロールパネル」-「プログラム」-「プログラムと機能」から、「YSS PDF Converter Vx.x.x xxbit」に含まれているバージョンを確認します。

